

2019年度

履修案内 慶應義塾大学大学院理工学研究科

(矢上キャンパス)

Graduate School of Science and Technology KEIO UNIVERSITY 2019

目 次

理工学研究科役職者	1
はじめに（学生課開室時間／振鈴表／掲示板）	2
2019年度 学事日程	3
2019年度 授業実施カレンダー（春学期／秋学期）	4
学籍（休学・退学・留学・就学）	6
休学／退学／留学／就学／注意事項	
留学・休学の取扱いについて	
学生証・諸届・証明書	8
欠席届	
学生証	
住所変更（本人・保証人）／保証人変更／改姓・改名／国籍変更	
通学区間の変更	
学外研究・学会活動届	
証明書一覧	
Web システム	11
塾生向けサイト「塾生の皆様へ」	
keio.jp	
学事 Web システム	
Web エントリーシステム	
理工学部・理工学研究科FD授業アンケートシステム	
Web システム操作上の注意	
パスワード再発行	
学生生活担当	14
奨学金制度	
福利厚生	
課外活動	
学生生活	
学生相談室	
就職・進路	
国際担当	17
各種窓口について	18
理工学メディアセンター	
理工学 ITC	
総務課	
用度課	
保健管理センター	
矢上診療所	
履修・授業・成績	21
履修申告日程／注意点	
履修登録取消	
緊急時における授業の取扱い	
早慶野球戦時における授業の取扱い	
三田祭期間中の授業	
裁判员候補者に選定された場合の取扱い	
成績（成績評語／GPA／学業成績表／Web 閲覧／学業成績証明書）	

試験	25
試験／追加試験／レポート	
前期博士課程（修士課程）	28
適用学則について	
カリキュラム構成	
修了要件	
指導教員	
単位認定／「国外研究」科目の単位認定	
学位／学位論文提出スケジュール／2019年度修士論文提出書式	
後期博士課程	35
修了要件	
指導教員	
履修	
在学期間および在学に関する届出（修了予定報告／在学期間延長／所定単位取得退学）	
博士学位申請手続き	
博士学位審査／修了要件（基礎理工学専攻・総合デザイン工学専攻・開放環境科学専攻）	
学位／学位が授与された後の博士学位論文	
履修要項	39
登録番号・分野・履修申告欄（A欄B欄）	
修士課程修了に必要な単位数と指定科目群	
主専門一覧	
副専門一覧	
B欄分野表 修士課程	
分野一覧 修士課程	
分野一覧 博士課程	
新旧科目対照表 修士課程	
2019年度 先端科学技術国際コース科目	
他研究科学生の履修を制限する科目（大学院）	
講義科目一覧	55
修士課程	
後期博士課程	
その他	80
学外特別研修（インターンシップ）	
一級建築士試験に関する実務試験認定カリキュラム	
電気主任技術者免状取得について	
国際センター短期海外研修プログラム	
グローバルリサーチインスティテュート（KGRI）設置講座	
関係規程抜粋	87
塾生、保護者・保証人の方々にかかわる個人情報の取扱い	94

理工学研究科役職者

理工学研究科委員長	教 授	岡田 英史
理工学研究科学習指導主任	教 授	村上 俊之
専攻長		
基礎理工学専攻	教 授	高野 宏
総合デザイン工学専攻	教 授	磯部 徹彦
開放環境科学専攻	教 授	天野 英晴
専修主任		
基礎理工学専攻		
数理科学専修	教 授	井口 達雄
物理学専修	教 授	大橋 洋士
分子化学専修	教 授	近藤 寛
物理情報専修	教 授	田中 敏幸
生物化学専修	教 授	清水 史郎
生命システム情報専修	教 授	宮本 憲二
総合デザイン工学専攻		
マルチメディア・リテラシー・デザイン科学専修	教 授	杉浦 壽彦
システム統合工学専修	教 授	滑川 徹
電気電子工学専修	教 授	石黒 仁揮
マテリアルデザイン科学専修	教 授	片山 靖
開放環境科学専攻		
空間・環境デザイン工学専修	教 授	三田 彰
環境エネルギー科学専修	教 授	堀田 篤
応用力学・計算力学専修	教 授	深淵 康二
情報工学専修	教 授	遠山 元道
オープンシステムマネジメント専修	教 授	大門 樹
学習指導副主任		
基礎理工学専攻		
数理科学専修	教 授	種村 秀紀
物理学専修	教 授	齊藤 圭司
分子化学専修	准 教授	羽曾部 卓
物理情報専修	准 教授	星野 一生
生物化学専修	准 教授	高橋 大介
生命システム情報専修	教 授	榊原 康文
総合デザイン工学専攻		
マルチメディア・リテラシー・デザイン科学専修	専任講師	加藤 健郎
システム統合工学専修	教 授	柿沼 康弘
電気電子工学専修	教 授	田邊 孝純
マテリアルデザイン科学専修	専任講師	山本 崇史
開放環境科学専攻		
空間・環境デザイン工学専修	教 授	岸本 達也
環境エネルギー科学専修	准 教授	奥田 知明
応用力学・計算力学専修	准 教授	安藤 景太
情報工学専修	教 授	大槻 知明
オープンシステムマネジメント専修	准 教授	志田 敬介
総合科目担当	准 教授	木下 岳司
外国人留学生担当	教 授	小國 健二
教職担当	教 授	厚地 淳

はじめに

1. 学生課開室時間

事務室		主な業務	事務取扱時間	場所
学生課	学事担当	履修・授業・成績・教職課程	月～金 8:45～16:45 ※授業・定期試験期間外は 昼休み11:30～12:30閉室	25棟 1階
	学生生活担当	就職・進路・学生生活・奨学金・学生 健保		
	国際担当	留学		
	総合受付	諸届・教室貸出・遺失物取扱・博士学 位論文申請・証明書申請		

2. 振鈴表

時限	授業期間	定期試験期間	
	矢上・日吉	矢上	日吉
第1時限	9:00～10:30	9:00～10:30	9:30～10:30
第2時限	10:45～12:15	10:45～12:15	10:50～11:50
第3時限	13:00～14:30	13:00～14:30	12:50～13:50
第4時限	14:45～16:15	14:45～16:15	14:10～15:10
第5時限	16:30～18:00	16:30～18:00	15:30～16:30
第6時限	18:10～19:40	18:10～19:40	16:50～17:50

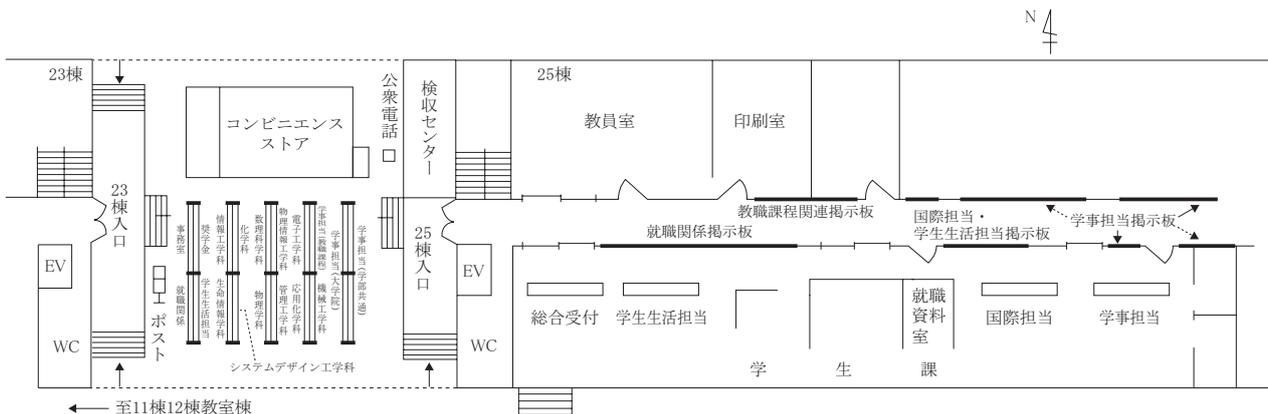
3. 掲示板

学生課掲示板は、学生課前廊下および24棟 1階ピロティに設置しています。掲示板は、学事担当（学部・大学院）、各学科（学部）、学生生活、奨学金、就職関係、国際担当と分かれていますので、機会があるごとに掲示に注意してください。なお、各専攻（大学院）の掲示板は、創想館3階に設置されています。

<主な掲示内容>

学事担当：休講、補講、時間割の変更、教室の変更、授業に直接関係のある緊急連絡、各種試験の実施要項、学事日程、呼出しなど。

学生生活担当：課外活動、課外教養案内、伝達通知、奨学金関係通知、学内セミナーなどの就職関係。



なお、掲示内容の一部については、学事 Web システム、塾生向けサイト、理工学研究科 Web サイトでも確認できます。学事 Web システム（休講・補講情報等）については p.12を参照してください。

「慶應義塾トップページ」→「在学生」→「塾生向けサイト」

「理工学部・理工学研究科トップページ」→「在学生」→「授業・履修・試験」/「学生生活・奨学金」/「キャリア支援」

2019年度 学事日程

	行 事	月 日	
春学期	入学式	4月1日 (月)	
	ガイダンス	4月2日 (火)	
	授業開始	4月6日 (土)	
	履修申告期間	4月10日 (水) 13:00~13日 (土) 13:00	
	開校記念日 *授業実施日	4月23日 (火)	
	定期健康診断	4月24日 (水) ~26日 (金)	
	こどもの日振替休日 *授業実施日	5月6日 (月)	
	履修申告修正期間	5月7日 (火) 10:00~8日 (水) 16:45	
	通年・春学期・春学期前半科目 Web 履修登録取消期間	5月15日 (水) 10:00~16日 (木) 16:45	
	春学期休学願提出期限	5月31日 (金)	
	学期前半科目定期試験	6月1日 (土)・3日 (月)	
	学期前半科目追加試験	6月上旬~中旬	
	学期後半科目授業開始	6月4日 (火)	
	理工学部創立記念日 *授業実施日	6月17日 (月)	
	学期前半科目成績公開	6月20日 (木)	
	春学期後半科目 Web 履修登録取消期間	6月24日 (月) 10:00~25日 (火) 16:45	
	海の日 *授業実施日	7月15日 (月)	
	補講	7月23日 (火)	
	春学期末定期試験期間	7月24日 (水) ~8月1日 (木)	
	夏季休校期間	8月2日 (金) ~9月21日 (土)	
	春学期末追加試験期間	8月6日 (火)・7日 (水) (予定)	
	春学期学業成績表送付 (本人宛)・Web 成績発表	9月5日 (木)	
	修了決定者公示 (9月修了)	9月5日 (木)	
	9月学位授与式	9月17日 (火)	
	秋学期	9月入学式	9月18日 (水)
		ガイダンス (新入生対象)	9月20日 (金)
授業開始		9月23日 (月)	
秋分の日 *授業実施日		9月23日 (月)	
履修申告期間		9月26日 (木) 13:00~10月1日 (火) 11:00	
履修申告修正期間		10月9日 (水)・10日 (木)	
矢上祭		10月12日 (土)~13日 (日)	
秋学期・秋学期前半科目 Web 履修登録取消期間		10月24日 (木) 10:00~25日 (金) 16:45	
文化の日振替休日 *授業実施日		11月4日 (月)	
補講		11月13日 (水)	
学期前半科目定期試験		11月14日 (木)・11月19日 (火)	
学期前半科目追加試験		11月下旬	
学期後半科目授業開始		11月15日 (金)	
三田祭期間		前半期末試験	11月19日 (火)
		通常授業	11月20日 (水)
		休講	11月21日 (木) ~23日 (土)
		通常授業	11月25日 (月)
通年・秋学期休学願提出期限		11月29日 (金)	
学期前半科目成績公開		12月6日 (金)	
秋学期後半科目 Web 履修登録取消期間		12月12日 (木) 10:00~13日 (金) 16:45	
冬季休校期間		12月28日 (土) ~1月4日 (土)	
授業開始		1月6日 (月)	
福澤先生誕生記念日 *休校日		1月10日 (金)	
補講		1月21日 (火)	
秋学期末定期試験期間		1月22日 (水) ~30日 (木)	
福澤先生命日		2月3日 (月)	
秋学期末追加試験期間		2月6日 (木)・7日 (金) (予定)	
秋学期学業成績表送付 (本人宛)・Web 成績発表		3月10日 (火)	
修了決定者公示 (3月修了)		3月10日 (火)	
藤原先生命日		3月17日 (火)	
学位授与式	3月26日 (木)		

2019年度 春学期 理工学研究科 授業実施カレンダー

①-⑭ / ⑮ : 2学期制の春・秋学期の回数

①-⑭ : 4学期制の春学期前半・秋学期前半の回数、(1)-(14) / (16) : 4学期制の春学期後半・秋学期後半の回数

※理工学研究科は早慶戦の有無にかかわらず、授業を行います。

	日	月	火	水	木	金	土
4月		1	2	3	4	5	6
		院入学式	ガイダンス				① ① ②
	7	8	9	10	11	12	13
	① ① ②	① ① ②	① ① ②	① ① ②	① ① ②	履修申告	② ③ ④
	14	15	16	17	18	19	20
	② ③ ④	② ③ ④	② ③ ④	② ③ ④	② ③ ④	② ③ ④	③ ⑤ ⑥
21	22	23	24	25	26	27	
		開校記念日					
③ ⑤ ⑥	③ ⑤ ⑥	③ ⑤ ⑥	③ ⑤ ⑥	③ ⑤ ⑥	③ ⑤ ⑥	④ ⑦ ⑧	
28	29	30					
	昭和の日						
5月				1	2	3	4
						憲法記念日	みどりの日
	5	6	7	8	9	10	11
	振替休日		④ ⑦ ⑧	④ ⑦ ⑧	④ ⑦ ⑧	④ ⑦ ⑧	⑤ ⑨ ⑩
	こどもの日		④ ⑦ ⑧	④ ⑦ ⑧	④ ⑦ ⑧	④ ⑦ ⑧	⑤ ⑨ ⑩
	12	13	14	15	16	17	18
⑤ ⑨ ⑩	⑤ ⑨ ⑩	⑤ ⑨ ⑩	⑤ ⑨ ⑩	⑤ ⑨ ⑩	⑤ ⑨ ⑩	⑥ ⑪ ⑫	
19	20	21	22	23	24	25	
⑥ ⑪ ⑫	⑥ ⑪ ⑫	⑥ ⑪ ⑫	⑥ ⑪ ⑫	⑥ ⑪ ⑫	⑥ ⑪ ⑫	⑦ ⑬ ⑭	
26	27	28	29	30	31		
⑦ ⑬ ⑭	⑦ ⑬ ⑭	⑦ ⑬ ⑭	⑦ ⑬ ⑭	⑦ ⑬ ⑭	⑦ ⑬ ⑭		
6月							1
							試験日
	2	3	4	5	6	7	8
		試験日	⑧(1)(2)	⑧(1)(2)	⑧(1)(2)	⑧(1)(2)	⑧(1)(2)
	9	10	11	12	13	14	15
	⑧(1)(2)	⑨(3)(4)	⑨(3)(4)	⑨(3)(4)	⑨(3)(4)	⑨(3)(4)	⑨(3)(4)
16	17	18	19	20	21	22	
⑨(3)(4)	⑩(5)(6)	⑩(5)(6)	⑩(5)(6)	⑩(5)(6)	⑩(5)(6)	⑩(5)(6)	
23	24	25	26	27	28	29	
⑩(5)(6)	⑪(7)(8)	⑪(7)(8)	⑪(7)(8)	⑪(7)(8)	⑪(7)(8)	⑪(7)(8)	
30							

	日	月	火	水	木	金	土
7月		1	2	3	4	5	6
		⑪(7)(8)	⑫(9)(10)	⑫(9)(10)	⑫(9)(10)	⑫(9)(10)	⑫(9)(10)
	7	8	9	10	11	12	13
	⑫(9)(10)	⑬(11)(12)	⑬(11)(12)	⑬(11)(12)	⑬(11)(12)	⑬(11)(12)	⑬(11)(12)
	14	海の日	15	16	17	18	19
	⑬(11)(12)	⑭(13)(14)	⑭(13)(14)	⑭(13)(14)	⑭(13)(14)	⑭(13)(14)	⑭(13)(14)
21	22	23	24	25	26	27	
					試験日		
⑭(13)(14)	補講日						
28	29	30	31				
8月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	山の日	振替休日					
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30	31	

【授業時間帯】

- 1時限 9:00-10:30
- 2時限 10:45-12:15
- 3時限 13:00-14:30
- 4時限 14:45-16:15
- 5時限 16:30-18:00

【4学期制・春学期後半の授業開始日】

- 月曜: 6月10日(月)
- 火曜: 6月4日(火)
- 水曜: 6月5日(水)
- 木曜: 6月6日(木)
- 金曜: 6月7日(金)
- 土曜: 6月8日(土)

- 【休日の授業日】** 4月23日(火) (開校記念日)
 5月6日(月) (こどもの日振替休日)
 7月15日(月・祝) (海の日)

【補講日】 7月23日(火)

【春学期前半科目定期試験日】 6月1日(土)・3日(月)

【春学期後半科目 / 春学期科目学期末定期試験日】 7月24日(水)～8月1日(木)

2019年度 秋学期 理工学研究科 授業実施カレンダー

①-⑭ / ⑮ : 2学期制の春・秋学期の回数

①-⑭ : 4学期制の春学期前半・秋学期前半の回数、(1)-(14) / (16) : 4学期制の春学期後半・秋学期後半の回数

※理工学研究科は早慶戦の有無にかかわらず、授業を行います。

※以下の日程は理工学部と理工学研究科で取扱いが異なります。ご注意ください。

	11月19日 (火)	11月20日 (水)	11月25日 (月)
理工学部	(午前) 試験 (午後) 休講	休 講	休 講
理工学研究科	(午前・午後) 試験	通常授業	通常授業

	日	月	火	水	木	金	土
9月	1	2	3	4	5	6	7
					学部卒業の日		
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
		敬老の日	学位授与式	院入学式		ガイダンス	院修了の日
	22	秋分の日	23	24	25	26	27
	① ① ②	① ① ②	① ① ②	① ① ②	① ① ②	① ① ②	① ① ②
	29	30					
		② ③ ④					
10月			1	2	3	4	5
			② ③ ④	② ③ ④	② ③ ④	② ③ ④	② ③ ④
	6	7	8	9	10	11	12
		③ ⑤ ⑥	③ ⑤ ⑥	③ ⑤ ⑥	③ ⑤ ⑥	③ ⑤ ⑥	③ ⑤ ⑥
	13	14	15	16	17	18	19
		体育の日	④ ⑦ ⑧	④ ⑦ ⑧	④ ⑦ ⑧	④ ⑦ ⑧	④ ⑦ ⑧
20	21	22	23	24	25	26	
	④ ⑦ ⑧		⑤ ⑨ ⑩	⑤ ⑨ ⑩	⑤ ⑨ ⑩	⑤ ⑨ ⑩	
27	28	29	30	31			
		⑤ ⑨ ⑩	⑥ ⑪ ⑫	⑥ ⑪ ⑫			
11月						1	2
						⑥ ⑪ ⑫	⑥ ⑪ ⑫
	3	4	5	6	7	8	9
		振替休日					
	文化の日	⑥ ⑪ ⑫	⑥ ⑪ ⑫	⑦ ⑬ ⑭	⑦ ⑬ ⑭	⑦ ⑬ ⑭	⑦ ⑬ ⑭
	10	11	12	13	14	15	16
	⑦ ⑬ ⑭	⑦ ⑬ ⑭	補講日	試験日	⑧(1)(2)	⑧(1)(2)	
17	18	19	20	21	22	23	
	⑧(1)(2)	試験日	⑧(1)(2)		三田祭	勤労感謝の日	
24	25	26	27	28	29	30	
	⑨(3)(4)	⑧(1)(2)	⑨(3)(4)	⑧(1)(2)	⑨(3)(4)	⑨(3)(4)	
12月	1	2	3	4	5	6	7
		⑩(5)(6)	⑨(3)(4)	⑩(5)(6)	⑨(3)(4)	⑩(5)(6)	⑩(5)(6)
	8	9	10	11	12	13	14
		⑪(7)(8)	⑩(5)(6)	⑪(7)(8)	⑩(5)(6)	⑪(7)(8)	⑪(7)(8)
	15	16	17	18	19	20	21
		⑫(9)(10)	⑪(7)(8)	⑫(9)(10)	⑪(7)(8)	⑫(9)(10)	⑫(9)(10)
22	23	24	25	26	27	28	
	⑬(11)(12)	⑫(9)(10)	⑬(11)(12)	⑫(9)(10)	⑬(11)(12)		
29	30	31					

	日	月	火	水	木	金	土
1月				1	2	3	4
				元日			
	5	6	7	8	9	10	11
		⑭(13)(14)	⑬(11)(12)	⑭(13)(14)	⑬(11)(12)	福澤先生誕生日	⑬(11)(12)
	12	13	14	15	16	17	18
		成人の日	⑭(13)(14)	⑮(15)(16)	⑭(13)(14)	⑭(13)(14)	⑭(13)(14)
19	20	21	22	23	24	25	
	⑮(15)(16)	補講日			試験日		
26	27	28	29	30	31		
2月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
			建国記念日				
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	天皇誕生日	振替休日					
3月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
							春分の日
	22	23	24	25	26	27	28
		院修了の日				学位授与式	翌年度ガイダンス
29	30	31					
	翌年度ガイダンス						

【4学期制・秋学期後半の授業開始日】

月曜：11月18日 (月)

火曜：11月26日 (火)

水曜：11月20日 (水)

木曜：11月28日 (木)

金曜：11月15日 (金)

土曜：11月16日 (土)

【休日の授業日】 9月23日 (月・祝) (秋分の日)

11月4日 (月) (文化の日振替休日)

【補講日】 11月13日 (水)・1月21日 (火)

【秋学期前半科目定期試験日】 11月14日 (木)・11月19日 (火)

【秋学期後半科目 / 秋学期科目学期末定期試験日】 1月22日 (水)～30日 (木)

学籍（休学・退学・留学・就学）

1. 休学（大学院学則第125条）

病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合は、休学することができます。休学希望者は、所属する専修の学習指導副主任と面接し、所定の「休学願」（保証人の署名、捺印されているもの）に学習指導副主任と指導教員の認印をうけ、春学期は5月末日まで、通年と秋学期は11月末日までに学生課学事担当（以下「学事担当」という）に提出してください。その際、休学理由が一身上の都合による場合は「指導教員の理由書」を、その他の理由による場合は「休学願」に記載されている添付書類を「休学願」と併せて提出してください。

休学期間は当該年度の春学期・秋学期、または通年となります。休学期間は進級や修了に必要な在学年数には算入されません。休学が次の学期に及ぶ時には、改めて「休学願」を提出してください。休学が終了した際は、速やかに所定の「就学届」を提出してください（病気・けがで休学した場合は、診断書添付）。

	春学期	通年	秋学期
休学期間	4月1日～9月21日	4月1日～翌年3月31日	9月22日～翌年3月31日
休学願提出期限	5月31日（金）16:45	11月29日（金）16:45	

2. 退学（大学院学則第126条）

病気その他の事由により退学したい者は、所属する専修の学習指導副主任と面接し、所定の「退学届」（保証人の署名、捺印されているもの）に学習指導副主任と指導教員の認印をうけ、学生証を添えて学事担当に提出してください。

退学年月日が9月21日あるいは3月31日の場合、当該学期に取得した成績および在籍は有効とされます。退学年月日が学期中の場合、当該学期に取得した成績および在籍は無効とされます。

また、授業料（在学料）その他必要諸経費を所定の期日までに納入しない時は、退学となることがあります。（大学院学則第133条）

3. 留学（大学院学則第124条）

理工学研究科委員会が教育上有益と認めるときは、休学することなく外国の大学の大学院に留学することを許可することがあります。

在学期間中に留学を希望する場合は、学籍状態が「留学」と「休学」に分けられます。「留学」は理工学研究科学習指導会議において適正と認められた国外の大学で、正式な手続きを経て正規生と同じ授業を受ける場合を指します。「留学」は「交換留学」、「私費留学」の2つに分類されます。年度の途中に開始し、年度の途中に終了することが可能です。「留学」と認められた場合、留学期間を1年間に限り在学年数に算入することができます。「留学」と認められない場合もあります。その際は「休学」の扱いとなります。

「留学」を申請する場合は、必ず所属する専修の学習指導副主任と面接し、所定の「国外留学申請書」（保証人の署名、捺印されているもの）に学習指導副主任と指導教員の認印をうけ、学事担当に提出してください。留学が終了した際は、速やかに所定の「就学届」を提出してください。

なお、「交換留学」ならびに「協定派遣留学」による留学は学内選考を経て決定されます。これらの申請および選考に関する詳細は学生課国際担当窓口にお問い合わせください。

4. 就学

休学や留学の期間が終了したときは、速やかに就学届（所定用紙）を学事担当に提出してください。

5. 注意事項

理工学研究科では学年毎の進級条件を設けていないため、休学中または留学中であっても学年は年度毎に自動的に最上学年（修士2年生・博士3年生）まで加算されます。また、二重学籍は原則として認められないため、学籍に関する相談がある場合には、速やかに学事担当まで申し出てください。

5. 留学・休学の取扱いについて

		留 学	休 学
種 類		理工学研究科学習指導会議において適正と認められた海外の大学で正式な手続きを経て正規生と同じ授業を受ける場合。留学は「交換留学」・「私費留学」の2つに区別しています。	・語学研修、その他左記の留学と認定されない海外研修など ・病気による休学（医師の診断書を添付してください） ・一身上の都合による休学
期 間	申請期間	「留学」の開始日から最長1年まで（留学先から許可された在籍期間に沿った期間を許可します。在籍期間の前後1週間程度を準備期間として含めることができますが、インターンシップ等を付随させることは認めません。）	年度・学期単位 （休学の申請日がいつであっても、当該年度・学期はすべて休学の扱いになります）
	延長	2回まで可能（最長で留学開始日から3年間まで）。それ以降は「休学」となります。 ※「留学」を延長する場合は、「国外留学申請書（延長）」を提出してください。	新規・延長にかかわらず年度・学期ごとに申請してください。
学 費	学費減免措置	【交換留学（ダブルディグリー含む）】 原則として減免制度はありません。 ただし、学費の相互免除が含まれない交換留学については、研究会費・自治会費・学生健康保険互助組合費等の代理徴収費用を除き、最長2学期まで学費の全額を減免します。 【私費留学】 留学（延長を含む）により在学しなかった期間（学期単位）に対し、その学期の属する年度の各学期における学費は授業料・施設設備費・実験実習費の全額が減免となります。（※） 減免される期間は、最長6学期まで（交換留学・ダブルディグリーの期間含む）。 ※施設設備費・実験実習費は2015年度以前に入学した学生のみ	休学期間に対し、期間中の各学期における授業料・施設設備費・実験実習費の全額を減免します（※）。 ※減免を受けるには申請が必要です。 ※施設設備費・実験実習費は2015年度以前に入学した学生のみ
単 位 取 得 ・ 認 定	履 修		休学中の学期は履修できません。 [年度始めから休学] 履修申告は不要です。休学願を履修申告日までに提出してください。 [年度途中から休学] 春学期に休学する場合は4月に履修申告した春学期設置科目はすべて無効です。秋学期に休学する場合は春学期に履修・取得した科目は有効です。
	単位認定	理工学研究科入学前に取得した単位（学部4年次先取得科目等）とあわせて10単位を超えない範囲で、慶應義塾大学大学院の単位として認定することがあります。認定希望の場合は、帰国後速やかに学事担当に申し出、「就学届」提出時に要申請。希望する科目が認められないこともあります。 ※「国外研究」科目の単位認定は p.30参照	単位認定はありません。
進 級 ・ 修 了	在学年数への算入	申請により（1年間で限度に）留学期間を在学年数に算入することができます。ただし、遡及修了は認められません。	「休学」の期間は在学年数に算入されません（在学期間延長中の場合は在学年数に算入されます）。ただし、実質的な在学年数にかかわらず、休学中も最高学年まで進級します。
申請手続きの流れ		1. 指導教員に相談 2. Web サイトから所定用紙をダウンロード 「理工学部・理工学研究科トップページ」→「在学生」→「授業・履修・試験」→「各種届出用紙」 3. 必要事項を記入、必要書類を準備 4. 指導教員の面談を受け押印をもらう 5. 学習指導副主任の面談を受け押印をもらう 6. 学事担当に提出 7. 学習指導会議で承認後、承認通知が保証人宛に届く ※申請には時間がかかるので、早めに準備してください。	1. 指導教員に相談 2. Web サイトから所定用紙をダウンロード 「理工学部・理工学研究科トップページ」→「在学生」→「授業・履修・試験」→「各種届出用紙」 3. 必要事項を記入、必要書類を準備 4. 指導教員の面談を受け押印をもらう 5. 学習指導副主任の面談を受け押印をもらう 6. 学事担当に提出 7. 学習指導会議で承認後、承認通知が保証人宛に届く ※申請には時間がかかるので、早めに準備してください。

学生証・諸届・証明書

1. 学生証

学生証は、本塾大学院生であることを証明する身分証明書です。他人に貸与または譲渡することはできません。様々な場面で必要になるので常に携帯してください。

(1) 再交付

学生証または学生証裏面シールを紛失、汚損した場合は、速やかに総合受付で再交付を受けてください。

<必要書類>学生証再交付願（所定用紙）、証明書用写真（縦4cm×横3cm、カラー光沢仕上げ、脱帽、上半身正面、背景なし、3ヶ月以内に撮影されたもの）、2,000円（証紙：総合受付の券売機で販売）

再交付理由	手数料
カードの紛失または破損 在籍確認シールの紛失	2,000円
改姓名	無 料

(2) 学生証裏面シール（在籍確認シール）

年度学年ごとに必ず更新してください。更新しない場合、証明書等が発行できません。

(3) 返却

再交付を受けた後に前の学生証が見つかった場合や退学等で離籍した場合は、直ちに総合受付へ返却してください。

2. 諸届、各種証明書

(1) 欠席届

授業に欠席した場合の対応は科目担当者に確認のうえ、必要に応じて「欠席届」を提出してください。

(2) 住所変更（本人・保証人）

①本人の住所変更の場合

速やかに学事 Web システムにて、住所変更の申請を行ってください（URL およびログイン方法は p.12 参照）。不備がなければ、申請は通常、数日で承認されます。住所変更に伴い通学定期の区間が変更となる場合は、学生証裏面シールの記載事項の訂正および証明印が必要となりますので、住所変更の申請が承認された後に、学生証を持参のうえ、総合受付へ届け出てください。

②保証人の住所変更の場合

速やかに総合受付へ届け出てください。

<必要書類>学生証、住所変更届（所定用紙）、保証人の住民票（3ヶ月以内に発行されたもので、マイナンバー（個人番号）の記載のないものに限る）

本人・保証人の住居表示・地番・電話番号変更の場合も手続きを行ってください。これらの手続きが行われない場合は、履修その他の重要な連絡に重大な支障をきたすことがありますので、十分注意してください。

(3) 保証人変更

保証人を変更する場合は、速やかに総合受付へ届け出てください。保証人は原則として日本国内に居住し一家計を立てている成年者で、本人の学費と一身上に関する一切の責任を負うことのできる者とし、父または母としてください。父母が保証人となり得ない場合は、兄、姉、伯父、伯母等後見人またはこれに準ずる方としてください。なお、国内に居住する者が保証人となりえない場合は、国外に居住する者を保証人とすることもできます。ただし、この場合は、その国での公印付住民票に相当するものを提出してください。また、本人に緊急事態が発生した場合の連絡先として、日本国内の住所を必ず「緊急連絡先」として届け出てください。「緊急連絡先」は、緊急時に速やかに連絡がつくことをその要件とします。

<必要書類>学生証、保証人変更届（所定用紙）、誓約書（本人・新保証人押印）（所定用紙）、新保証人の住民票（3ヶ月以内に発行されたもので、マイナンバー（個人番号）の記載のないものに限る）

(4) 改姓・改名（本人・保証人）

改姓・改名した場合は、速やかに総合受付へ届け出てください。届出後、履修中の科目担当者に必ずその旨を申し出てください。

<必要書類>学生証、改姓（名）届（所定用紙）、誓約書（本人・保証人押印）（所定用紙）、新姓名の戸籍抄本（原本：3ヶ月以内に発行されたもの）、※本人の改姓・改名時のみ学生証再交付願（所定用紙）

(5) 国籍変更

国籍を変更した場合は、速やかに総合受付へ届け出てください。

<必要書類>学生証、戸籍抄本（コピーでも可）や住民票等の国籍変更が確認できる公的な証明書（必要な情報が記載されていることをあらかじめ発行元に確認してください）

(6) 通学区間の変更

住所変更に伴い通学区間を変更する場合は、学事 Web システムでの住所変更の申請が承認されてから、学生証を持参のうえ、総合受付へ届け出てください。通学定期券の発売区間は「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」の最も経済的な経路による区間に限ります。学生証裏面シールの通学区間欄は、必ず「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」を明記してください。なお、通学区間が適正でない場合は、通学定期券の発売が停止されます。

<必要書類>学生証

(7) 学外研究・学会活動届

慶應義塾以外の機関で研究・学会活動をする場合は、総合受付にある「学外研究・学会活動届」に記入し、総合受付内の所定ボックスに提出してください。

(8) 証明書（成績証明書・学割証等）

①証明書自動発行機

設置場所	稼働時間
創想館（14棟・西館）1階 学生コミュニケーションルーム	月曜日～土曜日 8:45～20:00 (授業のない土曜日、また祝日・一斉休業期間は利用できません)

※他キャンパス（三田・日吉・信濃町・藤沢・芝共立）に設置されている発行機も利用できます（稼働時間は Web サイトで確認してください）。

※メンテナンス・故障等による利用停止情報等は、適時 Web サイト（「慶應義塾トップページ」→「在学生」→「塾生向けサイト」→「証明書」）等でお知らせします。

※発行には学生証の他に4桁の「学生証暗証番号」が必要です（暗証番号は学事 Web システムで確認可能）。

②証明書の厳封

厳封を希望する場合は、総合受付で申し込んでください。「証明書自動発行機」で発行された証明書を後から厳封することはできません。

③代理人による申請

代理人による証明書の申請は、学生本人が大学に来ることが困難な場合（留学中、入院中等）に限り受け付けます。

総合受付にて申し込んでください。

<必要書類>本人の学生証の写し、委任状、代理人の身分証明書

※委任状に所定の書式はありません。例を参照のうえ、学生本人の意思が確認できるように作成してください。

[例] 委任状

私「(本人氏名)」は、「(代理人氏名)」に、証明書の申込みと受け取りを一任します。

20××年○月△日・本人署名・捺印

※身分証明書とは、慶應義塾大学学生証、運転免許証、パスポート、健康保険証、在留カード、住民基本台帳カード（写真付のもの）を原則とします。社員証、他大学学生証等は受け付けません。

④ 証明書一覧

証明書	言語	手数料	発行場所	発行日数	発行開始日	備考
在学証明書	和文	200円	自動発行機	即日	4月1日	
	英文					
成績証明書	和文	200円	自動発行機	即日	4月1日	
	英文					
修士課程修了見込証明書	和文	200円	自動発行機	即日	5月6日	修士課程2年生のみ発行されます。 休学中・留学中の場合は、総合受付で申請してください。 9月進級者は10月中旬以降の発行となります。 開放環境科学専攻所属の学生は、和文・英文とも自動発行機から発行できます。
	英文		総合受付			
履修科目証明書	和文 英文	200円	自動発行機 総合受付	即日	6月3日	休学中・留学中の場合は、総合受付で申請してください。
健康診断証明書	和文	200円	自動発行機	即日	6月7日	受診した年度の年度末まで発行できます。 保健管理センターにお問い合わせください（TEL：045-566-1456）
	英文					
学割証	和文	無料	自動発行機	即日	4月1日	定期健康診断を未受診の場合は発行できません。
通学証明書	和文	無料	総合受付	数日	原則 4月26日	学生証で購入できない区間を利用する際に必要な証明書です。
各種資格試験等受験用単位取得証明書	和文	200円 400円	総合受付	数日	—	
提出先所定の用紙（リクエストフォーム）に証明・記入を要するもの、その他	和文 英文	200円 400円	総合受付	数日	—	
教育課程終了見込証明書 （単位取得退学見込証明書）	和文 英文	200円	総合受付	数日	—	会議で承認された翌日より発行可能です。
博士学位申請中証明書	和文 英文	200円	総合受付	数日	—	会議で受理申請が承認された翌日より発行可能です。
博士課程修了見込証明書	和文 英文	200円	総合受付	数日	—	会議で審査が承認された翌日より発行可能です。
前学籍（学部）成績証明書	和文 英文	400円	自動発行機	即日	—	
前学籍（学部）卒業証明書	和文 英文	400円	自動発行機	即日	—	
前学籍（修士）成績証明書	和文 英文	400円	自動発行機	即日	—	
前学籍（修士）修了証明書	和文 英文	400円	自動発行機	即日	—	

※発行までに時間がかかる場合がありますので、余裕を持って申請してください。

※証明書発行には学生証が必要です。

※学割証の有効期限は発行日から3ヶ月以内です（有効期間内でも学籍を失った場合は無効）。必要な枚数だけ発行するようにしてください。

※団体旅行申込書（団体割引）を発行する場合は、学生生活担当に申し出てください。

※学費未納の場合は、すべての証明書が発行できません。納入後、総合受付に申し出ることで発行が可能ですが、発行まで数日を要する場合があります。

Web システム

1. 塾生向けサイト「塾生の皆様へ」

URL	http://www.gakuji.keio.ac.jp/
概要	塾生の皆様に向けて各種情報を提供するポータルサイトです。 最新のお知らせや各種 Web サイトへのリンク等を提供しています。
主な提供サービス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 授業／履修／試験 履修案内 / 講義要綱 / 時間割検索・定期試験時間割検索 ■ 学生生活／進路 窓口利用案内 / イベントや奨学金についての情報等

2. keio.jp

URL	http://keio.jp/
ID/Password	慶應 ID / パスワード*
概要	keio.jp は「慶應義塾共通認証システム」の通称です。 利用するには慶應 ID の取得とパスワードの設定（アクティベーション）が必要です。アクティベーション方法に関しては、学生証と一緒に配布される登録のご案内をご参照ください。
主な提供サービス () 内は主管部署	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育支援システム（学生課） 学生時間割、講義要綱・シラバス、休講・補講情報、試験時間割（閲覧可能期間のみ）等 ■ 授業支援（ITC） お知らせ（授業担当者より）、教材ダウンロード、レポート提出・返却等 ■ 学事 Web システム（学生課） 次項参照 ■ Web エントリーシステム（学生課） 次項参照 ■ 学業成績表（学生課） 本人へ郵送した学業成績表の閲覧が可能です。利用可能期間は、学部・研究科、学年等で異なります。詳細は「塾生の皆様へ」Web サイトで告知します。 ■ 健診結果のお知らせ（保健管理センター） 当該年度に受診した学生のみ健康診断の結果の閲覧ができます。閲覧開始時期は健診受診時にお知らせします。結果についての質問等は保健管理センターに問い合わせてください。 ■ 就職活動体験記システム（学生課） 進路届提出、体験記検索、体験記提出 ■ G Suite（ITC） Google 社が提供する Web アプリで、メール（慶應メール）、ドライブ、カレンダー、グループ、連絡先などのサービスが利用できます。 ■ Box（ITC） クラウド型のオンラインストレージサービスで、ファイルのバックアップやアーカイブといった用途に加え、教職員や学生間、外部の方とファイルを共有する目的でも利用できます。 ■ ソフトウェアライセンス取得（ITC） 義塾が契約を結んでいるソフトウェアのライセンス配布システムです。 ■ 無線 LAN 接続（ITC） 個人のパソコンやスマートフォンなどをキャンパス内無線 LAN（Wi-Fi）に接続することでインターネットを利用できます。
備考	* ITC アカウントでログインすることも可能です（ただし、keio.jp の利用登録は必須）。

3. 学事 Web システム

URL	keio.jp からアクセスしてください。
主な提供サービス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 履修申告 時間割や登録番号から科目を選択し履修申告を行うシステムです。履修申告期間に何度でも申告内容の修正が行えます。受付期間中に時間割が変更される場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要があれば申告期間内に申告の修正を行ってください。 ■ 登録済科目確認 一定の期間に履修中科目の一覧を表示します。4月13日（土）15：00 に公開予定です。科目が正しく登録できているか必ず確認してください。 ■ 休講・補講情報 休講・補講のある授業の一覧が表示されます。休講・補講情報は変更されることがありますので、当該授業の直前にも確認するようにしてください。 ■ 住所確認・変更 本人および保証人の連絡先を確認できます。変更がある場合は直ちに手続きを行ってください（詳細は p. 8）。 ■ 連絡・呼出 事務室からのお知らせやキャンパスの掲示板に掲示される呼出がある場合は、学事 Web システムにログインした直後にメッセージが表示されます。 ■ 証明書発行機の暗証番号確認 証明書発行機で証明書を発行する際に必要な「学生証暗証番号（4桁）」を確認することができます。

4. Web エントリーシステム（日吉設置の外国語履修のみに使用）

URL	keio.jp からアクセスしてください。
主な提供サービス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 抽選エントリー 事前抽選が必要な科目の抽選申込み（エントリー）を行うシステムです。ただし、科目によっては、Web を使わずにエントリーシートを窓口へ提出する場合があります。また、受付期間が科目ごとに異なります。

5. 理工学部・理工学研究科 F D 授業アンケートシステム

URL	<p>https://fd-enquete.st.keio.ac.jp/</p> <p>※ 理工学部・理工学研究科独自システムです。利用マニュアルは Web サイトに掲載されています。以下の QR コードからも、スマートフォンを使ってアクセスできます。</p> 
ID/Password	慶應 ID / パスワード
概要	<p>理工学部・理工学研究科では、ファカルティ・ディベロップメントの一環として、F D 授業アンケートシステムによる授業アンケートを実施しています。以下の要領に従って全員必ず授業アンケートに回答してください。</p> <p>F D 授業アンケートシステムとは、アンケートにより学生が授業評価を行うシステムです。学生が設定された設問に回答し、科目担当教員がその集計結果に対するコメントを公開することで、授業改善やより確かな履修選択につなげることを目指しています。</p>
アンケート実施科目	原則として、理工学部・理工学研究科設置の全授業科目です。ただし、学期によって本システムによらない方法で授業アンケートが行われる場合がありますので、詳細は掲示や本システム Web サイトにてお知らせします。
アンケート実施時期	各学期末です。詳細は掲示や本システム Web サイトにてお知らせします。
科目担当教員コメントの公開時期	学生回答締め切りの約 1 ヶ月後からコメントを公開します。前年度のコメントもそのまま公開されていますので、授業選択の参考としてください。1 年生もログインすれば閲覧することができます。

6. Web システム操作上の注意

- (1) 複数のブラウザを起動して同時にログインしないでください。
- (2) Web システムにログインした後は、ブラウザの [戻る] および [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、一旦ブラウザを終了し、10秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。
- (3) Web システムへログインしたまま長時間画面の前から離れた際に他人に悪用されないようにする等のセキュリティ上の目的で、長時間同じ画面が表示された場合は、次の画面には進めないようになっています。そのような場合は、一旦ブラウザを終了し、10秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。
- (4) 氏名等に環境依存文字が使われている場合、画面上にうまく表示できない場合がありますが、システム上問題はありません。
- (5) Web システムは、推奨された環境ではない場合や各種設定 (Cookie、SSL、Proxy 等) を正しく行わない場合は、ログインできないことがあります。推奨環境、設定方法、操作方法については、各 Web システムのマニュアルを参照してください。

7. パスワード再発行

各 Web システムのパスワード再発行窓口は以下のとおりです。

ログインID	ログインパスワード	再発行窓口	必要書類
慶應ID	keio.jp パスワード	各キャンパス ITC 窓口	学生証
ITC アカウント	ITC アカウントパスワード		

1. 奨学金制度

奨学金には、日本学生支援機構奨学金、慶應義塾大学大学院奨学金、指定寄付奨学金、慶應義塾大学修学支援奨学金および地方公共団体・民間団体奨学金（学外奨学金）等があります。奨学金は人物、学業成績が優秀な学生に対して与えられるものと、前記に加えて経済的理由により修学が困難な学生に対して与えられるものに分かれています。いずれの奨学金もこれらの学生に給付または貸与することにより、勉学に専念できる環境を整え、将来良識のある社会人として活躍できる人材を育成する事を目的としています。詳細については冊子「奨学金案内」を参照してください。奨学金の募集は24棟ピロティの学生課学生部門掲示板に掲示します。以下の Web サイトでも閲覧できます。

塾生サイトー奨学制度 HP <http://www.gakuji.keio.ac.jp/life/shogaku/>

学内奨学金 <https://kif2.keio.jp/jukunai/mita/scholarships/gakunai.html>

学外奨学金 <https://kif2.keio.jp/jukunai/mita/scholarships/gakugai.html>

理工学部学生生活担当 HP（締切日等確認画面） <https://www.st.keio.ac.jp/students/life/index.html>

2. 福利厚生

(1) 学生健康保険互助組合

組合員の皆さんが医療機関で保険証を提示して診療を受けた際に支払った自己負担額の一部を給付する【医療給付】が受けられます。給付対象・自己負担額・申請方法に関しては「健保の手引き」を参照してください。

組合ではこの他、トレーニングルーム（日吉塾生会館内）、契約旅館の申込も受け付けています。こちらについても詳細は「健保の手引き」を参照してください。

(2) 学生教育研究災害傷害保険（略称＝学研災）

大学の教育研究活動中に生じた不慮の事故により、身体に傷害を受けた場合の救済措置として、全塾生を対象に大学が保険料を負担してこの保険に加入しています。ここで教育研究活動中とは、大学内外での正課、大学行事、課外活動（学外の場合は事前に大学への届け出が必要、「3. 課外活動」の(2)を参照のこと）をいいます。また、保険金は、学生健康保険互助組合の給付および他の保険に学生自身が自主的に加入している場合の給付とは関係なく支払われます。詳しい内容は「加入者のしおり」（学生生活担当にあります）を参照してください。

(3) 学研災 付帯賠償責任保険

正課、学校行事における「インターンシップ活動」や、課外活動として「ボランティア活動」を目的とした公認団体の活動等に参加する場合、賠償責任保険により活動中他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償する保険です。理工学部・理工学研究科では、矢上キャンパスに在籍をしている学部3年生以上の正規生を対象に、大学が保険料を負担してこの保険に加入しています。詳しい内容は「加入者のしおり」（学生課学生生活担当に置いてあります）を参照してください。

なお、次の2つの補償制度（任意加入）に加入を希望する場合は、直接それぞれに資料請求をしてください。

「学生総合補償保険」→(株)慶應学術事業会 TEL. 03-3453-6098

「学生総合共済」→慶應義塾生活共同組合（日吉） TEL. 045-563-8489

(4) 立科山荘

立科山荘は、昭和48年に開設された校外教育施設です。課外活動、研究室合宿などに利用してください。利用する場合は、学生生活担当で相談のうえ、所定の「利用予約申込書」に必要事項を記入のうえ、申し込んでください。

(5) 学生ラウンジ（34棟2F）

このラウンジは教職員および学生の懇談と親交の場として利用してください。ラウンジでは互いに迷惑をかけぬよう使用してください。ただし、学生団体等の集会などには使用できません。

(6) 学生コミュニケーションルーム（創想館14棟1F）

「学生がみんなで集まりたくなるような魅力的なエントランス」というコンセプトで設計されている明るく広々としたスペースで、カフェテリアも利用できます。

ルーム内にはグランドピアノも置かれており、学生諸君はいつでも自由に弾くことができます。午後4時30分以降に懇談会等集会に利用する場合は「学内集会届」を記入のうえ申し込んでください。ただし、指導教員の同席が必要です。詳細は学生生活担当へ相談してください。

(7) 授業料等延納申請

やむを得ない事情で授業料を期日までに納入できなくなった場合は、所定の「授業料等延納申請書」を春学期分は5月15日、秋学期分は11月15日までに学生生活担当に提出してください。「授業料等延納申請書」はWebサイト (<http://www.gakuj.keio.ac.jp/life/shogaku/ennou.html>) からダウンロードできます。

(8) 短期貸付

家からの送金の遅延などで、緊急に援助を必要とする場合には、学生生活担当において2万円を限度に短期貸付（無利子）を行っています。貸付期間は1ヶ月以内となっておりますので学生生活担当へ相談してください。

3. 課外活動

(1) 教室などの使用申込

学生団体が、集会あるいは会合のために教室などを使用したいときは、「学内集会届」（学生生活担当にあります）を使用希望日の4日前までに申請してください。

ただし、日曜、祝日、義塾が定めた休日、三田祭本祭期間、授業期間以外の使用はできません。なお、他大学学生は使用できません。

(2) 学外行事届

学生団体、研究室などが、試合、研究活動、合宿、コンサート、パーティ等の行事を学外で行う場合には「学外行事届」（学生生活担当にあります）と参加者名簿（様式自由）をその4日前までに届け出てください。また、団体割引、減税証明書などの必要があれば申し出てください。なお、海外での学外行事は必ず海外旅行保険に加入してください。

(3) 掲示・配布物などの届出

ポスターやビラなどを学内で掲示・配布する場合は、学生生活担当に届け出て、受付印を受けたうえ、場所などの指示を受ける必要があります。

(4) 備品の使用申請

学生団場で、机、椅子、立看などの備品を借用したい場合は、使用希望日の4日前までに申請してください。

(5) 運動施設の使用

矢上キャンパスには「グラウンド」「テニスコート」および「体育館」があります。いずれの施設も学生・教職員がスポーツを目的として使用することができます。各運動施設の使用の申し込みは学生生活担当で受け付けています。なお、各施設の使用に際しては使用心得を遵守してください。

4. 学生生活

(1) 車両入構申請

① 駐車場の利用について

学生の車両入構は認められていませんが、学生団体や研究室などで、やむを得ず、車両入構の必要がある場合は、入構希望日の前日までに、学生団体は学生生活担当に、研究室は用度課用度担当に申請してください。

② バイク・自転車の利用について

駐輪場利用登録申請を学生生活担当で必ず行ってください。登録料は年度毎に500円です。ステッカーを発行します。当該年度のステッカーを貼っていないバイク・自転車は撤去します。

なお、自動車、バイク、自転車などの運転に際しては、常に交通規則を守ることは当然ですが、特に塾生としての自覚を持った運転に心掛け、周辺の住民に迷惑を及ぼしたり、違法駐車など無用なトラブルを引き起こしたりすることがないように、十分に留意してください。

(2) 遺失物・拾得物

学内での遺失物・拾得物は学生課総合受付に届けてください。届けられた拾得物は3ヶ月間事務室内に保管してあります。

(3) 住居（下宿等）とアルバイトの紹介

下宿とアルバイトの紹介は、学生が自主的に運営している福利厚生機関の共済部が行っています。希望者は、日吉キャンパスにある塾生会館内の共済部部屋（TEL045-561-3102）へ問い合わせてください。

5. 学生相談室

学生相談室は、学生の皆さんが快適な学生生活を送れるように援助する場です。学業、課外活動、適性や進路、対人関係、性格、心身の健康、その他生活一般について困ったとき広く話し合い、解決に向けての糸口をともに探っていきたく思っております。なお、相談内容につきましては、固く秘密を守りますので、どうぞお気軽にご相談ください。

・相談の内容について

相談の受付は学生相談室（26棟101号室）の窓口へ直接お越しいただくか、もしくは電話でも受け付けております。希望の日時を申し出てください。学部学生・大学院生および学生に関することであればそのご家族、教員はどなたでもご利用いただけます。

受付時間：平日10:00～18:00

学生相談室：26棟101号室

相談室電話：直通045-566-1431 内線40091

学生相談室が閉室している場合は以下に連絡してください。

学生生活担当（25棟1階）

直通045-566-1466 内線40085、40094

6. 就職・進路

(1) 「就職活動早わかり」（リーフレット）

就職年次の学生に配布いたします。

就職活動に関する重要事項が記載されています。理工学部キャリア支援 Web サイト (<https://www.st.keio.ac.jp/students/career/index.html>) とあわせて活用してください。

(2) 就職ガイダンス（就職に関する説明会）

最新情報は掲示とキャリア支援 Web サイトにて確認してください。

以下は予定です。

- ① 全体ガイダンス：10月に行います。
- ② 各種講座・セミナー：全体ガイダンス後、就職支援関連各種講座、企業セミナー等を順次行います。
- ③ 各系（学科）別ガイダンス：1月以降に各系（学科）ごとに行います。

(3) 求人票について

大学宛求人（自由応募）については、keio.jp を利用したキャリアタス UC でインターネットより検索できます。理工学部では学校推薦制度も運用しています。学校推薦対象企業については、理工学部キャリア支援 Web サイト、および就職資料室内の学校推薦関連資料をご覧ください。

(4) 進路希望調査

企業への応募形態には自由応募と学校推薦があります。

各系（学科）別に調査を行いますので、進路については、事前に十分考えておくことが望めます。

進路希望調査期間については各学科事務室の掲示板や就職関係掲示板およびキャリア支援 Web サイトに掲出します。

(5) 推薦状の発行

学校推薦が決定した場合には、次の手続きをとってください。

- ① 推薦状の発行申請用紙をキャリア支援 Web サイトよりダウンロード、またはキャリア支援担当窓口で受取り、必要事項記入後、就職担当委員の確認、署名および捺印を受けて、同窓口へ提出する。
- ② 推薦状の発行は、キャリア支援担当窓口へ提出してから約4日後の発行となります。
- ③ 推薦書類一式を指定日以降にキャリア支援担当窓口で受取り、企業へ送付する。

(6) 就職資料室（25棟学生課事務室内）

各会社の求人票がファイルされ、常時公開しています。学校推薦対象企業のファイルも閲覧できます。

(7) 相談

キャリア支援担当窓口では、進路や就職などの悩みについて、常に対応できる体制を整えています。また、各系（学科）別に就職担当の委員がいて、就職の相談に応じています。

(8) 進路決定届登録

キャリア支援担当窓口では進路についての統計をとり、文部科学省・公共職業安定所・私立大学連盟等に報告する義務があります。このため、例年進路が決定した時期に、最終学年全員が「進路決定届」登録をすることになっています。キャリア支援担当窓口より、登録方法について適宜ご案内いたしますので、進学や留学等、就職以外の進路の方も必ず登録してください。

(9) その他

連絡事項等詳細については、各学科事務室の掲示板やキャリア支援担当窓口の掲示板またはキャリア支援 Web サイトに、お知らせを提示します。日頃から掲示板をよく見るよう心がけてください。

7. 就職・進路（文系就職希望者へ）

(1) 就職ガイドブック（文系就職用）

キャリア支援担当窓口で配布します。

(2) 就職ガイダンス（三田キャンパス）

学内就職ガイダンスを各種開催しています。詳しくは三田の就職・進路支援 Web サイトに掲載していますので、興味のある方は参加してください。

国際担当

国際担当では、理工学部・理工学研究科に在籍する日本人学生および外国人留学生に対し、留学や国外研修、奨学金等に関する情報提供やアドバイスなどを行っています。詳細は Web サイト (<https://www.st.keio.ac.jp/students/ic/index.html>) でご確認ください。

電話 045-566-1468 FAX 045-566-1469 E-MAIL ic-yagami@adst.keio.ac.jp

留学生談話室 12棟201号室（利用時間 8:30～20:00）

各種窓口について

理工学メディアセンター	月～金：8:45～21:30 土：8:45～20:00 ※開館時間は理工学メディアセンターWeb サイトをご覧ください。 http://www.scitech.lib.keio.ac.jp
理工学 ITC	月～金：9:00～17:00 ※昼休み11:30～12:30 ※ワークステーション室利用中の機器トラブル等の受付時間 月～金：9:00～20:00 土：9:00～17:00（授業期間のみ）
総務課	月～金：9:00～16:30 ※ 現金等の取り扱いは15:00まで ※ 昼休み 11:30～12:30
用度課 用度担当・施設担当 検取センター	月～金：9:00～16:30 ※ 昼休み 11:30～12:30
保健管理センター 応急処置	月～金：8:30～17:00 ※ 昼休み 11:30～12:30
矢上診療所 一般診療	月 8:45～11:30（第1・3・5）・13:15～16:15（第2・4） 火：8:45～11:30（第2・4） 水：13:15～16:15 金 8:45～11:30／13:15～16:15（第1・3・5） ※ 詳細は保健管理センターのホームページをご覧ください。 http://www.hcc.keio.ac.jp/

* 休業日：土・日曜、祝祭日、夏季・冬季一斉休業期間、1月10日（福澤先生誕生記念日）

1. 理工学メディアセンター（松下記念図書館）

メディアセンターへの入館および資料の貸出には学生証が必要です。

(1) 開館時間

平 日：8:45～21:30 土曜日：8:45～20:00

休館日：日曜、祝日（授業日を除く）、夏期・冬期一斉休業期間、福澤先生誕生記念日（1月10日）

※試験期間（1月・7月）の日曜日は開館します。

※館内地階自習室は、閉館後も夜間開室しています（要利用申請）。

(2) 資料の貸出・返却・更新

貸出・返却カウンターに学生証と資料をお持ちください。

	貸出期間	更新回数	貸出冊数
大学院生	和書30日 / 洋書30日	2回	制限なし

※2019年夏に変更の予定があります。

- ・図書はどのメディアセンターでも返却することができます（一部例外あり）。
- ・返却期限日を過ぎると、1冊につき1日10円の延滞料金がかかります（休館日を含む）。
- ・KOSMOS から、貸出状況および貸出履歴の確認・返却期限の更新（延長）・塾内他キャンパスの図書の取寄せ申込ができます（一部、貸出できない資料あり）。

(3) 複写

館内のコピー機で、図書館資料を著作権の範囲内で複写できます。料金は1枚あたり10円です（白黒のみ）。複写後は「文献複写申込書」に記入し、備付のポストに投函してください。

(4) データベース・電子ジャーナル・電子ブック・理工学研究科学位論文の利用

慶應義塾が契約している電子資料を無料で利用できます。電子資料は自宅や研究室からもアクセスできます。詳細については、理工学メディアセンターWeb サイトをご覧ください。

学位論文の要旨または全文が閲覧できます。修士論文はΣStar（理工学メディアセンター機関リポジトリ）から、矢上キャンパス内で利用できます。博士論文はKOARA（慶應義塾大学学術情報リポジトリ）をご利用ください。

(5) その他のサービス

- ・図書館・データベース・電子ジャーナル等の使い方や資料の探し方の相談に応じます。
- ・各種データベース・電子ジャーナル・文献管理ソフト等の利用説明会を実施しています。
- ・塾内に所蔵していない資料を他大学等から借用、もしくは資料の複写物を取り寄せます。（有料）

- ・新川崎タウンキャンパス (K²) で図書の貸出返却、文献複写物の受け取りができます。

(6) 各種オンライン手続き

文献複写物の取寄せ、図書の予約・取寄せ、調査・質問、資料の購入希望、他大学への紹介状発行などを Web サイト上で受け付けています。

(7) 他キャンパスメディアセンターの利用

在学中は慶應義塾大学の6つのメディアセンターへの入館および貸出等のサービスを受けられます。
サービスの詳細はメディアセンターポータルサイト (<http://www.lib.keio.ac.jp/>) をご覧ください。

お問い合わせ先 Web サイト：<http://www.scitech.lib.keio.ac.jp>
E-mail：rmc-info-group@keio.jp
直通電話 (045)566-1477 (平日 8:45～17:00)
レファレンスデスク内線 40307

2. 理工学インフォメーションテクノロジーセンター (ITC)

ITC はキャンパスネットワーク、コンピュータをはじめとした情報通信技術 (IT) 環境にかかわるサービスを総合的に提供している組織です。

(1) サービス概要

- ・ワークステーション、パーソナルコンピュータによる教育研究環境の提供
- ・キャンパス内の情報コンセント、無線 LAN アクセスポイントによるネットワーク利用環境の提供

(2) 施設概要

理工学 ITC では Linux および Windows 環境のワークステーションを設置した“ワークステーション室”8室を用意しており、授業に使用される時間以外の開室時間中は自由に利用できるよう開放しています。場所・開放予定等の詳細は理工学 ITC ホームページをご覧ください。

(3) ご相談・お問い合わせ先

- ・直接お越しいただく場合：理工学 ITC 事務室 (14-B104)
各種申請等の事務手続き受付時間 月～金9:00-17:00 (※昼休み 11:30～12:30)
ワークステーション室利用中の機器トラブル等の受付時間 月～金9:00-20:00
土 9:00-17:00 (授業期間のみ)

※休校期間等、上記の時間は変更される場合があります。サービスの詳細および最新情報については、理工学 ITC ホームページをご覧ください。

理工学 ITC ホームページ：<http://www.st.itc.keio.ac.jp> お問い合わせ先：st-itc@itc.keio.ac.jp

3. 総務課

学費は毎年4月中旬に保証人宛に本塾経理部から授業料等払込のご案内を送付しますので、最寄りの銀行で振り込んでください。また、分納した場合は、10月中旬に秋学期分を送付します。

4. 用度課

予算管理、物品購入・調達および支払管理、資産管理、物品納品の検収、建物・設備の維持管理、清掃・警備の委託管理
学生に関係する主な業務は次のとおり

- (1) 研究室の予算の管理
- (2) 物品等の発注
- (3) 物品の納品検収 (検収センター：24棟1階)
- (4) 施設・設備の営繕・維持
- (5) 教室などの使用申請 (授業時間外) および付帯設備に要する物品の貸出
- (6) 残留届の受付 (22時以降の残留)
- (7) 研究室などの鍵の管理
- (8) 入退室管理システムのセキュリティーカード交付 (学生対象)
- (9) 空調、蛍光灯切れ、テンキー電池切れは、サービス受付：内線40930 (25棟地下1階)
- (10) 廃棄物 (感染性廃棄物) の申請
- (11) 防火防災のための避難訓練の実施

- (12) 免税アルコールの新規申請・年度報告の提出

5. 保健管理センター矢上分室

- (1) 定期健康診断（4月に日吉地区および矢上地区で実施しています）
- (2) 保健管理（健康相談および医療機関への紹介）
- (3) 進学、就職、奨学金申請および諸資格取得（発行出来ないものもあります）に必要な健康診断証明書の作成・発行
- (4) 特殊健康診断（電離放射線取扱者、特定化学物質、有機溶剤、鉛化合物取扱者、遺伝子組換え・病原体実験実施者が対象）
- (5) 応急処置
- (6) 感染症罹患者に対する学校医、産業医による就学、就業可否の判定

6. 矢上診療所

一般診療（内科のみ）、診断書作成（和文・英文）

履修・授業・成績

1. 履修申告の日程

履修申告期間	
春学期	4月10日（水）13:00～4月13日（土）13:00 履修申告後、「登録科目一覧」を出力し、指導教員の印を受けて以下期限までに提出してください。 （履修科目に変更がない場合は提出不要です。） 提出期限：4月15日（月）16:45 提出先： 学生課提出ボックス
秋学期	9月26日（木）13:00～10月1日（火）11:00 履修申告後、「登録科目一覧」を出力し、指導教員の印を受けて以下期限までに提出してください。 （履修科目に変更がない場合は提出不要です。） 提出期限：10月1日（火）16:45 提出先： 学生課提出ボックス

学事 Web システムURL

- ※ keio.jp (<http://keio.jp/>) からアクセスしてください。
- ※ 操作方法・注意は学事 Web システムのオンラインマニュアルを参照してください。

2. 履修申告に関する注意点

履修申告期間前

- (1) 最新の学業成績表ですでに取得している科目・単位を確認し、本項やカリキュラムの項を正確に理解し、講義要綱・シラバス等を参照のうえ、今年度の履修計画をたててください。
- (2) 授業科目の履修選択にあたっては、自分が研究を行っていく際に有効となる科目や、自分が将来社会に出て必要とする科目等、自らの履修計画を立ててください。専攻にかかわらず理工学研究科のすべての科目を選択することができますが、履修する科目について事前に指導教員の指示を受けてください。
- (3) 履修に関する疑問点等は、履修申告期間までに、学習指導副主任または学事担当窓口にお問い合わせください。
- (4) 住所等が変わっている場合は、「学生証・諸届・証明書」の項を参照し、手続きを行ってください。履修・修了等にかかわる連絡は、大学に届出のある住所に郵送します。

履修申告期間中

- (1) 学事 Web システムにより履修申告をしてください。期間中は何度でも申告内容の修正ができます（ただし、毎日午前4時から1時間程度は定期メンテナンスのため利用できません）。
- (2) 時間割が変更になる場合がありますので、随時掲示板等で最新の情報を確認してください。
- (3) 曜日・時限の重複履修は認められません。
- (4) 一度合格した授業科目を再度履修することはできません（科目名が変更になった場合も同様です）。
- (5) 履修申告をしていない授業科目を受験しても一切無効です。単位は取得できません。
- (6) 他学部、他研究科の授業科目を履修しようとする場合は、当該科目担当者の承認を得てから履修申告をしてください（学事担当にて所定用紙を配布します）。また、諸研究所設置科目の中には、履修申告とは別に、当該研究所でも登録を必要とするものがあります。この場合は必ず両方に申告（登録）してください。
- (7) 期日までに履修申告をしない場合は、就学の意志がないものとして退学処分となることがあります（学則第161条）。
- (8) 履修申告期間に病気などやむを得ない事情で申告できない場合は、期間中までに速やかに学事担当に連絡してください。

履修申告期間後

- (1) 学事 Web システムによる登録科目の一覧画面を印刷し、時間割とともに控えとして保管してください。
- (2) 履修申告期間中に申告したものを、4月13日（土）15:00に学事 Web システムで公開予定です。履修調整等の結果は4月16日（火）に反映される予定ですので、必ず確認してください。学生課から修正の指示があった場合は、履修修正期間中（春学期：5月7日～8日、秋学期：10月9日～10日）に学事担当に申し出て修正を行ってください。
- (3) 以上を怠ったために生じた問題（申告漏れ、科目間違い等により、結果として修了単位不足になる等）について大学は一切責任を負いません。

3. 履修登録取消

履修登録取消制度とは、一旦履修登録した科目（履修確定された科目）の履修を所定期間に申告手続きをとることにより取り消す制度です。履修登録をして授業に出たものの、授業の内容が自分が学びたい内容と違っていた、授業に対する知識が不足していることに気付いた、履修科目数を減らしたい等といった理由により、学事 Web システムで申告します。なお、履修登録取消期間には、新たな科目の履修申告はできません。

(1) 履修登録取消申告期間と取消ができる科目

5月15日（水）10：00～16日（木）16：45	通年科目・春学期科目・春学期前半科目
6月24日（月）10：00～25日（火）16：45	春学期後半科目
10月24日（木）10：00～25日（金）16：45	秋学期科目・秋学期前半科目
12月12日（木）10：00～13日（金）16：45	秋学期後半科目

※特定期間集中科目（集中講義）は、当該科目の履修確定日の翌日から当該科目の授業開始日の翌日までに、履修登録取消の手続きを行うことができます。

なお、下表の科目については履修登録取消ができません。履修登録取消ができない科目が新たに追加される場合もありますので、必ず4月の履修申告期間に掲示を確認してください。

理工学研究科 履修取消対象外科目
<ul style="list-style-type: none"> ・必修科目（課題研究・特別研究第1・特別研究第2） ・抽選科目 ・科目担当教員が履修者を選抜した科目 ・以下の専修において主専門科目群内に定められている必修科目 (ただし、副専門で履修している場合は取消可能) システム統合工学専修、電気電子工学専修、空間・環境デザイン工学専修

また、他研究科設置科目の履修登録取消ができるかどうかは、下表にて確認のうえ、不明な点はその科目の設置研究科に確認してください。

他研究科生の履修取消不可科目（大学院）

地区	研究科	履修取消不可科目
三田	文学研究科	すべて取消可
	経済学研究科	すべて取消可
	法学研究科	事前に科目担当者の承認を得たうえで取消可
	社会学研究科	すべて取消可
	商学研究科	すべて取消可
	法務研究科（法科大学院）	すべて取消可
芝共立	薬学研究科	すべて取消可
日吉	経営管理研究科	すべて取消不可
	システムデザイン・マネジメント研究科	すべて取消不可
	メディアデザイン研究科	すべて取消不可
矢上	理工学研究科	抽選科目、科目担当教員が履修者を選抜した科目
湘南藤沢	政策・メディア研究科	フィールドワーク関連科目（「フィールドワーク A、B、C、D」、「インターンシップ A、B」、「グローバル・パートナーズ・ネットワーキング」、「グローバル・イシュー・プラクティス」）、「環境デザイン・フィールド・ワークショップ」、「環境デザイン特別演習1」、「環境デザイン特別演習2」、「環境デザイン特別演習3」、「先端フィールドワーク A、B、C、D」、「サイバーリーダーシップ」
	健康マネジメント研究科	すべて取消可
信濃町	医学研究科	すべて取消可

(2) 注意事項

進級、修了条件を満たさなくなるような履修登録取消は認められません。

4. 緊急時における授業の取扱い

台風・大雨・大雪・地震等の各種自然災害や、大規模な事故等による鉄道等交通機関の運行停止、その他緊急事態の発生により、休校措置をとらざるを得ない場合は Web サイト等を通じてお知らせします。

「慶應義塾トップページ」→「在学生」→「塾生向けサイト」

<その他の注意事項>

授業開始後に緊急事態が発生した場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。

掲示や構内放送、上記の Web サイトによる大学からの指示に従ってください。

5. 早慶野球戦時における授業の取扱い

理工学部矢上キャンパスでは以下のとおりとします。

(1) 理工学研究科設置科目

試合開催の有無にかかわらず、平常どおり授業を行います。

(2) 理工学部設置科目

試合開催日の授業は 1 時限のみとし、2 時限以降は応援のため休講とします。3 回戦以降もこれに準じます。雨天等で中止になった場合は、平常どおり授業を行います。ただし、6 月 1 日・3 日の試験日に行われる試験は早慶野球戦より優先するものとします。

早慶戦当日の休講取扱いは、当日朝 9 時に以下の Web サイトにて告知いたします。

「慶應義塾トップページ」→「在学生」→「塾生向けサイト」

試合結果は、東京六大学野球連盟オフィシャルサイト (<http://www.big6.gr.jp/>) で確認してください。

- ・各学科における学生実験については、ガイダンスで指示されたとおりとします。
- ・他キャンパスの科目については、各キャンパスの指示のとおりとします。

6. 三田祭期間中の授業

理工学研究科の授業は本祭期間のみ休講になります。

7. 裁判員候補者に選定された場合の取扱い

慶應義塾大学は、いわゆる「公欠」という考え方をとっていません。裁判員候補者に選定され、授業の出欠に迷う場合は、学事担当へご相談ください。なお、授業の性質上欠席が認められない場合がありますので、ご注意ください。

8. 成績

(1) 成績評語

所定の授業に出席し評価試験（定期試験またはレポート）を受けた後に評語が決まります。学業成績の評語は、S・A・B・C・D の 5 段階を基本とし、S・A・B・C を合格、D を不合格とします。ただし、特定の科目は、評語を P・F の 2 種とし、この場合、P を合格、F を不合格とします。なお、他大学等で履修した科目を S・A・B・C または P の評語を用いずに認定する場合は、G とします。

2017 年度より、履修申告しながら受験しなかった科目や途中放棄した科目には「D（不合格）」の評語がつくことになり、従来の「放棄（未受験：★）」は廃止されました。ただし、2016 年度以前の成績評語の修正（★→D）は行いません。

●2016 年度以前の履修科目の成績評語

学業成績の評語は、A・B・C・D の 4 段階とし、A・B・C を合格、D を不合格とします。なお、特定の科目や他大学等で履修した科目については上記と同様です。

(2) GPA (Grade Point Average) ※2017年度以降入学者のみ

GPAは、履修登録した科目毎の5段階評価を4.0から0.0までのGP (Grade point) (S:4.0、A:3.0、B:2.0、C:1.0、D:0.0) に置き換えて単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割った平均点で、成績を数値で表したものです。

$$\text{GPA} = \frac{\text{履修した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目のGP}}{\text{履修した授業科目の単位数の合計}}$$

GPA算出にあたり、P (合格) の科目やG (認定) の科目、また卒業要件とはならない自由科目は除かれます。

GPAは、当該学期における「学期GPA」と在学中の全期間における「累積GPA」の2種類があります。学業成績表には学期GPAと累積GPAが記載され、成績証明書には累積GPAが記載されます。

(3) 学業成績表

学業成績表を春学期終了科目については9月上旬に、通年科目や秋学期終了科目も含めた当該年度最終の学業成績表については3月中旬に本人宛に郵送します。また、学期前半科目の成績を記載した学業成績表については、前半科目成績公開時にWebのみで閲覧可能です。学業成績表はいかなる事情があっても再発行しません。また、事前、事後の成績照会は一切受け付けません。

(4) Web 閲覧

特定期間内に学業成績表をWebで閲覧可能です。利用にあたっては「keio.jp」のID・パスワードが必要です。閲覧期間等の詳細は塾生向けサイトで告知します。なお、パスワードの再発行等、Webシステムの利用案内については、「Webシステム」の項を参照してください。

(5) 学業成績証明書

学業成績証明書に単位を取得した科目の成績評語が反映されるのは、春学期分は9月22日以降、秋学期分は4月1日以降です。ただし、修士修了決定者については修了の日(3月23日)以降の最初の平日から、証明書自動発行機にて発行可能です。

試 験

1. 定期試験

定期試験の日程は2019年度学事日程 (p. 3) を参照してください。

定期試験時間割、持ち込み指示、受験に関する注意事項は、掲示および Web により発表します。定期試験の時間割は、平常の授業時間帯と異なる場合がありますので試験時間割によく注意してください。

定期試験・追加試験に関する URL : <http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/shiken/index.html>

「理工学部・理工学研究科トップページ」→「在学生の方」→「授業・履修・試験」→「学事日程」→「定期試験・追加試験」

<定期試験に関する注意事項>

(1) 学生証

- ① 学生証を必ず携帯し、提示してください。
- ② 試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、総合受付で必ず「仮学生証」（発行当日に限り全キャンパスで定期試験、図書館入館にのみ有効）の交付を受けてください。なお、仮学生証の発行には、手数料500円が必要です。
- ③ 学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。
- ④ 仮学生証発行手続きにより、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。また、追加試験の対象とはなりません。

(2) 遅刻・途中退室

- ① 試験開始後20分までの遅刻の場合は、試験を受験することができます（試験時間の延長はありません）。ただし、遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるものの場合、当該試験をそのまま受験するのか、あるいは追加試験の申請を行うのかは、本人の判断によります。電車遅延発生に伴い試験開始時間を遅らせる場合がありますので、必ず試験会場に向かい、監督者の指示に従ってください。
- ② 試験時間中の中途退室は試験開始後30分から試験終了10分前までは可能です。退室する場合は、監督者に答案用紙を提出し、手荷物を持参してから退室してください。
- ③ 試験開始後に体調不良等の理由で途中退室する場合は、追加試験の対象とはなりません。
- ④ 間違った教室に入って、試験問題を見てしまった場合は、試験開始後20分間は退出できません。受験に際しては、試験教室を十分に確認してください。

(3) 禁止事項

- ① 受験に際しては不正行為のないように、真摯な態度で臨んでください。不正行為は、処分の対象となります。
- ② 答案用紙は必ず提出しなければなりません。持ち帰った場合は不正行為と見なされます。
- ③ 試験教室では、学生証または仮学生証を机の右上に置いてください。
- ④ 試験教室では、持ち込みを許可されているもの以外、机の上・机の中に置かず、バッグ等に片づけてください。
- ⑤ 答案用紙の担当者・科目名ならびに学籍欄の記入事項はすべて略さず正確に記入してください。
- ⑥ 試験開始後に出席表を配付します。氏名・学籍番号・学生証の有無を書いて後席に廻してください。
- ⑦ 携帯電話等の通信機器は電源を切って片づけてください。試験中にこれらの機器に触れる、画面を見るなどの行為も不正行為にあたります。なお、時計や電卓としての使用も認めません。
- ⑧ 学生証の照合で監督者が廻ってきたときは、確認しやすいよう顔を上げてください。
- ⑨ 試験終了の合図があったら、ただちに答案を書くのをやめてください。
- ⑩ 試験終了後、回収した答案用紙の枚数と出席表の合計数を確認しますので、合図があるまでは退出できません。

(4) その他

- ① 試験時間割発表時に指示する注意事項や持ち込み条件等は、その都度更新されますので注意してください。

2. 授業内試験

随時授業時間内に行われます。

3. 追加試験

追加試験は、履習申告した授業科目の定期試験を、病気や不慮の事故等のやむを得ない理由で受けることができなかった学生に対して行われます。定期試験期間以外に試験が行われた科目、レポートや平常点で評価を行う科目は追加試験の対象になりません。取り扱いは以下のとおりです。

受験理由	提出書類（*印は下の注を参照してください）	受験料
1. 試験時間の重複	①追加試験申し込み用紙…………… *1 ※日吉科目と矢上科目が重複した場合、矢上科目を追試で受験してください。	不要
2. 病気・けが	①追加試験申し込み用紙…………… *2 ②試験当日の日付を含む、医師による「診断書」 ※診断書を発行した病院の領収書を提示してください。	1科目2,000円
3. 電車の遅延	①追加試験申し込み用紙…………… *2 ②試験当日に交通機関が発行する「遅延証明書」（Webからの印刷可）	不要
4. 事故・その他	①追加試験申し込み用紙…………… *2 ②理由書	1科目2,000円

<追加試験申し込み用紙>

*1. 受験理由欄に、重複科目名、設置地区、曜日時限を必ず記入してください。

*2. 受験理由欄に定期試験欠席理由を具体的に明記してください。受験料が必要な場合は、科目数分の受験料の証紙を貼付してください。

<理由書>

定期試験欠席理由の詳細を具体的に記し、本人、保証人ともに署名、捺印した証明書を作成してください。

<「4. 事故・その他」について>

(1) 病気（医師による診断書が無い場合）

理由書添付のうえ学習指導面談を受けてください。

(2) 事故など

理由書添付のうえ学習指導面談を受けてください。

(3) 二親等以内の冠婚葬祭

保証人による理由書や会葬礼状等を添付してください。学習指導面談は不要です。

(4) 学会等

事前に科目担当者と相談して認められた場合、追試を申し込むことができます。「学外研究・学会活動届」を添付してください。

*事前に学会日程が決まっている場合は、早めに科目担当者に相談しておいてください。

(5) 就職活動

追試の理由として認められません。

<注意事項>

インフルエンザ等の感染症を発症した場合は保健管理センターに「登校許可日」の記載のある診断書、または「感染症登校許可証明書」の提出が必要です。手続き等については保健管理センターホームページで確認してください。追加試験申し込み期間中に登校することが困難な場合は、事前に学生課学事担当（電話番号：045-566-1463）に相談してください。また、追加試験を申し込んだ場合は、追加試験当日に必ず受験してください。

時間割や試験教室は掲示および Web により発表されますので、よく確認してください。

4. 再試験

理工学部・理工学研究科の学生に対しては、その履修科目が理工学部・理工学研究科・他学部いずれの設置科目であっても再試験は行いません。

5. レポート

最終試験と同様に取り扱われますので、提出にあたっては次の手続きを厳守してください。

(1) 指定された日時に、指定された場所に提出してください。特に総合受付では、指定日時以外は一切受け付けませんので掲示および Web で確認してください。

総合受付レポートボックス受付時間

授業期間中 平日…… 8:45～16:45

※その他の事務取り扱い時間については p.2 も参照してください。

- (2) 総合受付レポートボックスへの提出を指示された場合は、指定のレポート提出用紙（2枚複写式）に必要事項を記入し、添付してください（2枚とも）。レポート提出用紙は総合受付カウンターに備えてあります。
- (3) 一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。
- (4) レポートにおいて、代筆やカンニング・剽窃などの行為があった場合は不正行為とみなされ厳重に処罰されます。引用の必要がある場合は、必ず出典を明らかにするよう、注意してください。

前期博士課程（修士課程）

理工学研究科では、最先端の科学を現実の社会で展開するために分野融合を取り込んだ新しい教育プログラムをもって高度人材育成を行うことを目的として、2016年度入学者から、専攻内の教育研究分野（以下専修という）でデザインした主専門—副専門制を柱とするカリキュラムに移行しています。

入学年度によりカリキュラムや修了要件が異なりますので、以下の適用学則を確認のうえ、対象となる項目を確認してください。

適用学則について	
16学則 2016年度以降入学者に適用	00学則 2000～2015年度入学者に適用
2016年度以降入学者は 本履修案内を参照してください。	2015年度以前の入学者は 学生課学事担当窓口にて確認してください。

1. カリキュラム構成

前期博士課程（修士課程）のカリキュラムは、**課題研究科目、特別研究第1科目、専門科目、総合科目**の4つのカテゴリーに区分されています。

課題研究科目（4単位） 修士論文研究の内容と方法論を準備するため、特定の専門領域について深い理解を得るための科目で、指導教員による指導のもと、設定した課題に取り組みます。その審査会は、指導教員の所属する専修単位で実施され、指導教員以外の教員も交えて、修士論文研究に向けての目的設定、方法論の確立および関連知識の習得状況について厳格な審査が行われます。課題研究科目の単位取得は、特別研究第1科目を履修するための前提条件となり、指導教員が所属する専修の課題研究科目を第1学年の最初の学期から履修します。
特別研究第1科目（6単位） 修士課程において、課題研究4単位を含む16単位以上を取得し、専攻において修士論文着手が認められた場合には、特別研究第1科目を履修します。特別研究第1は、自主的な研究推進能力を高めつつ、指導教員による指導のもと、修士論文の作成ならびに研究に関する積極的な議論の展開を主な目的とした科目です。
専門科目 所属専攻ごとに、その専攻の特色や研究主題の展望を掌握し、専門分野での確かな知識や方法論をマスターするために開講される科目群で、指導教員による履修計画指導を受けて修得を進めていきます。専門科目は、主専門科目、副専門科目、およびいずれにも属さない科目が専修毎に設定されています（必修科目を設定している専修もあります）。主専門修了（修士課程修了要件）、副専門修了に関しては、各専修のカリキュラムを確認してください（p.40～）。
主専門とは 大学院教育課程の高度な専門知識の習得を目的として専修で厳選された科目群です。指導教員が所属する専修の 主専門科目 から指示された履修方法に則って 8単位以上 を取得することが 修士課程修了要件 となります。主専門科目は科目担当者の判断により学部4年次での先取り履修を可能としている場合があります。卒業単位とせずに自由科目として取得した場合、修士課程において指導教員の許可により修了単位に含めることができます。
副専門とは 修士論文研究と関連性の高い「主専門」分野に加え、さらに学識の範囲を広げ異分野の科目を一定数履修することを奨励するために、専修が設定した科目群です。前提となる科目が不可欠である場合、一定数の学部専門科目を利用し、導入的な専門知識は大学院進学後の学部科目履修で得られるように指示されています（一定単位数までは修了要件に認められます）。専修のカリキュラムにおいて、副専門科目群は、主専門科目群の一部として設置されている場合が多く、基盤学術領域をカバーします。主専門科目群はその上に最先端の学術領域まで達するように科目を重ねています。

総合科目

科学技術の各分野における専門家にとどまらず、科学技術と人間社会のより良い相互関係を提案し、実現できる社会のリーダーを養成するための科目です。総合科目の取得単位のうち、6単位までを修士課程修了に必要な単位（30単位）に含めることができます。開設科目は、①生命倫理や環境法など、社会との関係からすでに身につけている科学技術の知識を再確認していく科目、②知的財産権やベンチャー企業経営論など、社会実践としてその素養が将来有用と思われる科目、③テクニカル・コミュニケーションなど、国際的な活動を展開するために必要なスキルやコミュニケーション能力を高める科目の3つに大別されます。

2. 修士課程の修了要件

修士課程の修了要件は、大学院に2年以上在学し、**課題研究科目4単位と特別研究第1科目の6単位、指導教員が所属する専修の主専門8単位（※）を含め30単位以上を取得し、かつ、研究に必要な指導を受け、修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格することです。**

（※）以下の学生は主専門修了要件の適用を外します。

- ① 留学生入試（International Graduate Program、Double Degree Program）を受験し、本学理工学研究科修士課程に入学した学生
- ② 外部競争的資金による時限的な教育プログラムの学生
- ③ 2019年度リーディング大学院プログラム（オールラウンド型）デュアル・ディグリー学生

提出された修士論文については、次の要件をもとに特別研究第1の科目担当者全員による審査を行います。

- (1) 各専攻における専門学力を保持している。
- (2) 各専攻における最新の問題や重要な問題を理解し、それに取り組んでいく学力がある。
- (3) 将来にわたって社会的に貢献できる能力がある。

必要な単位を取得し、特に業績や能力が認められ、修士論文の審査および最終試験に合格した場合には、1年または1年半の在学期間をもって修士課程を修了することもできます。

なお、修士課程に在学し得る最長年限は4年間です（休学、留学期間を除く）。（大学院学則第128条）

3. 指導教員

(1) 入学時

修士課程においては、指導教員を選ばなくてはなりません。指導教員を選ぶに当たっては、所属する専攻において各自が履修する課題研究科目の担当者から選びます。2016年度からは、入学試験時において希望する指導教員を願書において明示することが義務づけられています。指導教員からは課題研究の指導と科目履修のアドバイスを受けます。指導教員の所属する専修が提供する主専門を修了することが修士修了要件の1つになります。指導教員の判断により、必要があれば共同指導を受けることもできます。

入学後、研究課題などの方向性の変更により正式に指導教員を変更することは、特別研究第1科目履修の通常2年進級時に認めていますが、それ以外のタイミングでの指導の変更が必要な場合には、学習指導教員まで相談してください。

(2) 特別研究第1科目履修時

修士論文着手が認められた場合には、所属する専攻において履修する特別研究第1の科目担当者の中から指導教員を選ばなければなりません。指導教員からは修士論文の指導と科目履修のアドバイスを受けます。指導教員の判断により必要があれば共同指導を受けることもできます。研究課題などにより指導教員の変更が必要な場合は学習指導教員まで申し出てください。

4. 単位認定

理工学研究科入学前に取得した科目や入学後に留学先等で取得した科目を、入学後、指導教員や専攻の審査を経て、教育上有益と認められた場合、理工学研究科の単位として認定することがあります。

詳細は学事担当（大学院窓口）にお問い合わせください。

	種類	認定上限	
入学前	①理工学研究科設置科目（理工学部4年次先取得） ・慶應義塾大学理工学部からの進学者（自由科目での履修） ・単位認定申請書は新入生ガイダンス時に配布	合計8単位	①～⑤ あわせて 合計10単 位まで
	②理工学研究科設置科目 ・理工学研究科科目等履修生および再受験者 ・単位認定申請書は学事担当窓口へ問い合わせ		
	③他大学院理工学研究科設置科目 ・他大学院からの進学者 ・対象科目 1) 学部在籍時取得大学院設置科目（自由科目での履修） 2) 修士課程在籍時修得かつ当該課程修了要件に含まれない科目 ・申請する場合は、上記1) 2) を証明できる成績証明書と当該科目のシラバスを添付し、所定用紙に記入のうえ、履修申告時までに学事担当へ提出		
入学後	④留学先大学院研究科設置科目（国外） ・理工学研究科学習指導会議において「留学」が認められた者 （休学による留学の場合、単位は認定されません）	合計10単位	
	⑤他大学院研究科設置科目（国内）		

5. 「国外研究」科目（科目担当者：専攻長）の単位認定

国際化の推進を目指し、国外の大学における学生の研究活動を専攻の専門科目として位置づけ、その研究活動の成果を専攻の審査を経て評価します。

「国外研究」（国外研究A：2単位、国外研究B：4単位）として単位認定を行う対象は、主として次の2種類です。

(1) 大学における研究活動

(2) 公的な非営利研究機関における研究活動で、かつ大学院における指導資格を持つ者が指導を受け入れる場合。

「国外研究」科目の申込みを希望する場合は、以下の要領で手続きを行ってください。出発前に申請がなされていない場合は「国外研究」単位認定が認められませんので、十分注意してください。

出発前までに行うこと

手続きの流れ	提出書類
① 指導教員に相談 ② 学事担当で「国外研究申込み書」を受け取る ③ 必要事項を記入、必要書類を準備 ④ 学習指導面談を受ける ⑤ 学事担当に提出	① 「国外研究申込み書」（所定用紙） ※学事担当にて配布 ※学習指導副主任の署名・捺印 ② 「指導教員の推薦状」 ③ 「国外研究先の受け入れ許可書」 ※期間によっては「国外留学申請書」も提出してください。

帰国後に行うこと

手続きの流れ	提出書類
① 学事担当に「国外研究」科目認定申請希望の旨を伝える（学事担当より学習指導副主任宛に「国外研究審査書類」を送付） ② 必要書類を準備 ③ 学習指導副主任に提出 ④ 専攻の審査部会（※）にて審査 ※学習指導副主任を中心に数名の教員で組織（審査部会での審査を経て、専攻長の捺印後、学事担当に提出） ⑤ 学習指導会議で承認	① 「研究報告書」（A4縦・横書き・600~1000字程度） ② 「国外研究先の指導教員または研究室長の研究内容の証明書」 ③ 「国外研究先での研究成果等（実績）を証明できるもの」（発表資料など） <以下は学習指導副主任もしくは審査担当者作成> ④ 「国外研究審査書類」（所定用紙） ※学事担当より学習指導副主任宛送付 ※専攻長の署名・捺印

6. 修士学位

- (1) 修士学位の種類は次のとおりです。
 - 基礎理工学専攻 修士（工学） または 修士（理学）
 - 総合デザイン工学専攻 修士（工学） または 修士（理学）
 - 開放環境科学専攻 修士（工学）
- (2) 基礎理工学専攻および総合デザイン工学専攻における修士学位の決定方法
 1. 修士学位の種別（工学、理学）は修士論文の内容により決定されます。
 2. 修士学位の種別は、修士論文審査を経たのち、専攻教員会議の承認を受けて決定されます。

7. 修士学位論文

提出方法等は変更になる場合があります。詳細は大学院掲示板、理工学研究科 Web サイトでお知らせしますので、修士学位論文の審査を受ける予定者は必ず確認してください。

「理工学部・理工学研究科トップページ」→「在学生」→「授業・履修・試験」→「卒業論文・学位論文」→「修士論文」

URL:http://www.gakuji.keio.ac.jp/yagami/syuusironbun_rikouken.html

(1) 修士学位論文題目の提出

- ・論文題目を keio.jp 授業支援システムを利用して所定期間内に提出してください。
- ・題目は指導教員の承認が必要です。

(2) 修士学位論文審査および最終試験日程

- ・春学期9月修了者 7月下旬から8月中旬に審査
- ・秋学期3月修了者 1月下旬から2月上旬に審査

(3) 修士学位論文の提出

- ・論文（紙媒体）は指導教員の指示に従い1部作成してください（詳細は p.33・34を参照してください）。
- ・論文と要旨（PDF）は keio.jp 授業支援システムを利用して各自提出してください。

(4) 提出スケジュール

春学期9月修了者

修士論文題目

- ・提出期間 2019年6月上旬～6月25日（火） 16:00まで
- ・提出先 「keio.jp」－「授業支援システム」－「修士論文題目」
- ・提出内容 修士論文題目（和文・英文）

※論文題目の訂正について

提出した論文題目に誤字・脱字等があり、やむを得ず訂正を要する場合は、2019年8月20日までに論文題目を提出した際と同じく授業支援システム経由で論文題目を訂正してください。

修士論文（紙媒体） ※独自に論文回収を行う専修は、指導教員の指示に従ってください。

- ・提出日 2019年8月5日（月）
- ・提出先 理工学部学生課総合受付（25棟1階）
- ・提出内容 論文、学位論文使用許諾書

修士論文（PDF）

- ・提出期限 2019年8月30日（金） 16:00まで
- ・提出先 「keio.jp」－「授業支援システム」－「修士論文 PDF・要旨 PDF」
- ・提出内容 「論文 PDF」 : 中表紙・要旨（和文）・要旨（英文）・本文の順番
 「要旨 PDF」 : 中表紙・要旨（和文）・要旨（英文）の順番

秋学期3月修了者

修士論文題目

- ・提出期間 2019年11月上旬～11月25日（月） 16:00まで
- ・提出先 「keio.jp」－「授業支援システム」－「修士論文題目」
- ・提出内容 修士論文題目（和文・英文）

※論文題目の訂正について

提出した論文題目に誤字・脱字等があり、やむを得ず訂正を要する場合は、2020年2月12日までに論文題目を提出した際と同じく授業支援システム経由で論文題目を訂正してください。

修士論文（紙媒体） ※独自に論文回収を行う専修は、指導教員の指示に従ってください。

- ・提出日 2020年2月5日（水）
- ・提出先 14棟ディスカッションスペース33・34
- ・提出内容 論文、学位論文使用許諾書

修士論文（PDF）

- ・提出期限 2020年2月28日（金） 16:00まで
- ・提出先 「keio.jp」－「授業支援システム」－「修士論文 PDF・要旨 PDF」
- ・提出内容 「論文 PDF」： 中表紙・要旨（和文）・要旨（英文）・本文の順番
「要旨 PDF」： 中表紙・要旨（和文）・要旨（英文）の順番

注意

- ・論文は原則本人持参のこと。
- ・提出する論文の題目は、申告してある題目と同じでなければいけません。

(5) 修士学位論文審査基準

基礎理工学専攻

1. 主体的に取り組んだ研究に基づくものであること。
2. 研究内容が具体的かつ論理的に記述されており、新規性を有する成果、あるいは新たな観点・知見・解釈が含まれていること。
3. 従来の研究を適切に引用していること。

総合デザイン工学専攻

修士論文は、以下の項目について審査を行い、修士論文審査会における発表と質疑応答も踏まえて、総合的に評価する。

1. 修士論文提出者が主体的に取り組んだ研究成果に基づくものであること。
2. 新規性を有する成果や新たな観点・知見・解釈が含まれたものであること。
3. 先行研究の参考文献を適切に引用していること。
4. 研究内容が具体的かつ論理的に記述され、客観性を有すること。

開放環境科学専攻

修士論文は、以下の項目について審査を行い、総合的に評価する。

1. 修士論文提出者が主体的に取り組んだ研究成果に基づくものであること。
2. 新規性を有する成果や新たな観点・知見・解釈が含まれたものであること。
3. 先行研究を参考文献として適切に引用していること。
4. 研究内容が具体的かつ論理的に記述され、客観性を有すること。

2019年度修士論文提出書式

(和文で論文を書く場合)

※所定用紙はありません。見本のように作成してください。

A 背表紙

整理番号は、下表を参照して記入

2019年度

氏名

B 表紙 (紙ファイルに貼る)

C 中表紙

2019年度

修士論文

題目

氏名
学籍番号

職位 氏名

専攻名

2020年3月

9月修了の場合は
2019年9月

指導教員 ○ ○ ○ ○ ○ ○

慶應義塾大学大学院工学研究科
○○○○○○学専攻

D 論文要旨 (和文)

論文要旨

800字程度

E Thesis Abstract (英文)

Thesis Abstract

400Words程度

和文で論文を書いた人は、Thesis Title(英文の論文題目)を記入してください。

基礎理工学専攻		総合デザイン工学専攻		開放環境科学専攻	
1-1	数理科学	2-1	マルチメディア・デザイン科学	3-1	空間・環境デザイン工学
1-2	物理学	2-2	システム統合工学	3-2	環境エネルギー科学
1-3	分子化学	2-3	電気電子工学	3-3	応用力学・計算力学
1-4	物理情報	2-4	マテリアルデザイン科学	3-4	情報工学
1-5	生物化学			3-5	オープンシステムマネジメント
1-6	生命システム情報				

※ **C** 中表紙・**D** 論文要旨 (和文) ・ **E** Thesis Abstract (英文) ・ **目次**・**本文**の順に綴じてください。

※ **D** 論文要旨 (和文) と **E** Thesis Abstract (英文) には、所定用紙はありません。見本のように作成してください。

※ **A** ~ **E** のいずれの書類にも、**専修名**、**研究室名**、**提出日**、**慶應のペンマーク**等は、記載しないでください。

http://www.gakujii.keio.ac.jp/yagami/syuusironbun_rikouken.html

「理工学部・理工学研究科トップページ」→「在学生」→「授業・履修・試験」→「卒業論文・学位論文」→「修士論文」

2019年度修士論文提出書式

(英語で論文を書く場合)

※所定用紙はありません。見本のように作成してください。

A 背表紙

X-X

XXXXXXXXXX

XXXXXXXXXX

Academic Year 2019

XXXXXXXX

整理番号は、下表を参照して記入

題目

氏名

B 表紙 (紙ファイルに貼る)

C 中表紙

Master's Thesis

Academic Year 2019

題目

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

氏名
学籍番号

XXXXXXXXXX
(Student ID No.: XXXXXXXXXXXXX)

職位 氏名

Advisor XXXXX XXXXXXXX

March 2020 September 2019

9月修了の場合は

専攻名

Kaio University
Graduate School of Science and Technology
School of XXXXXXXXX

D 論文要旨 (和文)

論文要旨

800字程度

英語で論文を書いた人も和文要旨は必須です(留学生を除く)。

E Thesis Abstract (英文)

Thesis Abstract

400Words程度

基礎理工学専攻 Fundamental Science and Technology	総合デザイン工学専攻 Integrated Design Engineering	開放環境科学専攻 Science for Open and Environmental Systems
1-1 数理科学	2-1 マルチメディア/ナリ・デザイン科学	3-1 空間・環境デザイン工学
1-2 物理学	2-2 システム統合工学	3-2 環境エネルギー科学
1-3 分子化学	2-3 電気電子工学	3-3 応用力学・計算力学
1-4 物理情報	2-4 マテリアルデザイン科学	3-4 情報工学
1-5 生物化学		3-5 オープンシステムマネジメント
1-6 生命システム情報		

※ **C** 中表紙・**D** 論文要旨 (和文) ・**E** Thesis Abstract (英文) ・目次・本文の順に綴じてください。

※ **D** 論文要旨 (和文) と **E** Thesis Abstract (英文) には、所定用紙はありません。見本のように作成してください。

※ **A** ~ **E** のいずれの書類にも、専修名、研究室名、提出日、慶應のペンマーク等は、記載しないでください。

http://www.gakuji.keio.ac.jp/yagami/syuusironbun_rikouken.html

「理工学部・理工学研究科トップページ」→「在学生」→「授業・履修・試験」→「卒業論文・学位論文」→「修士論文」

後期博士課程

理工学研究科の後期博士課程は、将来にわたり理工学分野における指導者として社会に貢献し得る人材の輩出を目的としています。同課程を経て博士学位を取得するためには、以下が必要とされます。

- (1) 専門分野において明確な成果が得られていること
- (2) 高度な研究を自立して行っていける能力が示されていること

1. 後期博士課程の修了要件

後期博士課程の修了要件は、同課程に3年以上在学し、研究上必要な指導を受け、「特別研究第2」（6単位）を取得し、博士学位論文の審査ならびに最終試験に合格することです。

ただし、在学期間については、3年よりも短縮できる可能性があります。優れた研究業績を挙げ、博士論文の審査および最終試験に合格した場合には、1年から2年半（修士課程の在学年数と併せて3年以上）の在学期間をもって後期博士課程を修了することができます。

2. 指導教員

入学時に、所属する専攻の「特別研究第2」の科目担当者の中から指導教員を選んでください。博士論文の指導は指導教員から受けることになります。なお、必要な場合には指導教員以外の教員から共同指導を受けることもできます。専任教員（専攻教員会議の構成員）のほかに、客員教授、客員准教授も共同指導教員となることができます。

3. 特別研究第2（6単位）

特別研究第2は、自主的な研究活動を推進しつつ、指導教員の指導のもと、博士論文の作成ならびに研究に関する積極的な議論の展開を主な目的とした科目です。入学時の履修申告期間に、必ず履修申告してください。

4. 修士課程授業科目・他研究科設置科目の履修

指導教員が必要と認めた場合には、修士課程の授業科目（他の専攻の設置科目を含む）や他研究科の授業科目等（修士課程授業科目を含む）を履修することができます。履修申告期間に履修申告をしてください。

5. 研究成果の公表

後期博士課程の学生には、研究成果の公表が求められます。学術雑誌への論文投稿、国際会議や主要な学会等での研究成果の発表を積極的に行ってください。これらの成果公表は博士学位を請求（博士論文を提出）するための要件となっています。その要件は専攻・専修ごとに多少異なります。詳細については指導教員あるいは学習指導副主任に確認してください。

6. 在学期間および在学に関する届出

理工学研究科後期博士課程の標準修業年限は3年間（休学期間を除く）ですが、同一研究科に在学し得る最長年限は入学から起算して6年です。入学から起算して6年以内であれば、博士学位論文（課程博士）の申請資格があります。

(p.90慶應義塾大学大学院理工学研究科の課程による博士学位審査規程1条参照)

後期博士課程に入学後、標準修業年限（3年）の満了を迎える者は、所定の期間（4月入学者は標準修業年限満了前の1月中旬、9月入学者は標準修業年限満了前の7月中旬）に以下の3種類の書類のうち、いずれかを提出してください。これらはいずれも次学期の学籍をどうするかについて届け出るためのものです。

提出にあたっては、いずれも指導教員の許可印が必要です。学位論文の進捗状況について指導教員に十分相談のうえ、許可印を受けるようにしてください。

(1) 「後期博士課程修了予定報告書」（対象：後期博士課程1～3年）

後期博士課程修了に必要な単位を取得し、大学院学則第106条に規定する博士論文の審査および最終試験に合格し（合格する見込みであり）、修了予定である場合。後期博士課程1～2年の者で標準修業年限満了前に修了する場合も提出してください。

(2) 「在学期間延長許可願」（対象：後期博士課程3年）

後期博士課程に入学後、4年目以降も引き続き在学を希望する場合。1年単位での延長手続きが必要です。

(3) 「所定単位取得退学届」(対象：後期博士課程3年)

後期博士課程に所定年限(3年)以上在学し、所定の単位数(「特別研究第2」の6単位)を取得し、大学院学則第106条に規定する博士論文の審査および最終試験に合格せずに教育課程を終えて退学する場合。3年未満では所定単位取得退学をすることはできません。

提出時期：年1回(4月入学者は標準修業年限満了前の1月中旬、9月入学者は標準修業年限満了前の7月中旬)。

ただし、上記(2)を提出した者は、学位論文の進捗に応じて半年後もしくは1年後に、改めて上記(1)～(3)のいずれかの書類を提出してください。

提出場所：学生課専用ポスト

上記(1)～(3)の用紙の入手方法：以下のURLより書類をダウンロードできます。

「理工学部・理工学研究科トップページ」→「在学生」→「授業・履修・試験」→「各種届出用紙」→「[理工学研究科]博士課程：次学期学籍の届出」

URL:http://www.gakuj.keio.ac.jp/yagami/gakuseki_rikouken.html

7. 博士学位申請手続き

理工学研究科作成の「博士学位申請手続き要綱」(入手先は以下のURL)を参照してください。関係規程は本履修案内p.87～93を参照してください。

「理工学部・理工学研究科トップページ」→「在学生」→「授業・履修・試験」→「卒業論文・学位論文」→「博士論文」

URL:http://www.gakuj.keio.ac.jp/yagami/hakaseronbun_rikouken.html

8. 博士学位審査

後期博士課程の修了審査は、提出された博士論文の審査と最終試験より成ります。

修了審査は、各専攻において以下のように行います。

- (1) 学位申請受理は所属する専攻で行われ、審査委員が決められます。また専攻の考え方や専門分野の特性により、その業績を判断するため学外から審査委員を加えることがあります。
- (2) 博士学位論文は定められた審査委員により厳正に審査され、各専攻において公聴会が開かれます。
- (3) 最終試験は学位請求論文に関係する分野についての学識と語学力について行います。
- (4) これらの審議の後、各専攻において最終審査が行われます。

基礎理工学専攻

基礎理工学専攻では、基礎科学、基礎工学の諸分野において、完成度の高い研究成果をあげ、将来にわたり高度な研究を行い、社会に貢献できる資質を有している学生を博士学位授与の対象とします。

(1) 博士学位の申請について

学位申請は、指導教員が学位を与えるのにふさわしいかどうかを慎重に判断し、専攻に推薦します。

(2) 研究業績について

博士学位申請者には、博士学位論文の骨子となる成果の主要な部分が、標準とされる学術誌に掲載または掲載受理されていることを最終試験終了までに求めます。また、後期博士課程における研究活動に関連した、

①国際会議や学会発表等の記録

②参考論文、発表論文(受理を受けていない投稿論文も含む)

③研究経験や教育指導経験

を必要に応じて添付します。上記項目①～③の添付については、指導教員(主査予定者)の指示を受けてください。

(3) 予備審査について

博士学位申請予定者は、学位申請前に予備審査を受けます。予備審査は履修している特別研究第2の全担当者、および副査予定者により行います。予備審査で承認が得られた場合は学位申請の手続きをすることができます。なお、予備審査開始の段階では、博士学位論文が完成している必要は必ずしもありません。

総合デザイン工学専攻

- (1) 総合デザイン工学専攻における学位授与適否の判断は以下により行います。
 - ①学位申請に該当する研究の成果が理学、工学および工業の発展に寄与するものであること。
 - ②専攻分野に関する十分な知識と見識を持ち、将来において、国際的な広い分野での新しい研究・開発活動を先導的に行える資質を持つこと。
- (2) 博士学位審査申請のための要件については、博士申請論文の骨子となる部分が、公刊論文として当該分野の学術誌に査読を経て複数掲載（掲載受理を含む）されていることを標準とし、上記の博士学位修了基準を満たしていると判断されることとします。

上記の要件(1)、(2)を満たす学生は修了期間にとらわれずに学位申請が可能です。
- (3) 研究業績については、博士学位授与の判断の参考資料として、以下のような成果を学位申請時に添付してください。
 - ①公刊論文（掲載受理を含む）
 - ②学会や国際会議等での発表の記録
 - ③その他の研究活動の記録

開放環境科学専攻

- (1) 博士学位授与の適否は、博士学位申請者が専攻分野に関する十分な知識と見識を持ち、今後も高度な知的生産活動を展開する資質を有し、その基本的方法を身につけていることを基準として判断します。

また、理工学の方法の広範囲への拡大を目指す本専攻においては、研究の形式等について進取の立場で柔軟に判断します。
- (2) 博士学位論文の審査は、博士学位申請者の指導教員（主査）が専攻に設けられた審査委員会の議を経て行います。
- (3) 研究計画決定に際して、その計画による後期博士課程修了に関する判断基準が指導教員から明示されます。
- (4) 研究成果については、博士学位申請者は学術論文に限らず、その他の形で公表された関連した分野における成果を学位申請時に報告することができます。

また、後期博士課程における研究活動に関連した

 - ①国際会議や学会発表等の記録
 - ②研究経験

を必要に応じて、指導教員の助言に基づき添付してください。

9. 博士学位論文審査基準

基礎理工学専攻

1. 主体的に取り組んだ研究であり、適切な方法論や考察または十分な実証に基づいたものであること。
2. 十分な新規性・独創性を有し、理学、工学、あるいは関連する学術分野や社会の発展に寄与するものであること。
3. 従来の研究を独自に調査し、的確な記述と引用がなされ、研究の学術的位置づけが明示されていること。

総合デザイン工学専攻

博士論文は、以下の項目について審査を行い、公聴会および最終審査会における発表と質疑応答も踏まえて、総合的に評価する。

1. 博士学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果に基づくものであること。
2. 十分な新規性・独創性を有し、理学、あるいは工学および工業の発展に寄与するものであること。
3. 先行研究についての的確な記述と参考文献の引用がなされ、研究の学術的位置づけが明示されていること。
4. 研究内容が具体的かつ論理的に記述され、客観性を有すること。
5. 博士論文の骨子となる内容が、学位申請者が主たる著者である公刊論文として学術誌に複数掲載されており、それらが他の博士論文に関連する原著論文とされていないこと。

開放環境科学専攻

博士論文は、以下の項目について審査を行い、総合的に評価する。

1. 学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果に基づくものであること。
2. 十分な新規性・独創性を有し、理学、あるいは工学または産業の発展に寄与するものであること。
3. 先行研究についての的確な記述と参考文献としての引用がなされ、研究の学術的位置づけが明示されていること。
4. 研究内容が具体的かつ論理的に記述され、客観性を有すること。
5. 博士論文の骨子となる内容が、それぞれの専修で定める基準を満足すること。

6. 公聴会を開催し、博士論文の内容に関する発表と質疑に対する応答が的確に行われていること。

10. 博士学位

博士学位の種類は次のとおりです。

基礎理工学専攻 博士（工学）または博士（理学）

総合デザイン工学専攻 博士（工学）または博士（理学）

開放環境科学専攻 博士（工学）

上記の他、博士（学術）の学位を授与されることがあります。

11. 学位が授与された後の博士学位論文

博士学位が授与された場合、学位論文は、論文審査の主査、理工学メディアセンターおよび国会図書館に保管されます。論文要旨ならびに論文審査要旨は、「理工学部研究報告別冊」の「博士学位論文」に公表されます。

履修要項

1. 登録番号・分野・履修申告欄（A欄B欄）

(1) 登録番号

時間割に科目毎に記載されている5桁の番号で、履修申告の際に使用します。集中講義や4学期制科目等で複数の曜日・時限にわたって開講している授業科目については、1カ所に登録番号を登録することですべての時限についても登録されます。

(2) 分野

科目を種類ごとに分類したものです（修士課程は p.46～47の分野一覧、博士課程は p.48の分野一覧を参照）。理工学研究科の時間割表に掲載されている授業科目は、登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録されます。（A欄申告）

ただし、一つの科目に対して複数の分野を選択できる場合や他研究科の科目を履修する場合などには、B欄を選択して希望する分野を登録しなければなりません。

(3) A欄

履修申告欄はA欄・B欄によって構成されています。通常はA欄で履修申告してください。

(4) B欄

複数の分野で履修可能な科目や他研究科科目等を履修申告する際にはB欄を選択する必要があります。履修申告時には、B欄分野番号（2桁）を使って、どの分野の単位として履修申告するか選択してください。この番号は科目を正しく履修申告するための大切なものです。適用学則によりB欄分野番号は異なりますので、間違いの無いように登録してください（修士課程は p.45のB欄分野表、博士課程は p.48の分野一覧を参照）。

2. 修士課程修了に必要な単位数と指定科目群

(1) 修士課程修了に必要な単位について

課題研究（4単位）・特別研究第1（6単位）・主専門8単位を含め合計30単位以上取得すること。

※履修科目は、指導教員の指導・許可を受けてください。

※単位数以外に定められている修士課程修了要件については p.29を参照してください。

必修科目		
課題研究	<ul style="list-style-type: none"> 第1学年の最初の学期に履修申告し、1年間以上履修すること。 課題研究（4単位）を含む16単位以上を取得すると、修士論文着手（特別研究第1の履修）が認められます。 	4単位
特別研究第1	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員による修士論文作成の指導、指導教員との討論を主な目的とした科目です。 	6単位

主専門修了要件	
修士課程修了時の指導教員が所属する教育研究分野（以下専修という）の指定科目群から必要単位数を取得すること。 ・必修科目を指定している専修もあります。次項「主専門一覧」を参照してください。 ・学部4年生時に自由科目として取得したそれらの大学院設置科目（学部4年次先取修得科目）を含めることも可能です。	8単位以上

副専門修了要件	(注) 修士課程修了に副専門修了は必須要件ではありません。
専修の指定科目群から必要単位数を取得すること。 ・専修により副専門修了指定条件があります。次項「副専門一覧」を参照してください。 ・他専攻の専修の副専門を選択することも可能です。 ・主専攻と同一の副専門修了は認められません。 ・学部4年生時に自由科目として取得した大学院設置科目(学部4年次先取修得科目)を含めることは認められません。 ・副専門を複数置いてある専修において、副専門指定科目群間で共通している科目がある場合、修了要件へのダブルカウントは認められません。 ・主/副専門を複数置いてある専修や他専修の主専攻科目と共通する科目がある専修において、主専攻修了単位に含めた科目を副専門の修了要件へも含めることは認められません。 ・学部設置科目を副専門科目に指定している専修において、学部時に修得済みの科目を副専門の修了要件へ含めることは認められません。	4、6または8単位以上 (専修により異なる)

選択科目	(注) 自由科目とは異なり、修了要件に含めることができます。
理工学研究科設置科目	上限なし
理工学研究科設置科目(学部4年次先取修得科目) ※所定用紙有。指導教員の承認印が必要	(主専攻への算入分と合わせて) 上限8単位まで
総合科目	上限6単位まで
理工学部学科専門科目 ※所定用紙有。指導教員の承認印が必要	(総合科目と合わせて) 上限6単位まで
他研究科設置科目 ※所定用紙有。指導教員の承認印が必要	
他学部設置科目 ※所定用紙有。指導教員の承認印が必要	

(2) 主専門一覧 ※【他の副専門との共通科目】主専門に含めた場合には副専門としてカウントできません。

専攻	専修	主専門名	指定科目群
基礎	数理学専修	数学	確率特論A, 確率特論B, 確率特論C, 解析学特論, 数理ファイナンス特論, 数理科学特論A, 数理科学特論B, 数理科学特論C, 離散数学特論, 関数方程式特論A, 関数方程式特論B, 幾何学特論A, 幾何学特論B, 幾何学特論C, 代数学特論A, 代数学特論B, 代数学特論C
		統計学	確率特論A, 確率特論B, 確率特論C, 解析学特論, 数理ファイナンス特論, 数理科学特論A, 数理科学特論B, 数理科学特論C, 離散数学特論, 統計科学特論A, 統計科学特論B, 統計科学特論C, 計算数学特論A, 計算数学特論B, データサイエンス特別講義
基礎	物理学専修	物理学	スピエレクトロニクス, レーザー物理学, 計算物理学特論, 原子分子分光学, 場の理論, 放射光物理学, 多体系の量子論, 低温物理学, 統計物理学, 量子光学, 古典流体の緩和過程, 宇宙電波天文学, 凝縮系物理学特論, クォーク・ハドロン物理学, 光物性物理学特論
基礎	分子化学専修	分子化学	表面界面科学, 表面化学特論, 基礎有機化学特論, 生物無機化学特論, 反応有機化学特論, 有機合成化学特論, 有機反応機構特論, 物性有機化学特論, 理論分子化学特論, 有機金属化学特論第1, 有機金属化学特論第2, 有機光化学特論, 糖質有機化学特論, 有機触媒反応特論, 糖質生命化学特論 【副専門 物理学 との共通科目】 計算物理学特論, 原子分子分光学 【副専門 物理情報 との共通科目】 応用量子物理, イオン工学 【副専門 生物化学 との共通科目】 分子生命化学特論, 細胞生物学特論, 生体分子有機化学特論 【副専門 生命科学・情報学 との共通科目】 神経細胞の物理化学, 生体分子機能特論 【副専門 環境エネルギー科学 との共通科目】 非線形化学動力学 【副専門 応用力学・計算力学 との共通科目】 分子動力学特論

※【他の副専門との共通科目】主専門に含めた場合には副専門としてカウントできません。

専攻	専修	主専門名	指定科目群
基礎	物理情報専修	物理情報	シミュレーション工学, センシング工学, 応用数理解析, 応用物理特別講義A, 応用物理特別講義B, 応用物理特別講義C, 応用量子物理, 医用画像工学, 医用光工学, 電子伝導論, イオン工学, 生体制御, モデルベース制御理論, 量子エレクトロニクス, 超伝導と物性工学, デバイス物性工学, 量子力学の数理工学 【副専門 <u>電気電子デバイス</u> との共通科目】 半導体デバイスの物理とモデリング 【副専門 <u>マテリアルデザイン科学</u> との共通科目】 電気・磁気機能物質
基礎	生物化学専修	生物化学	バイオマテリアル特論, 分子生命化学特論, 天然物化学特論, 発生生物学特論, 細胞生物学特論, 生体分子有機化学特論, 生物有機化学特論, 現代薬学特論, 糖質生命化学特論 【副専門 <u>分子化学</u> との共通科目】 基礎有機化学特論, 有機合成化学特論, 有機反応機構特論 【副専門 <u>生命科学・情報学</u> との共通科目】 神経細胞の物理化学, 生体分子機能特論, 生命科学特論
基礎	生命システム情報専修	生命科学・情報学	必修科目 : ポストゲノム生命科学方法論, ニューロインフォマティクス, 先端創薬科学 選択科目 : システムバイオロジー特論, 神経細胞の物理化学, 生体分子機能特論, 生命科学特論
総デ	マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	機械科学	必修科目 : マルチディシプリナリ科学特別講義 選択科目 : 非線形力学系の解析と制御, 非線形固体力学, 流れ場への数理的アプローチ, カオス力学応用論 【副専門 <u>デザイン科学</u> との共通科目】 超精密加工計測, MEMS 特論ーデザインおよびマイクロファブ리케이션ー, 材料強度学, 生体材料工学, 宇宙探査工学, バイオミメティックマイクロナノ工学 【副専門 <u>マテリアルデザイン科学</u> との共通科目】 自己組織化の科学
		デザイン科学	必修科目 : デザイン科学特別講義 選択科目 : デザイン科学, デザインプロジェクト, メカニカル・インタフェース・デザイン ※デザイン科学を2017年度までに取得している場合は, 必修科目として扱われます。 【副専門 <u>機械科学</u> との共通科目】 超精密加工計測, MEMS 特論ーデザインおよびマイクロファブ리케이션ー, 材料強度学, 生体材料工学, 宇宙探査工学, バイオミメティックマイクロナノ工学
総デ	システム統合工学専修	システム統合工学	必修科目 : 先進システムデザイン工学 選択科目 : 応用システムデザイン工学, システム制御設計論, 高度設計生産システム, 実時間信号処理, 知能化機械システム, 熱エネルギーシステム論, 熱流体システムデザイン論, システムバイオメカニクス, マイクロ・ナノ空間システム統合工学, 電機統合システム, マイクロデバイスシステムデザイン, 統合化最適デザイン工学, 応用パワーエレクトロニクス
総デ	電気電子工学専修	電気電子デバイス	必修科目 : 電気電子総合演習 選択科目 : 光ナノ量子制御, ナノエレクトロニクス, マイクロオプティクス, 光エレクトロニクス, フォトニックナノ構造, 有機電子材料・デバイス, レーザプロセッシング ※レーザプロセッシングを2017年度までに取得している場合は, 副専門として扱われます。 【副専門 <u>物理情報</u> との共通科目】 半導体デバイスの物理とモデリング 【副専門 <u>電気電子システム</u> との共通科目】 システムLSI設計, 数値モデリングと計算機シミュレーション 【副専門 <u>マテリアルデザイン科学</u> との共通科目】 機能薄膜エンジニアリング

※【他の副専門との共通科目】主専門に含めた場合には副専門としてカウントできません。

専攻	専修	主専門名	指定科目群
総デ	電気電子工学専修	電気電子システム	<p>必修科目：電気電子総合演習</p> <p>選択科目：デジタル無線通信，光ネットワークシステム，メディア信号処理，画像工学特論，光情報計測，信号処理工学特論，システムエレクトロニクス特論</p> <p>※レーザプロセッシングを2017年度までに取得している場合は，主専門として扱われます。</p> <p>【副専門 電気電子デバイス との共通科目】 システムLSI設計，数値モデリングと計算機シミュレーション</p>
総デ	マテリアルデザイン科学専修	マテリアルデザイン科学	<p>マテリアル合成の化学，機器分析総論，機能デザイン工学，機能物質概論，固体の機能設計，光機能物質，電気・磁気機能物質，光学材料特論，機能薄膜エンジニアリング，電気化学特論，化学・バイオセンサーとセンシングマテリアル</p> <p>※機能デザイン工学および機能物質概論の2科目は推奨科目とします。</p> <p>【副専門 機械科学 との共通科目】 自己組織化の科学</p>
開放	空間・環境デザイン工学専修	空間・環境デザイン工学	<p>必修科目：空間・環境デザイン工学特別講義第1</p> <p>選択科目：エネルギー利用・流体物性論，ヒューマンロボティクス，宇宙システム工学，居住環境デザイン工学，空間型インタフェース論，計算固体力学入門，建築デザイン工学，建築安全工学，建築計画学，建築構造デザイン学，建築動力学，車両・交通工学，知的制御工学，公共空間とコミュニケーション，サステナブル建築・都市特論，建築形態分析，インタラクティブ・ロボティクス，都市・建築レジリエンス特論</p>
開放	環境エネルギー科学専修	環境エネルギー科学	<p>環境機能材料工学特論，化学工学特論，環境エネルギー科学特論第1，環境化学特論，環境エネルギー科学特論第2，計測物理特論，大気環境科学，燃焼工学特論，反応工学特論，反応装置工学，反応熱流体力学，ナノマテリアル特論，分子結晶の物理化学，移動現象操作，製品・物質循環論，非線形化学動力学</p>
開放	応用力学・計算力学専修	応用力学・計算力学	<p>必修科目：応用力学・計算力学特論第1，応用力学・計算力学特論第2（どちらか一方を選択）</p> <p>選択科目：圧縮性流体力学，アクチュエータ工学特論，身体運動のバイオメカニクスと制御，分子動力学特論，乱流の基礎と数理，乱流のモデルと応用，混相流体力学，有限要素モデリング・シミュレーション，応用力学・計算力学特論第3，応用力学・計算力学特論第4，先進材料の力学と数値シミュレーション</p>
開放	情報工学専修	<p>コンピュータサイエンス</p> <p>情報通信ネットワーク</p> <p>インタラクティブメディア</p>	<p>オペレーティングシステム特論，データベース特論，マイクロプロセッサアーキテクチャ特論，形式言語特論，計算モデル特論，分散システム特論，ソフトウェア工学特論，コンピュータアーキテクチャ特論，SoC設計技術，並行計算モデル</p> <p>ネットワーク工学特論，計算機システム設計論，ネットワークサービス特論，コンピュータネットワーク特論，デジタル通信理論特論，インターネットバックボーンアーキテクチャ特論，アドホック・センサネットワーク</p> <p>自然言語処理特論，実世界指向コミュニケーション特論，コンピュータ可視化特論，インタラクション，コンピュータビジョン，ソフトコンピューティング，複合現実感</p>
開放	オープンシステムマネジメント専修	オープンシステムマネジメント	<p>以下の4つの基幹学術分野において、少なくとも3分野から各1科目以上を合格し、合計4科目8単位取得</p> <p><分野1> 応用統計解析特論，オペレーションズ・リサーチ特論，都市解析のオペレーションズ・リサーチ，応用実験計画法特論，総合的品質管理特論，人間とシステム</p> <p><分野2> Webインテリジェンス論，人工知能と複雑ネットワーク，パターン認識と学習</p> <p><分野3> インダストリアル・エンジニアリング特論，オペレーションズ・マネジメント，生産システムと情報，人間工学特論Ⅰ，人間工学特論Ⅱ</p> <p><分野4> 確率的システムのモデリングと分析，情報経済学特論，ビジネスエコノミクス特論，フィナンシャル・エンジニアリング特論第1，フィナンシャル・エンジニアリング特論第2</p>

(3) 副専門一覧

専修	副専門名	必要単位数	指定科目群
数理学専修	数学	4 単位	以下の 3 つの分類のいずれかにおいて 4 単位以上取得。 <分類 1>代数学特論 A, 代数学特論 B, 代数学特論 C <分類 2>幾何学特論 A, 幾何学特論 B, 幾何学特論 C <分類 3>関数方程式特論 A, 関数方程式特論 B
	統計学	4 単位	以下の 2 つの分類のいずれかにおいて 4 単位以上取得。 <分類 1>統計科学特論 A, 統計科学特論 B, 統計科学特論 C <分類 2>計算数学特論 A, 計算数学特論 B
物理学専修	物理学	6 単位	主専門「物理学」と同一の科目群
分子化学専修	分子化学	4 単位	物性有機化学特論, 有機合成化学特論, 有機反応機構特論, 理論分子化学特論, 有機金属化学特論第 1, 有機金属化学特論第 2, 生物無機化学特論, 表面界面科学, 基礎有機化学特論, 反応有機化学特論, 表面化学特論, 有機光化学特論, 糖質有機化学特論, 有機触媒反応特論, 有機化学セミナー 1, 有機化学セミナー 2, 化学製品と現代生活
物理情報専修	物理情報	8 単位	主専門「物理情報」と同一の科目群
生物化学専修	生物化学	4 単位	少なくとも<分類 1>の科目から 2 単位を取得すること。 <分類 1>生物化学専修が設置している主専門科目のうち次の科目: 分子生命化学特論, バイオマテリアル特論, 生体分子有機化学特論, 発生生物学特論, 生物有機化学特論, 細胞生物学特論, 天然物化学特論, 現代薬学特論 <分類 2>次の学科専門科目: 分子生命化学 1, 分子生命化学 2, 高分子化学, 応用高分子化学, 天然物有機化学, 有機化学第 3 (合成デザイン), 生物活性分子の化学, 有機構造決定法, 生体分子分析, 発生生物学, 生物化学, 細胞生物化学
生命システム情報専修	生命科学・情報学	6 単位	システムバイオロジー特論, 神経細胞の物理化学, 生体分子機能特論, 生命科学特論, 生命システム情報特別講義 A/B
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	機械科学	6 単位 (必修) 2 単位 (選択) 4 単位	主専門「機械科学」と同一の科目群
	デザイン科学	6 単位 (必修) 2 単位 (選択) 4 単位	主専門「デザイン科学」と同一の科目群 ※デザイン科学を 2017 年度までに取得している場合は、必修科目として扱われます。
システム統合工学専修	システム統合工学	4 単位	知能化機械システム, 電機統合システム, マイクロ・ナノ空間システム統合工学
電気電子工学専修	電気電子デバイス	6 単位	数値モデリングと計算機シミュレーション, システム L S I 設計, ナノエレクトロニクス, 半導体デバイスの物理とモデリング, 光エレクトロニクス, マイクロオプティクス, 光ナノ量子制御, フォトニックナノ構造, 有機電子材料・デバイス, レーザプロセスング
	電気電子システム	6 単位	数値モデリングと計算機シミュレーション, システム L S I 設計, 画像工学特論, 光情報計測, メディア信号処理, 信号処理工学特論, 光ネットワークシステム, デジタル無線通信, システムエレクトロニクス特論
マテリアルデザイン科学専修	マテリアルデザイン科学	6 単位	主専門「マテリアルデザイン科学」と同一の科目群
空間・環境デザイン工学専修	空間・環境デザイン工学	6 単位	主専門「空間・環境デザイン工学」と同一の科目群 (必修の条件は外す)
環境エネルギー科学専修	環境エネルギー科学	4 単位	主専門「環境エネルギー科学」と同一の科目群

専修	副専門名	必要単位数	指定科目群
応用力学・計算力学専修	応用力学・ 計算力学	4 単位 (必修) 2 単位 (選択) 2 単位	主専門「応用力学・計算力学」と同一の科目群 ※必修科目で4単位を取得した場合も、選択科目の2単位は必要です。
情報工学専修	コンピュータサイエンス	6 単位	主専門「コンピュータサイエンス」と同一の科目群
	情報通信ネットワーク	6 単位	主専門「情報通信」と同一の科目群
	インタラクティブメディア	6 単位	主専門「インタラクティブメディア」と同一の科目群
オープンシステムマネジメント専修	オープンシステムマネジメント	6 単位	主専門「オープンシステムマネジメント」と同一の科目群。少なくとも3分野から各1科目以上を合格し、合計3科目6単位以上取得

3. B欄分野表 修士課程

(1)共通 B欄分野番号

	B欄分野番号	分野	使用例
共通	08	30-08-21	・以下の科目を機械科学の副専門科目として履修する場合 超精密加工計測, MEMS特論-デザインおよびマイクロファブリケーション-, 材料強度学, 生体材料工学, 宇宙探査工学, バイオメテックマイクロナノ工学, 自己組織化の科学 ※機械科学の主専門科目として履修する場合はA欄申告をしてください。
共通	09	30-09-21	・以下の科目をデザイン科学の副専門科目として履修する場合 超精密加工計測, MEMS特論-デザインおよびマイクロファブリケーション-, 材料強度学, 生体材料工学, 宇宙探査工学, バイオメテックマイクロナノ工学 ※デザイン科学の主専門として履修する場合はA欄申告をしてください。
共通	11	30-11-11	・以下の科目を電気電子デバイスの副専門科目として履修する場合 システムLSI設計, 数値モデリングと計算機シミュレーション ※電気電子デバイスの主専門として履修する場合はA欄申告をしてください。
共通	12	30-12-11	・以下の科目を電気電子システムの副専門科目として履修する場合 システムLSI設計, 数値モデリングと計算機シミュレーション ※電気電子システムの主専門として履修する場合はA欄申告をしてください。
共通	13	30-13-11	・以下の科目をマテリアルデザイン科学の副専門科目として履修する場合 自己組織化の科学, 電気・磁気機能物質 ※マテリアルデザイン科学の主専門として履修する場合はA欄申告をしてください。
共通	81	40-20-20	・理工学部設置学科専門科目(修了要件30単位に含む)として履修する場合 ※所定用紙(学生課にて配布)の提出も必要です。
共通	82	40-20-30	・他研究科設置科目(DMC機構を含む)として履修する場合 ※所定用紙(学生課にて配布)の提出も必要です。
共通	83	40-20-40	・他学部設置科目(修了要件30単位に含む)として履修する場合 ※所定用紙(学生課にて配布)の提出も必要です。
共通	84	40-20-50	・他大学研究科設置科目として履修する場合 ※所定用紙(学生課にて配布)の提出も必要です。
共通	90	90-10-10	・自由科目として履修する場合 ※理工学部総合教育(外国語)科目・教職科目等を履修する場合には所定用紙(学生課にて配布)の提出も必要です。

(2)特定の主専門の学生のみが使用する B欄分野番号

主専門	B欄分野番号	分野	使用例
分子化学	51	30-03-11	・以下の科目を物理学の副専門科目として履修する場合 計算物理学特論, 原子分子分光学
	52	30-05-11	・以下の科目を物理情報の副専門科目として履修する場合 応用量子物理, イオン工学
	53	30-06-11	・以下の科目を生物化学の副専門科目として履修する場合 分子生命化学特論, 細胞生物学特論, 生体分子有機化学特論
	54	30-07-11	・以下の科目を生命科学・情報学の副専門科目として履修する場合 神経細胞の物理化学, 生体分子機能特論
	55	30-15-11	・以下の科目を環境エネルギー科学の副専門科目として履修する場合 非線形化学動力学
	56	30-16-21	・以下の科目を応用力学・計算力学の副専門科目として履修する場合 分子動力学特論
生物化学	61	30-04-11	・以下の科目を分子化学の副専門科目として履修する場合 基礎有機化学特論, 有機合成化学特論, 有機反応機構特論
	62	30-07-11	・以下の科目を生命科学・情報学の副専門科目として履修する場合 神経細胞の物理化学, 生体分子機能特論, 生命科学特論
電気電子デバイス	13	30-13-11	・以下の科目をマテリアルデザイン科学の副専門科目として履修する場合 機能薄膜エンジニアリング

4. 分野一覧 修士課程

種類	専攻	分野名	分野	B 欄	
必修 科目	共通	課題研究	10-10-10	—	
		特別研究第 1	10-10-20	—	
主専門 科目	基礎	数学（主専門）	20-01-11	—	
		統計学（主専門）	20-02-11	—	
		物理学（主専門）	20-03-11	—	
		分子化学（主専門）	20-04-11	—	
		物理情報（主専門）	20-05-11	—	
		生物化学（主専門）	20-06-11	—	
		生命科学・情報学（主専門）＜必修＞	20-07-11	—	
		生命科学・情報学（主専門）＜選択＞	20-07-21	—	
		数学（主専門）／学部 4 年次修得科目認定	20-01-12	—	
		統計学（主専門）／学部 4 年次修得科目認定	20-02-12	—	
		物理学（主専門）／学部 4 年次修得科目認定	20-03-12	—	
		分子化学（主専門）／学部 4 年次修得科目認定	20-04-12	—	
		物理情報（主専門）／学部 4 年次修得科目認定	20-05-12	—	
		生物化学（主専門）／学部 4 年次修得科目認定	20-06-12	—	
		生命科学・情報学（主専門）／学部 4 年次修得科目認定 ＜必修＞	20-07-12	—	
		生命科学・情報学（主専門）／学部 4 年次修得科目認定 ＜選択＞	20-07-22	—	
		総合	機械科学（主専門）＜必修＞	20-08-11	—
			機械科学（主専門）＜選択＞	20-08-21	—
	デザイン科学（主専門）＜必修＞		20-09-11	—	
	デザイン科学（主専門）＜選択＞		20-09-21	—	
	システム統合工学（主専門）＜必修＞		20-10-11	—	
	システム統合工学（主専門）＜選択＞		20-10-21	—	
	電気電子デバイス（主専門）＜必修＞		20-11-11	—	
	電気電子デバイス（主専門）＜選択＞		20-11-21	—	
	電気電子システム（主専門）＜必修＞		20-12-11	—	
	電気電子システム（主専門）＜選択＞		20-12-21	—	
	マテリアルデザイン科学（主専門）		20-13-11	—	
	機械科学（主専門）／学部 4 年次修得科目認定 ＜必修＞		20-08-12	—	
	機械科学（主専門）／学部 4 年次修得科目認定 ＜選択＞		20-08-22	—	
	デザイン科学（主専門）／学部 4 年次修得科目認定 ＜必修＞		20-09-12	—	
	デザイン科学（主専門）／学部 4 年次修得科目認定 ＜選択＞		20-09-22	—	
	システム統合工学（主専門）／学部 4 年次修得科目認定 ＜必修＞		20-10-12	—	
	システム統合工学（主専門）／学部 4 年次修得科目認定 ＜選択＞		20-10-22	—	
電気電子デバイス（主専門）／学部 4 年次修得科目認定 ＜必修＞	20-11-12		—		
電気電子デバイス（主専門）／学部 4 年次修得科目認定 ＜選択＞	20-11-22		—		
電気電子システム（主専門）／学部 4 年次修得科目認定 ＜必修＞	20-12-12		—		
電気電子システム（主専門）／学部 4 年次修得科目認定 ＜選択＞	20-12-22		—		
マテリアルデザイン科学（主専門）／学部 4 年次修得科目認定	20-13-12	—			
開放	空間・環境デザイン工学（主専門）＜必修＞	20-14-11	—		
	空間・環境デザイン工学（主専門）＜選択＞	20-14-21	—		
	環境エネルギー科学（主専門）	20-15-11	—		
	応用力学・計算力学（主専門）＜必修＞	20-16-11	—		
	応用力学・計算力学（主専門）＜選択＞	20-16-21	—		
	コンピュータサイエンス（主専門）	20-17-11	—		
	情報通信ネットワーク（主専門）	20-18-11	—		
	インタラクティブメディア（主専門）	20-19-11	—		
	オープンシステムマネジメント（主専門）＜分野 1＞	20-20-11	—		
	オープンシステムマネジメント（主専門）＜分野 2＞	20-20-21	—		

種類	専攻	分野名	分野	B 欄
		オープンシステムマネジメント（主専門）＜分野 3＞	20-20-31	—
		オープンシステムマネジメント（主専門）＜分野 4＞	20-20-41	—
		空間・環境デザイン工学（主専門）／学部 4 年次修得科目認定 ＜必修＞	20-14-12	—
		空間・環境デザイン工学（主専門）／学部 4 年次修得科目認定 ＜選択＞	20-14-22	—
		環境エネルギー科学（主専門）／学部 4 年次修得科目認定	20-15-12	—
		応用力学・計算力学（主専門）／学部 4 年次修得科目認定 ＜必修＞	20-16-12	—
		応用力学・計算力学（主専門）／学部 4 年次修得科目認定 ＜選択＞	20-16-22	—
		コンピュータサイエンス（主専門）／学部 4 年次修得科目認定	20-17-12	—
		情報通信ネットワーク（主専門）／学部 4 年次修得科目認定	20-18-12	—
		インタラクティブメディア（主専門）／学部 4 年次修得科目認定	20-19-12	—
		オープンシステムマネジメント（主専門）＜分野 1＞／学部 4 年次修得科目認定	20-20-12	—
		オープンシステムマネジメント（主専門）＜分野 2＞／学部 4 年次修得科目認定	20-20-22	—
		オープンシステムマネジメント（主専門）＜分野 3＞／学部 4 年次修得科目認定	20-20-32	—
オープンシステムマネジメント（主専門）＜分野 4＞／学部 4 年次修得科目認定	20-20-42	—		
副専門 科目	基礎	数学（副専門）分類 1	30-01-11	—
		数学（副専門）分類 2	30-01-21	—
		数学（副専門）分類 3	30-01-31	—
		統計学（副専門）分類 1	30-02-11	—
		統計学（副専門）分類 2	30-02-21	—
		物理学（副専門）	30-03-11	—
		分子化学（副専門）	30-04-11	—
		物理情報（副専門）	30-05-11	—
		生物化学（副専門）分類 1	30-06-11	—
		生物化学（副専門）分類 2	30-06-21	—
		生命科学・情報学（副専門）	30-07-11	—
	総合	機械科学（副専門）＜必修＞	30-08-11	—
		機械科学（副専門）＜選択＞	30-08-21	p.45参照
		デザイン科学（副専門）＜必修＞	30-09-11	—
		デザイン科学（副専門）＜選択＞	30-09-21	p.45参照
		システム統合工学（副専門）	30-10-11	—
		電気電子デバイス（副専門）	30-11-11	p.45参照
		電気電子システム（副専門）	30-12-11	p.45参照
		マテリアルデザイン科学（副専門）	30-13-11	p.45参照
	開放	空間・環境デザイン工学（副専門）	30-14-11	—
		環境エネルギー科学（副専門）	30-15-11	—
		応用力学・計算力学（副専門）＜必修＞	30-16-11	—
		応用力学・計算力学（副専門）＜選択＞	30-16-21	—
		コンピュータサイエンス（副専門）	30-17-11	—
		情報通信ネットワーク（副専門）	30-18-11	—
		インタラクティブメディア（副専門）	30-19-11	—
		オープンシステムマネジメント（副専門）＜分野 1＞	30-20-11	—
		オープンシステムマネジメント（副専門）＜分野 2＞	30-20-21	—
		オープンシステムマネジメント（副専門）＜分野 3＞	30-20-31	—
オープンシステムマネジメント（副専門）＜分野 4＞	30-20-41	—		
選択 科目	共通	理工学研究科設置科目	40-10-10	—
		理工学研究科設置科目（学部 4 年次修得科目設定）	40-10-20	—
		総合科目	40-20-10	—
		理工学部設置学科専門科目（修了要件30単位に含む）	40-20-20	p.45参照
		他研究科設置科目（DMC 機構・G-SEC 講座を含む）	40-20-30	p.45参照
		他学部設置科目（修了要件30単位に含む）	40-20-40	p.45参照
		他大学研究科設置科目	40-20-50	p.45参照
自由 科目	共通	自由科目	90-10-10	p.45参照

5. 分野一覧 博士課程

B欄分野が指定されている科目は、科目を選択した後、B欄分野番号を選択してください。

B欄分野	分野	分野名	備考
—	01-01-01	理工学研究科設置科目★	
—	01-01-02	理工学研究科設置科目 (COE プロジェクト) ★	
42	01-02-01	他研究科設置科目 (DMC 機構・G-SEC 講座を含む) ★	所定用紙有
43	01-03-01	他大学研究科設置科目★	所定用紙有
—	01-06-01	総合科目★	
—	02-01-11	基礎理工学専攻特別研究第2	
—	02-01-21	総合デザイン工学専攻特別研究第2	
—	02-01-31	開放環境科学専攻特別研究第2	
49	09-01-01	自由科目★ (学部科目・教職科目を含む) (修了要件に含まれない後期博士課程設置科目を含む)	一部所定用紙有
48	09-02-01	外国語科目 (学部設置矢上総合教育科目) ★	所定用紙有

特に注意して確認すべき項目

【B欄分野】

履修申告時に選択する番号です。指定された履修パターンの時に選択します。

例・他研究科設置科目を修了要件に含む科目として履修する場合は42を選択

・自由科目として履修したい場合は49を選択

上表以外のB欄分野番号を選択している場合、エラーの恐れがあります。

※「他研究科」とは「政策・メディア研究科」「経済学研究科」などの慶應義塾の研究科を指します。

自分の所属する専攻とは異なる専攻の科目を履修する際にB欄分野42を選択しないでください。

理工学研究科に設置されている科目は、B欄を選択する必要はありません。

※★のついた科目、日本語科目 (留学生対象) は修了要件に含まれません。

6. 新旧科目対照表 修士課程

右欄記載の科目を履修している場合、該当する左欄の新設科目を履修しても、それによる取得単位は修了単位に含まれません。

総合科目

科目名 (2015年度以降)	科目名 (2014年度以前)
MACROECONOMIC DEVELOPMENTS AND ECONOMIC POLICY IN JAPAN	日本のマクロ経済と経済政策

基礎理工学専攻

科目名 (2015年度以降)	科目名 (2014年度以前)
解析学特論 計算数学特論B 関数方程式特論B バイオマテリアル特論 発生生物学特論 非線形化学動力学	関数解析特論 応用離散数学特論 非線形理論特論 ナノバイオマテリアル設計特論 分子発生生物学 化学系の非線形動力学

科目名 (2016年度以降)	科目名 (2015年度以前)
確率特論 A 確率特論 B 関数方程式特論 A 表面化学特論 半導体デバイスの物理とモデリング	確率特論 大域解析学特論 関数方程式特論 表面物性特論 半導体物性・デバイス 電子素子の物理

科目名 (2019年度以降)	科目名 (2018年度以前)
デバイス物性工学	低次元物性工学

総合デザイン工学専攻

科目名 (2015年度以降)	科目名 (2014年度以前)
マテリアル合成の化学 非線形化学動力学	マテリアル・プロセッシング 化学系の非線形動力学

科目名 (2016年度以降)	科目名 (2015年度以前)
先進システムデザイン工学 半導体デバイスの物理とモデリング 電気電子デバイス・システム特別講義 ナノエレクトロニクス	システム統合工学 A 半導体物性・デバイス 電子素子の物理 スマートデバイス・システム工学特別講義 電子機能デバイス

開放環境科学専攻

科目名 (2015年度以降)	科目名 (2014年度以前)
非線形化学動力学 環境エネルギー科学特論第1 環境エネルギー科学特論第2 応用力学・計算力学特論第1 応用力学・計算力学特論第2 システム分析設計特論	化学系の非線形動力学 環境・資源・エネルギー科学特論第1 環境・資源・エネルギー科学特論第2 応用計算力学特論第1 応用計算力学特論第2 社会情報システム特論

*以下の科目については、1つのみ履修可能です。

- ・応用力学・計算力学特論第1
- ・応用力学・計算力学特論第2

科目名 (2016年度以降)	科目名 (2015年度以前)
圧縮性流体力学 ソフトウェア工学特論 情報工学特論 A 情報工学特論 B	宇宙推進工学 ソフトウェア工学特論 I ソフトウェア工学特論 II スマートメディアコミュニケーション特論 A スマートメディアコミュニケーション特論 B

科目名 (2017年度以降)	科目名 (2016年度以前)
アクチュエータ工学特論	機能性流体の基礎と応用

科目名 (2019年度以降)	科目名 (2018年度以前)
人間工学特論 I 人工知能と複雑ネットワーク 人間工学特論 II	ヒューマン・ファクターズ特論 情報意味論 システム分析設計特論

7. 2019年度 先端科学技術国際コース科目

これらの科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。

専攻	授業科目名	開講学期	単位	担当者
総合科目 (GENERAL PROGRAM)	科学技術文化特論	秋学期	2単位	井本 由紀
	テクニカル・コミュニケーションⅠ	春学期	2単位	井本 由紀 ディル, ジョナサン
	テクニカル・コミュニケーションⅡ	秋学期	2単位	井本 由紀 ディル, ジョナサン
	MACROECONOMIC DEVELOPMENTS AND ECONOMIC POLICY IN JAPAN	秋学期	2単位	齋藤 潤
日本語 (JAPANESE)	日本語初級会話	秋学期	1単位	平 明子
	日本語初級会話2	秋学期	1単位	平 明子
	日本語第Ⅰ (A)	秋学期	1単位	佐内 かおる
	日本語第Ⅰ (B)	秋学期	1単位	佐内 かおる
	日本語第Ⅰ (C)	春学期	1単位	佐内 かおる
	日本語第Ⅰ (D)	春学期	1単位	佐内 かおる
	日本語第Ⅱ (A)	秋学期	1単位	赤木 奈央
	日本語第Ⅱ (B)	春学期	1単位	赤木 奈央
	日本語第Ⅲ (A)	秋学期	1単位	赤木 奈央
	日本語第Ⅲ (B)	春学期	1単位	赤木 奈央
	日本語第Ⅳ (A)	秋学期	1単位	菅野 高志
	日本語第Ⅳ (B)	春学期	1単位	菅野 高志
	日本語第Ⅴ (A)	春学期	1単位	2019年度 休講
	日本語第Ⅴ (B)	秋学期	1単位	2019年度 休講
基礎理工学専攻 (FUNDAMENTAL SCIENCE AND TECHNOLOGY)	学外特別研修 (インターンシップ)	春学期 秋学期	2単位	星野 一生
	化学製品と現代生活	秋学期	2単位	2019年度 休講
	実践化学プレゼンテーションⅠ	春学期	2単位	2019年度 休講
	実践化学プレゼンテーションⅡ	秋学期	2単位	2019年度 休講
	糖質有機化学特論	春学期	2単位	2019年度 休講
	有機化学セミナー1	春学期	2単位	2019年度 休講
	有機化学セミナー2	秋学期	2単位	2019年度 休講
	有機触媒反応特論	秋学期	2単位	2019年度 休講
	応用数理解析	春学期	2単位	本多 敏
	超伝導と物性工学	春学期	2単位	神原 陽一
	半導体デバイスの物理とモデリング	秋学期	2単位	2019年度 休講
	量子エレクトロニクス	秋学期	2単位	早瀬 潤子
	量子力学の数理工学	春学期	2単位	山本 直樹
	天然物化学特論	秋学期	2単位	2019年度 休講
	生命システム制御特論	秋学期	2単位	2019年度 休講
	システムバイオメカニクス	春学期	2単位	2019年度 休講
	知能化機械システム	秋学期	2単位	村上 俊之
	光情報計測	春学期	2単位	岡田 英史
	光機能物質	春学期	2単位	小池 康博
	非線形化学動力学	春学期	2単位	朝倉 浩一
総合デザイン工学専攻 (INTEGRATED DESIGN ENGINEERING)	学外特別研修 (インターンシップ)	春学期 秋学期	2単位	青山 英樹
	宇宙探査工学	秋学期	2単位	石上 玄也
	総合デザイン工学特別講義B	秋学期	2単位	金 侖在
	超精密加工計測	春学期	2単位	閻 紀旺
	流れ場への数理的アプローチ	秋学期	2単位	澤田 達男
	バイオメトリックマイクロナノ工学	春学期	2単位	尾上 弘晃
	メカニカル・インタフェース・デザイン	秋学期	2単位	森田 寿郎
	MEMS特論ーデザインおよびマイクロファブリケーションー	春学期	2単位	三木 則尚
	高度設計生産システム	春学期	2単位	青山 英樹 大森 哲朗
	システム制御設計論	春学期	2単位	大森 浩充 滑川 徹
	システムバイオメカニクス	春学期	2単位	2019年度 休講
	知能化機械システム	秋学期	2単位	村上 俊之
	システムエレクトロニクス特論	秋学期	2単位	2019年度 休講
	信号処理工学特論	春学期	2単位	湯川 正裕
	デジタル無線通信	春学期	2単位	眞田 幸俊
	電気電子総合演習	春学期	2単位	田邊 孝純
	半導体デバイスの物理とモデリング	秋学期	2単位	2019年度 休講
	光エレクトロニクス	春学期	2単位	神成 文彦
	光情報計測	春学期	2単位	岡田 英史
	光ナノ量子制御	春学期	2単位	2019年度 休講
	光ネットワークシステム	秋学期	2単位	津田 裕之
	フォトニックナノ構造	春学期	2単位	田邊 孝純
	有機電子材料・デバイス	秋学期	2単位	野田 啓

専攻	授業科目名	開講学期	単位	担当者
総合デザイン工学専攻 (INTEGRATED DESIGN ENGINEERING)	レーザプロセッシング	秋学期	2 単位	寺川 光洋
	化学・バイオセンサーとセンシングマテリアル	春学期	2 単位	チッターリオ, ダニエル
	機能薄膜エンジニアリング	春学期	2 単位	白鳥 世明
	総合デザイン工学技術英語	春学期	2 単位	2019年度 休講
	光機能物質	春学期	2 単位	小池 康博
	非線形化学動力学	春学期	2 単位	朝倉 浩一
	計算固体力学入門	春学期	2 単位	小國 健二
	コンピュータアーキテクチャ特論	春学期	2 単位	天野 英晴
	コンピュータビジョン	春学期	2 単位	斎藤 英雄
開放環境科学専攻 (SCIENCE FOR OPEN AND ENVIRONMENTAL SYSTEMS)	学外特別研修 (インターンシップ)	春学期 秋学期	2 単位	高田 眞吾
	計算固体力学入門	春学期	2 単位	小國 健二
	建築形態分析	秋学期	2 単位	アルマザン カバジェーロ, ホルヘ
	建築設計スタジオ B	春学期	4 単位	2019年度 休講
	建築動力学	春学期	2 単位	2019年度 休講
	公共空間とコミュニケーション	秋学期	2 単位	井上 京子
	サステナブル建築・都市特論	秋学期	2 単位	2019年度 休講
	反応熱流体力学	春学期	2 単位	植田 利久
	非線形化学動力学	春学期	2 単位	朝倉 浩一
	アクチュエータ工学特論	秋学期	2 単位	2019年度 休講
	圧縮性流体力学	春学期	2 単位	松尾 亜紀子
	応用力学・計算力学特論第 2	秋学期	2 単位	荻原 直道 小尾 晋之介 高野 直樹 松尾 亜紀子 泰岡 顕治 深湯 康二 村松 眞由
	混相流体力学	春学期	2 単位	安藤 景太
	身体運動のバイオメカニクスと制御	秋学期	2 単位	2019年度 休講
	分子動力学特論	秋学期	2 単位	泰岡 顕治
	有限要素モデリング・シミュレーション	秋学期	2 単位	村松 眞由 高野 直樹
	先進材料の力学と数値シミュレーション	春学期	2 単位	高野 直樹 村松 眞由
	乱流の基礎と数理	春学期	2 単位	深湯 康二
	乱流のモデルと応用	秋学期	2 単位	小尾 晋之介
	アドホック・センサネットワーク	秋学期	2 単位	大槻 知明
	インターネットバックボーンアーキテクチャ特論	春学期	2 単位	山中 直明
	オペレーティングシステム特論	春学期	2 単位	河野 健二
	形式言語特論	春学期	2 単位	滝本 宗宏
	コンピュータアーキテクチャ特論	春学期	2 単位	天野 英晴
	コンピュータ可視化特論	春学期	2 単位	藤代 一成
	コンピュータサイエンス同演習	秋学期	2 単位	高田 眞吾
	コンピュータビジョン	春学期	2 単位	斎藤 英雄
	システム評価法	秋学期	2 単位	2019年度 休講
	自然言語処理特論	秋学期	2 単位	斎藤 博昭
	実世界指向コミュニケーション特論	春学期	2 単位	今井 倫太
	ソフトウェア工学特論	春学期	2 単位	高田 眞吾
	デジタル通信理論特論	春学期	2 単位	笹瀬 巖
	データベース特論	春学期	2 単位	遠山 元道
	ネットワーク工学特論	秋学期	2 単位	寺岡 文男
	ネットワークサービス特論	秋学期	2 単位	金子 晋丈
	複合現実感	春学期	2 単位	2019年度 休講
	分散システム特論	秋学期	2 単位	松谷 宏紀
	並行計算モデル	春学期	2 単位	吉田 展子
	マイクロプロセッサアーキテクチャ特論	秋学期	2 単位	山崎 信行
	応用実験計画法特論	秋学期	2 単位	2019年度 休講
	応用統計解析特論	秋学期	2 単位	鈴木 秀男
	オープンシステムマネジメント同演習	秋学期	2 単位	今井 潤一 鈴木 秀男 枇々木 規雄 増田 靖 松川 弘明 山口 高平 山田 秀 松浦 峻 栗原 聡
	オペレーションズ・マネジメント	春学期	2 単位	松川 弘明
	確率的システムのモデリングと分析	秋学期	2 単位	増田 靖
	総合的品質管理特論	秋学期	2 単位	山田 秀
	フィナンシャル・エンジニアリング特論第 1	春学期	2 単位	今井 潤一

8. 他研究科学生の履修を制限する科目（大学院）

※最新情報を必ず以下の URL で確認してください。
<http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/rishu/takenkyuka.html>

【注意事項（全研究科）】

- 必ず事前に履修案内等を熟読し、他研究科設置科目履修に必要な手続きをしてください。下記の科目以外にも、個々の授業によって履修の制限をする場合があります。必ず講義要綱・シラバスを熟読してください。
- 初回の授業で履修に関するガイダンスや履修の制限を行う場合があります。必ず初回の授業に出席してください。

地区	学部	制限科目
三田	文学研究科	個々の授業において判断しますので、シラバスを熟読のうえ、科目担当者に直接確認してください。
	経済学研究科	1. 不可 ◆東京工業大学設置科目 ◆早稲田大学設置科目 2. 条件付不可 なし 3. 優先される科目 なし
	法学研究科	1. 不可 ◆法学特殊演習 I、II ◆アカデミック・ライティング ◆アカデミック・プレゼンテーション 2. 条件付不可 なし 3. 優先される科目 なし
	社会学研究科	なし
	商学研究科	なし
	法務研究科（法科大学院）	原則、すべて不可。ただし、一部の研究科のみ相互履修制度あり。
	芝共立	薬学研究科

地区	学部	制限科目
日吉	経営管理研究科	1. 不可 ◆基礎科目 ◆総合演習科目 ◆特殊講義 ◆演習 ◆EMBA プログラム学生のみを対象とした科目 2. 条件付不可 その他の科目は科目担当者の許可が必要 履修希望者は、事前に履修の可否について日吉学生部大学院担当に問い合わせてください。 3. 優先される科目 なし ※経営管理研究科の履修申告期間は他の研究科よりも早いので注意してください。
	システムデザイン・マネジメント研究科	1. 不可 ◆日本語開講のコア科目 ◆専門科目「コミュニケーション」 ◆特別研究科目 ◆プロジェクト科目 ◆理工学研究科との併設科目 2. 条件付不可 なし 3. 優先される科目 なし
	メディアデザイン研究科	1. 不可 ◆共通基盤科目 ◆プロジェクト科目 ◆特別研究科目 ◆KMD イングリッシュ ◆プレゼンテーションスキル CEMS 学生およびGID プログラム学生のみを対象とした科目 2. 条件付不可 なし 3. 優先される科目 なし
矢上	理工学研究科	◆課題研究 ◆特別研究 ◆総合科目 ◆日本語 ◆学部4年生の先取りを禁止する科目
湘南藤沢	政策・メディア研究科	1. 不可 ◆修士論文 ◆修士論文1、修士論文2、修士活動報告1、修士活動報告2 ◆特別研究 ◆修士研究会 2. 条件付不可 なし 3. 優先される科目 なし
	健康マネジメント研究科	1. 不可 特別研究 2. 条件付不可 その他の科目は、科目担当者が許可しない場合は履修不可。 3. 優先される科目 なし
信濃町	医学研究科	修士課程 ◆選択必修科目を除くすべての科目 博士課程 ◆生命倫理学・医科学方法論・医学特別講義を除くすべての主科目 ※履修者は履修申告期間前に信濃町学生課に連絡してください。

講義科目一覧（修士課程）

総合科目

科目名 単位数(開講学期)	科目担当者
科学技術思想史 2単位(秋学期) 科学・技術とガバナンス	見上 公一
科学技術ジャーナリズム 2単位(春学期) 科学技術を社会に伝えるジャーナリズムとは何か？ 何を、なぜ知っておかなければならないのか？	保坂 直紀
科学技術文化特論 2単位(秋学期) Exploring the field of Contemplative Science in the Japanese context この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	井本 由紀
環境法 2単位(春学期) 環境保全のための理念と手法	磯田 尚子
リーディングスキル 2単位(秋学期) リーダーたる資質を体得するための【基礎と実践】	米倉 雄生
国際交流セミナーⅠ 2単位(春学期) フランス語で議論する	荒金 直人
国際交流セミナーⅠ 2単位(春学期) Das heutige Deutschland, das heutige Japan ドイツの今、日本の今	横山 由広
国際交流セミナーⅡ 2単位(秋学期) フランス語で議論する	荒金 直人
国際交流セミナーⅡ 2単位(秋学期) Das heutige Deutschland, das heutige Japan ドイツの今、日本の今	横山 由広
サイエンス・ライター入門 2単位(春学期)	瀧澤 美奈子
実践知財管理1 2単位(春学期) ケーススタディ方式を取り入れた国際的な視点で学ぶ知財の実践的知識の取得	関 景輔
実践知財管理2 2単位(秋学期) ケーススタディ方式を取り入れた国際的な視点で学ぶ知財の実践的知識の取得	関 景輔
生命保険概論(OLIS生命保険寄附講座) 2単位(春学期)	田村 明久, 厚地 淳, 井関 裕靖, 白石 博, 種村 秀紀, 南 美穂子
生命倫理 2単位(春学期)	皆吉 淳平
総合科学セミナー 2単位(春学期) 理工学の社会貢献へのアプローチ	小池 康博
知的財産権特論 2単位(春学期)	武重 竜男
テクニカル・コミュニケーションⅠ 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	ディル, ジョナサン
テクニカル・コミュニケーションⅠ 2単位(春学期) Academic Writing and Presentation この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	井本 由紀
テクニカル・コミュニケーションⅡ 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	ディル, ジョナサン
テクニカル・コミュニケーションⅡ 2単位(秋学期) Academic Writing and Presentation この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	井本 由紀
人間科学セミナー 2単位(春学期)	休講
ベンチャー企業経営論 2単位(春学期) 技術をビジネスにする事業構想力を学ぶ	鹿住 倫世
MACROECONOMIC DEVELOPMENTS AND ECONOMIC POLICY IN JAPAN 2単位(秋学期) Introductory course on the Japanese economy for science and technology specialists この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	齋藤 潤
リーダーシップ論 2単位(春学期) リーダーシップの概念と実践	小杉 俊哉

語学

科目名 単位数(開講学期)	科目担当者
日本語初級会話 1単位(秋学期) 初級聴解・口頭表現	平 明子
日本語初級会話2 1単位(秋学期) 初級聴解・口頭表現	平 明子
日本語第Ⅰ 1単位(秋学期) 初級	佐内 かおる
日本語第Ⅰ 1単位(秋学期) 初級	佐内 かおる
日本語第Ⅰ 1単位(春学期) 初級	佐内 かおる
日本語第Ⅰ 1単位(春学期) 初級	佐内 かおる
日本語第Ⅱ 1単位(秋学期) 初級後期	赤木 奈央
日本語第Ⅱ 1単位(春学期) 初級後期	赤木 奈央
日本語第Ⅲ 1単位(秋学期) 中級	赤木 奈央
日本語第Ⅲ 1単位(春学期) 中級	赤木 奈央
日本語第Ⅳ 1単位(秋学期) 中級後期	菅野 高志
日本語第Ⅳ 1単位(春学期) 中級後期	菅野 高志
日本語第Ⅴ 1単位(春学期)	休講
日本語第Ⅴ 1単位(秋学期)	休講

基礎理工学専攻

基礎理工学課題研究

4 単位

INDEPENDENT STUDY ON FUNDAMENTAL SCIENCE AND TECHNOLOGY

担当者（専修ごとに教員氏名50音順で配列）

数理科学専修	厚地 淳
数理科学専修	井口 達雄
数理科学専修	生駒 典久
数理科学専修	井関 裕靖
数理科学専修	太田 克弘
数理科学専修	小田 芳彰
数理科学専修	垣村 尚徳
数理科学専修	勝良 健史
数理科学専修	亀谷 幸生
数理科学専修	栗原 将人
数理科学専修	小林 景
数理科学専修	坂川 博宣
数理科学専修	白石 博
数理科学専修	曾我 幸平
数理科学専修	高橋 博樹
数理科学専修	田中 孝明
数理科学専修	種村 秀紀
数理科学専修	田村 明久
数理科学専修	服部 広大
数理科学専修	林 賢一
数理科学専修	早野 健太
数理科学専修	坂内 健一
数理科学専修	南 美穂子
数理科学専修	宮崎 琢也
物理学専修	江藤 幹雄
物理学専修	大橋 洋士
物理学専修	岡 朋治
物理学専修	古池 達彦
物理学専修	齊藤 圭司
物理学専修	白濱 圭也
物理学専修	高野 宏
物理学専修	千葉 文野
物理学専修	西村 康宏
物理学専修	中迫 雅由
物理学専修	能崎 幸雄
物理学専修	長谷川 太郎
物理学専修	檜垣 徹太郎
物理学専修	藤谷 洋平
物理学専修	古川 俊輔
物理学専修	山内 淳
物理学専修	山本 直希
物理学専修	渡邊 紳一
分子化学専修	垣内 史敏
分子化学専修	河内 卓彌
分子化学専修	近藤 寛
分子化学専修	犀川 陽子

分子化学専修	佐藤 隆章
分子化学専修	高尾 賢一
分子化学専修	千田 憲孝
分子化学専修	角山 寛規
分子化学専修	中嶋 敦
分子化学専修	羽曾部 卓
分子化学専修	古川 良明
分子化学専修	藪下 聡
分子化学専修	山田 徹
分子化学専修	吉岡 直樹
物理情報専修	足立 修一
物理情報専修	安藤 和也
物理情報専修	伊藤 公平
物理情報専修	井上 正樹
物理情報専修	内山 孝憲
物理情報専修	神原 陽一
物理情報専修	清水 智子
物理情報専修	田中 敏幸
物理情報専修	塚田 孝祐
物理情報専修	早瀬 潤子
物理情報専修	星野 一生
物理情報専修	堀 豊
物理情報専修	牧 英之
物理情報専修	松本 佳宣
物理情報専修	的場 正憲
物理情報専修	門内 靖明
物理情報専修	山本 直樹
物理情報専修	渡辺 宙志
生物化学専修	清水 史郎
生物化学専修	末永 聖武
生物化学専修	高橋 大介
生物化学専修	戸嶋 一敦
生物化学専修	藤本 啓二
生物化学専修	藤本 ゆかり
生物化学専修	松本 緑
生命システム情報専修	井本 正哉
生命システム情報専修	牛場 潤一
生命システム情報専修	岡 浩太郎
生命システム情報専修	榊原 康文
生命システム情報専修	佐藤 智典
生命システム情報専修	土居 信英
生命システム情報専修	舟橋 啓
生命システム情報専修	堀田 耕司
生命システム情報専修	松原 輝彦
生命システム情報専修	宮本 憲二

GRADUATE RESEARCH ON FUNDAMENTAL SCIENCE AND TECHNOLOGY 1

担当者（専修ごとに教員氏名50音順で配列）

数理科学専修	厚地 淳
数理科学専修	井口 達雄
数理科学専修	生駒 典久
数理科学専修	井関 裕靖
数理科学専修	太田 克弘
数理科学専修	小田 芳彰
数理科学専修	垣村 尚徳
数理科学専修	勝良 健史
数理科学専修	亀谷 幸生
数理科学専修	栗原 将人
数理科学専修	小林 景
数理科学専修	坂川 博宣
数理科学専修	白石 博
数理科学専修	曾我 幸平
数理科学専修	高橋 博樹
数理科学専修	田中 孝明
数理科学専修	種村 秀紀
数理科学専修	田村 明久
数理科学専修	服部 広大
数理科学専修	林 賢一
数理科学専修	早野 健太
数理科学専修	坂内 健一
数理科学専修	南 美穂子
数理科学専修	宮崎 琢也
物理学専修	江藤 幹雄
物理学専修	大橋 洋士
物理学専修	岡 朋治
物理学専修	古池 達彦
物理学専修	齊藤 圭司
物理学専修	白濱 圭也
物理学専修	高野 宏
物理学専修	千葉 文野
物理学専修	西村 康宏
物理学専修	中迫 雅由
物理学専修	能崎 幸雄
物理学専修	長谷川 太郎
物理学専修	檜垣 徹太郎
物理学専修	藤谷 洋平
物理学専修	古川 俊輔
物理学専修	山内 淳
物理学専修	山本 直希
物理学専修	渡邊 紳一
分子化学専修	垣内 史敏
分子化学専修	河内 卓彌
分子化学専修	近藤 寛
分子化学専修	犀川 陽子

分子化学専修	佐藤 隆章
分子化学専修	高尾 賢一
分子化学専修	千田 憲孝
分子化学専修	角山 寛規
分子化学専修	中嶋 敦
分子化学専修	羽曾部 卓
分子化学専修	古川 良明
分子化学専修	藪下 聡
分子化学専修	山田 徹
分子化学専修	吉岡 直樹
物理情報専修	足立 修一
物理情報専修	安藤 和也
物理情報専修	伊藤 公平
物理情報専修	井上 正樹
物理情報専修	内山 孝憲
物理情報専修	神原 陽一
物理情報専修	清水 智子
物理情報専修	田中 敏幸
物理情報専修	塚田 孝祐
物理情報専修	早瀬 潤子
物理情報専修	星野 一生
物理情報専修	堀 豊
物理情報専修	牧 英之
物理情報専修	松本 佳宣
物理情報専修	的場 正憲
物理情報専修	門内 靖明
物理情報専修	山本 直樹
物理情報専修	渡辺 宙志
生物化学専修	清水 史郎
生物化学専修	末永 聖武
生物化学専修	高橋 大介
生物化学専修	戸嶋 一敦
生物化学専修	藤本 啓二
生物化学専修	藤本 ゆかり
生物化学専修	松本 緑
生命システム情報専修	井本 正哉
生命システム情報専修	牛場 潤一
生命システム情報専修	岡 浩太郎
生命システム情報専修	榊原 康文
生命システム情報専修	佐藤 智典
生命システム情報専修	土居 信英
生命システム情報専修	舟橋 啓
生命システム情報専修	堀田 耕司
生命システム情報専修	松原 輝彦
生命システム情報専修	宮本 憲二

科目名 単位数(開講学期)	科目担当者
イオン工学 2単位(春学期)	畑山 明聖
医用画像工学 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	田中 敏幸
医用光工学 2単位(秋学期)	休講
宇宙電波天文学 2単位(春学期)	休講
応用数理解析 2単位(春学期) 逆問題の数理解析 この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	本多 敏
応用物理特別講義A 2単位(春学期) 固体材料の量子情報物理学と評価技術	大岩 烈, 阿部 英介
応用物理特別講義B 2単位(春学期)	休講
応用物理特別講義C 2単位(春学期) エネルギーシステム、社会インフラシステムの先進技術動向とその応用	加幡 安雄
応用量子物理 2単位(春学期)	休講
解析学特論 2単位(秋学期) 位相群の表現論	勝良 健史
化学製品と現代生活 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
学外特別研修(インターンシップ) 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	星野 一生
学外特別研修(インターンシップ) 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	星野 一生
学外特別研修(長期インターンシップ) 4単位(秋学期)	星野 一生
確率特論A 2単位(秋学期)	休講
確率特論B 2単位(春学期)	休講
確率特論C 2単位(秋学期)	田村 要造
関数方程式特論A 2単位(秋学期)	休講
関数方程式特論B 2単位(春学期) 微分方程式の数値解析的方法	曾我 幸平
幾何学特論A 2単位(秋学期)	休講
幾何学特論B 2単位(秋学期) オイラー数を巡って	亀谷 幸生
幾何学特論C 2単位(春学期) 複素多様体論	服部 広大
基礎有機化学特論 2単位(秋学期)	千田 憲孝
凝縮系物理学特論 2単位(秋学期)	大橋 洋士
クォーク・ハドロン物理学 2単位(春学期)	山本 直希
計算数学特論A 2単位(春学期)	休講
計算数学特論B 2単位(春学期) 近似アルゴリズム	垣村 尚徳
計算物理学特論 2単位(秋学期)	休講
原子分子分光学 2単位(秋学期)	休講
現代薬学特論 2単位(春学期特定期間集中) 薬を創る	大塚 雅巳
高分子材料化学特論 2単位(春学期特定期間集中)	樋口 昌芳
古典流体の緩和過程 2単位(秋学期)	休講
細胞生物学特論 2単位(秋学期)	清水 史郎
システムバイオメカニクス 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
システムバイオロジー特論 2単位(秋学期)	舟橋 啓, 榊原 康文

科目名 単位数(開講学期)	科目担当者
磁性物理学 2単位(春学期)	田中 秀数
実践化学プレゼンテーション1 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
実践化学プレゼンテーション2 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
シミュレーション工学 2単位(春学期)	休講
神経細胞の物理化学 2単位(秋学期) 単一神経細胞の定量的な理解に向けて	岡 浩太郎
数理解析特論 2単位(秋学期特定期間集中) 淡中-Krein 双対性入門	戸松 玲治
数理科学特論A 2単位(春学期)	休講
数理科学特論B 2単位(秋学期)	休講
数理科学特論C 2単位(秋学期) 組合せ論とアルゴリズム	小田 芳彰
数理構造論 2単位(秋学期特定期間集中) Lefschetz ファイバー空間のトポロジー	遠藤 久顕
数理情報科学特別講義 2単位(秋学期特定期間集中) 現代保険リスク理論	清水 泰隆
数理ファイナンス特別講義 2単位(春学期集中)	休講
数理ファイナンス特論 2単位(秋学期)	休講
スピエレレクトロニクス 2単位(春学期)	休講
生体制御 2単位(春学期)	休講
生体分子機能特論 2単位(春学期)	佐藤 智典, 宮本 憲二
生体分子有機化学特論 2単位(春学期)	休講
生物無機化学特論 2単位(春学期) ヘムタンパク質を代表とする金属タンパク質の構造と機能	古川 良明
生物有機化学特論 2単位(秋学期)	末永 聖武
生命科学特論 2単位(秋学期)	土居 信英, 井本 正哉
生命システム情報特別講義A 2単位(春学期) 生命システムの解明に向けた研究の最前線	岡 浩太郎, 井本 正哉
生命システム情報特別講義B 2単位(春学期)	休講
生命システム制御特論 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
生命保険数学特論(OLIS生命保険寄附講座) 2単位(春学期特定期間集中) 市場整合的生命保険数理	田村 明久, 厚地 淳, 井関 裕靖, 白石 博, 種村 秀紀, 南 美穂子
センシング工学 2単位(秋学期) センサの原理・種類とセンサを用いた計測、IoT 技術	松本 佳宣
先端創薬科学 2単位(秋学期)	井本 正哉, 佐藤 智典, 宮本 憲二, 舟橋 啓
代数学特論A 2単位(秋学期)	休講
代数学特論B 2単位(春学期) 岩澤理論とイデアル類群、Selmer 群の構造について	栗原 将人
代数学特論C 2単位(秋学期) 代数トーラスの p 進ポリログと p 進 L 関数	坂内 健一
多体系の量子論 2単位(秋学期)	江藤 幹雄
知能化機械システム 2単位(秋学期) Modern Control Theory and Its Application to Machine Systems この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	村上 俊之
超伝導と物性工学 2単位(春学期) 超伝導材料の物理と化学 この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	神原 陽一
低温物理学 2単位(春学期)	休講

科目名 単位数(開講学期)	科目担当者
データサイエンス特別講義 2単位(秋学期)	南 美穂子, 北門 利英, 小池 祐太, 二宮 嘉行, 日野 英逸, 森田 智視
デバイス物性工学 2単位(春学期)	牧 英之, 安藤 和也
電子伝導論 2単位(春学期)	休講
天然物化学特論 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
統計科学特論A 2単位(春学期)	休講
統計科学特論B 2単位(春学期) 幾何学的な統計手法とその理論	小林 景
統計科学特論C 2単位(秋学期) 統計的機械学習の基礎	林 賢一
統計物理学 2単位(春学期)	高野 宏
統合数理科学特別講義第1 2単位(秋学期特定期間集中) Ricci flow について	栗原 将人, 石田 政司, 中村 博昭, 盛田 健彦
統合数理科学特別講義第2 2単位(春学期集中)	休講
糖質生命化学特論 2単位(秋学期)	高橋 大介
糖質有機化学特論 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
ニューロインフォマティクス 2単位(春学期)	牛場 潤一, 地村 弘二, 岡野 ジェイムス洋尚
バイオマテリアル特論 2単位(春学期)	休講
発生生物学特論 2単位(春学期)	松本 緑
場の理論 2単位(春学期) 特殊相対論的場の量子論	檜垣 徹太郎
半導体デバイスの物理とモデリング 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
反応有機化学特論 2単位(秋学期)	休講
光機能物質 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	小池 康博
光情報計測 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	岡田 英史
光物性物理学特論 2単位(秋学期)	渡邊 紳一
非線形化学動力学 2単位(春学期) Self-organization in Far-from-equilibrium System この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	朝倉 浩一
表面界面科学 2単位(春学期)	休講
表面化学特論 2単位(秋学期) 表面物理化学 表面ナノサイエンス	近藤 寛
物性物理学特論A 2単位(秋学期) ベリー曲率の物理とトポロジカル相	村上 修一
物性物理学特論B 2単位(春学期集中)	休講
物性有機化学特論 2単位(春学期) 電子機能のメカニズムと機能材料への展開	吉岡 直樹
物理学特別講義A 2単位(春学期集中)	休講
物理学特別講義B 2単位(春学期特定期間集中) 量子論の新しい展開と量子情報処理	井元 信之
物理学特別講義C 2単位(秋学期)	休講
分子化学特別講義A 2単位(春学期特定期間集中) 分子組織化学	田中 健太郎
分子化学特別講義B 2単位(春学期特定期間集中) 「有機金属反応剤の開発」(高井) 「有機合成における選択性の発現—軌道相互作用を指導原理として—」(寺田)	近藤 寛, 高井 和彦, 寺田 眞浩

科目名 単位数(開講学期)	科目担当者
分子生命化学特論 2単位(春学期) 生体機能物質の機能発現に関する化学生物学(ケミカルバイオロジー)	休講
放射光物理学 2単位(春学期)	休講
ポストゲノム生命科学方法論 2単位(春学期) ポストゲノム時代における基盤技術	岡 浩太郎, 榊原 康文, 土居 信英, 舟橋 啓
モデルベース制御理論 2単位(春学期) カルマンフィルタの基礎から応用までを学ぶ	足立 修一
有機化学セミナー1 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
有機化学セミナー2 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
有機金属化学特論第1 2単位(春学期)	垣内 史敏
有機金属化学特論第2 2単位(春学期)	河内 卓彌
有機光化学特論 2単位(秋学期) 分子および分子集合体における光誘起過程	羽曾部 卓
有機合成化学特論 2単位(春学期)	高尾 賢一
有機触媒反応特論 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
有機反応機構特論 2単位(春学期) 分子の構造と性質の定性的な理解	犀川 陽子
離散数学特論 2単位(春学期)	休講
量子エレクトロニクス 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	早瀬 潤子
量子光学 2単位(春学期)	休講
量子力学の数理工学 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	山本 直樹
理論分子化学特論 2単位(春学期)	休講
レーザー物理学 2単位(春学期) レーザーの物理的な原理	長谷川 太郎

総合デザイン工学専攻

総合デザイン工学課題研究

4単位

INDEPENDENT STUDY ON INTEGRATED DESIGN ENGINEERING

担当者（専修ごとに教員氏名50音順で配列）

マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	石上 玄也
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	大宮 正毅
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	尾上 弘晃
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	加藤 健郎
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	小茂鳥 潤
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	澤田 達男
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	志澤 一之
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	杉浦 壽彦
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	松岡 由幸
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	三木 則尚
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	宮田 昌悟
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	森田 寿郎
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	閻 紀旺
システム統合工学専修	青山 英樹
システム統合工学専修	大森 浩充
システム統合工学専修	大家 哲朗
システム統合工学専修	柿沼 康弘
システム統合工学専修	嘉副 裕
システム統合工学専修	桂 誠一郎
システム統合工学専修	小池 綾
システム統合工学専修	佐藤 洋平
システム統合工学専修	須藤 亮
システム統合工学専修	田口 良広
システム統合工学専修	長坂 雄次
システム統合工学専修	滑川 徹
システム統合工学専修	野崎 貴裕
システム統合工学専修	満倉 靖恵
システム統合工学専修	村上 俊之
システム統合工学専修	矢向 高弘
電気電子工学専修	青木 義満

電気電子工学専修	栗野 祐二
電気電子工学専修	池原 雅章
電気電子工学専修	石黒 仁揮
電気電子工学専修	岡田 英史
電気電子工学専修	神成 文彦
電気電子工学専修	木下 岳司
電気電子工学専修	久保 亮吾
電気電子工学専修	黒田 忠広
電気電子工学専修	斎木 敏治
電気電子工学専修	眞田 幸俊
電気電子工学専修	田邊 孝純
電気電子工学専修	津田 裕之
電気電子工学専修	寺川 光洋
電気電子工学専修	中野 誠彦
電気電子工学専修	野田 啓
電気電子工学専修	湯川 正裕
マテリアルデザイン科学専修	石樽 崇明
マテリアルデザイン科学専修	磯部 徹彦
マテリアルデザイン科学専修	今井 宏明
マテリアルデザイン科学専修	栄長 泰明
マテリアルデザイン科学専修	緒明 佑哉
マテリアルデザイン科学専修	海住 英生
マテリアルデザイン科学専修	片山 靖
マテリアルデザイン科学専修	小池 康博
マテリアルデザイン科学専修	佐藤 徹哉
マテリアルデザイン科学専修	白鳥 世明
マテリアルデザイン科学専修	チッテリオ, ダニエル
マテリアルデザイン科学専修	二瓶 栄輔
マテリアルデザイン科学専修	蛭田 勇樹
マテリアルデザイン科学専修	藤原 忍
マテリアルデザイン科学専修	山本 崇史

担当者（専修ごとに教員氏名50音順で配列）

マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	石上 玄也
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	大宮 正毅
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	尾上 弘晃
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	加藤 健郎
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	小茂鳥 潤
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	澤田 達男
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	志澤 一之
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	杉浦 壽彦
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	松岡 由幸
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	三木 則尚
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	宮田 昌悟
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	森田 寿郎
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	閻 紀旺
システム統合工学専修	青山 英樹
システム統合工学専修	大森 浩充
システム統合工学専修	大家 哲朗
システム統合工学専修	柿沼 康弘
システム統合工学専修	嘉副 裕
システム統合工学専修	桂 誠一郎
システム統合工学専修	小池 綾
システム統合工学専修	佐藤 洋平
システム統合工学専修	須藤 亮
システム統合工学専修	田口 良広
システム統合工学専修	長坂 雄次
システム統合工学専修	滑川 徹
システム統合工学専修	野崎 貴裕
システム統合工学専修	満倉 靖恵
システム統合工学専修	村上 俊之
システム統合工学専修	矢向 高弘
電気電子工学専修	青木 義満

電気電子工学専修	栗野 祐二
電気電子工学専修	池原 雅章
電気電子工学専修	石黒 仁揮
電気電子工学専修	岡田 英史
電気電子工学専修	神成 文彦
電気電子工学専修	木下 岳司
電気電子工学専修	久保 亮吾
電気電子工学専修	黒田 忠広
電気電子工学専修	斎木 敏治
電気電子工学専修	眞田 幸俊
電気電子工学専修	田邊 孝純
電気電子工学専修	津田 裕之
電気電子工学専修	寺川 光洋
電気電子工学専修	中野 誠彦
電気電子工学専修	野田 啓
電気電子工学専修	湯川 正裕
マテリアルデザイン科学専修	石樽 崇明
マテリアルデザイン科学専修	磯部 徹彦
マテリアルデザイン科学専修	今井 宏明
マテリアルデザイン科学専修	栄長 泰明
マテリアルデザイン科学専修	緒明 佑哉
マテリアルデザイン科学専修	海住 英生
マテリアルデザイン科学専修	片山 靖
マテリアルデザイン科学専修	小池 康博
マテリアルデザイン科学専修	佐藤 徹哉
マテリアルデザイン科学専修	白鳥 世明
マテリアルデザイン科学専修	チッテリオ, ダニエル
マテリアルデザイン科学専修	二瓶 栄輔
マテリアルデザイン科学専修	蛭田 勇樹
マテリアルデザイン科学専修	藤原 忍
マテリアルデザイン科学専修	山本 崇史

総合デザイン工学専攻

科目名 単位数(開講学期)	科目担当者
宇宙探査工学 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	石上 玄也
応用システムデザイン工学 2単位(秋学期)	嘉副 裕, 小池 綾
応用パワーエレクトロニクス 2単位(秋学期)	休講
カオス力学応用論 2単位(秋学期)	杉浦 壽彦
化学・バイオセンサーとセンシングマテリアル 2単位(春学期) Functional Materials Applied to (Bio)Chemical Sensors (化学・バイオセンサー用途の機能材料) この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	チッターリオ, ダニエル
学外特別研修(インターンシップ) 2単位(春学期) 学外特別研修(インターンシップ) 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	青山 英樹
学外特別研修(長期インターンシップ) 4単位(秋学期)	青山 英樹
画像工学特論 2単位(春学期)	青木 義満
機器分析総論 2単位(春学期)	チッターリオ, ダニエル, 蛭田 勇樹, 志智 雄之
機能デザイン工学 2単位(秋学期)	石榑 崇明, 磯部 徹彦, 片山 靖, 白鳥 世明, 藤原 忍, 緒明 佑哉, 山本 崇史
機能薄膜エンジニアリング 2単位(春学期) 薄膜を切り口とした界面物理・界面化学と実用化 この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	白鳥 世明
機能物質概論 2単位(春学期)	二瓶 栄輔, 今井 宏明, 栄長 泰明, 小池 康博, 佐藤 徹哉, チッターリオ, ダニエル, 蛭田 勇樹
居住環境デザイン工学 2単位(秋学期) 住宅・街区・都市の総合環境性能評価	伊香賀 俊治
計算固体力学入門 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	小國 健二
光学材料特論 2単位(秋学期)	二瓶 栄輔
高度設計生産システム 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	青山 英樹, 大家 哲朗
固体の機能設計 2単位(春学期)	磯部 徹彦, 藤原 忍
コンピュータアーキテクチャ特論 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	天野 英晴
コンピュータビジョン 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	斎藤 英雄
材料強度学 2単位(秋学期)	大宮 正毅
自己組織化の科学 2単位(秋学期)	今井 宏明, 志澤 一之
システムLSI設計 2単位(秋学期) RF マイクロエレクトロニクス	石黒 仁揮, 黒田 忠広
システムエレクトロニクス特論 2単位(秋学期) エレクトロニクス応用システムの総合デザイン この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
システム制御設計論 2単位(春学期) ロバスト制御/適応制御とその応用 この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	大森 浩充, 滑川 徹
システムバイオメカニクス 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
実時間信号処理 2単位(秋学期) 信号処理の理論と信号処理プラットフォームの技術	矢向 高弘, 満倉 靖恵
信号処理工学特論 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	湯川 正裕
数値モデリングと計算機シミュレーション 2単位(春学期)	中野 誠彦
生体材料工学 2単位(春学期)	小茂鳥 潤, 宮田 昌悟

科目名 単位数(開講学期)	科目担当者
先進システムデザイン工学 2単位(春学期)	桂 誠一郎, 青山 英樹, 長坂 雄次, 村上 俊之
総合デザイン工学技術英語 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
総合デザイン工学特別講義A 2単位(春学期) リチウムイオン二次電池(LIB)の登場から現在までの歩み、およびその将来	西 美緒, 片山 靖
総合デザイン工学特別講義B 2単位(秋学期) Mechanical Behavior of Materials この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	金 侖在
総合デザイン工学特別講義C 2単位(春学期)	休講
ソフトコンピューティング 2単位(秋学期) ニューラルネットワーク、ファジィ、進化コンピューテーション、感性工学、機械学習	萩原 将文
知的制御工学 2単位(春学期)	高橋 正樹
知能化機械システム 2単位(秋学期) Modern Control Theory and Its Application to Machine Systems この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	村上 俊之
超精密加工計測 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	閻 紀旺
デジタル無線通信 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	眞田 幸俊
デザイン科学 2単位(春学期)	松岡 由幸, 加藤 健郎
デザイン科学特別講義 2単位(春学期)	石上 玄也, 小木 哲朗, 西村 秀和, 松岡 由幸, 森田 寿郎, 加藤 健郎
デザインプロジェクト 4単位(春学期)	加藤 健郎, 小木 哲朗, 西村 秀和, 松岡 由幸, 小林 昭世, 佐藤 弘喜
デバイス物性工学 2単位(春学期)	牧 英之, 安藤 和也
電気・磁気機能物質 2単位(秋学期)	佐藤 徹哉
電気化学特論 2単位(春学期) 電気化学測定法	片山 靖
電気電子総合演習 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	田邊 孝純
電気電子デバイス・システム特別講義 2単位(春学期)	田邊 孝純
電機統合システム 2単位(秋学期)	桂 誠一郎, 柿沼 康弘
電子伝導論 2単位(春学期)	休講
統合化最適デザイン工学 2単位(春学期) ものづくり支援システム構築の基礎となる種々の方法論を学ぶ	大家 哲朗
都市解析のオペレーションズ・リサーチ 2単位(春学期) 都市空間の幾何学的原理と人間の価値観のハーモニーを探る	栗田 治
流れ場への数理的アプローチ 2単位(秋学期) Mathematical and Physical Methods in Fluid Dynamics この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	澤田 達男
ナノエレクトロニクス 2単位(春学期)	休講
ナノスケール科学ジョイントセミナー 1単位(春学期) マテリアルデザイン科学ジョイントセミナー 1単位(春学期) マテリアルデザイン科学・ナノスケール科学	緒明 佑哉, 磯部 徹彦, 今井 宏明, 栄長 泰明, 片山 靖, 小池 康博, 佐藤 徹哉, 白鳥 世明, チッターリオ, ダニエル, 藤原 忍, 石樽 崇明, 二瓶 栄輔, 蛭田 勇樹, 山本 崇史
熱エネルギーシステム論 2単位(春学期)	休講
熱流体システムデザイン論 2単位(秋学期)	長坂 雄次
バイオメトリックマイクロナノ工学 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	尾上 弘晃
半導体デバイスの物理とモデリング 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講

科目名 単位数(開講学期)	科目担当者
光エレクトロニクス 2単位(春学期) 光通信, 光計測を実現する光コンポーネントの原理 この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	神成 文彦
光機能物質 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	小池 康博
光情報計測 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	岡田 英史
光ナノ量子制御 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
光ネットワークシステム 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	津田 裕之
非線形化学動力学 2単位(春学期) Self-organization in Far-from-equilibrium System この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	朝倉 浩一
非線形固体力学 2単位(秋学期) 固体の大変形現象に対するモデリングとシミュレーション	志澤 一之, 大家 哲朗
非線形力学系の解析と制御 2単位(秋学期) 非線形現象の解析とその制御法	藪野 浩司
フォトニックナノ構造 2単位(春学期) ナノ構造中での光の振る舞いを理解する この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	田邊 孝純
マイクロ・ナノ空間システム統合工学 2単位(春学期) マイクロ・ナノスケール技術進展のための実験的基礎	佐藤 洋平
マイクロ光学 2単位(春学期)	木下 岳司
マイクロデバイスシステムデザイン 2単位(秋学期) MEMS 技術とセンサー・バイオシステムへの応用	須藤 亮, 田口 良広
マテリアル合成の化学 2単位(春学期) 材料合成プロセスの化学的な理解と制御	緒明 佑哉
マルチディシプリナリ科学特別講義 2単位(春学期)	尾上 弘晃, 大宮 正毅, 小茂鳥 潤, 澤田 達男, 志澤 一之, 杉浦 壽彦, 三木 則尚, 閻 紀旺, 宮田 昌悟
メカニカル・インタフェース・デザイン 2単位(秋学期) メカニズムの視点によるインタラクティブ・インタフェース設計 この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	森田 寿郎
メソスコピック物質科学特論 2単位(春学期)	休講
メディア信号処理 2単位(春学期)	池原 雅章
MEMS特論ーデザインおよびマイクロファブ리케이션ー 2単位(春学期) MEMS - Design, Fabrication and its Application この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	三木 則尚
有機電子材料・デバイス 2単位(春学期) 有機電子材料の物性とデバイス応用 この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	野田 啓
レーザプロセッシング 2単位(秋学期) 光と物質の相互作用および光によるものづくり この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	寺川 光洋

開放環境科学専攻

開放環境科学課題研究

4 単位

INDEPENDENT STUDY ON SCIENCE FOR OPEN AND ENVIRONMENTAL SYSTEMS

担当者（専修ごとに教員氏名50音順で配列）

空間・環境デザイン工学専修	アルマン カバエーロ, 朝ハ
空間・環境デザイン工学専修	伊香賀 俊治
空間・環境デザイン工学専修	井上 京子
空間・環境デザイン工学専修	小國 健二
空間・環境デザイン工学専修	岸本 達也
空間・環境デザイン工学専修	小檜山 雅之
空間・環境デザイン工学専修	高橋 正樹
空間・環境デザイン工学専修	中澤 和夫
空間・環境デザイン工学専修	三田 彰
空間・環境デザイン工学専修	ラドヴィッチ, ダルコ
環境エネルギー科学専修	朝倉 浩一
環境エネルギー科学専修	荒井 規允
環境エネルギー科学専修	大村 亮
環境エネルギー科学専修	小川 邦康
環境エネルギー科学専修	奥田 知明
環境エネルギー科学専修	鈴木 哲也
環境エネルギー科学専修	寺坂 宏一
環境エネルギー科学専修	藤岡 沙都子
環境エネルギー科学専修	堀田 篤
環境エネルギー科学専修	横森 剛
応用力学・計算力学専修	安藤 景太
応用力学・計算力学専修	小尾 晋之介
応用力学・計算力学専修	高野 直樹
応用力学・計算力学専修	竹村 研治郎
応用力学・計算力学専修	深淵 康二
応用力学・計算力学専修	松尾 亜紀子
応用力学・計算力学専修	村松 真由
応用力学・計算力学専修	泰岡 颯治
情報工学専修	天野 英晴
情報工学専修	今井 倫太
情報工学専修	大槻 知明
情報工学専修	小原 京子
情報工学専修	金子 晋丈
情報工学専修	河野 健二

情報工学専修	斎藤 英雄
情報工学専修	斎藤 博昭
情報工学専修	笹瀬 巖
情報工学専修	重野 寛
情報工学専修	杉浦 裕太
情報工学専修	杉本 麻樹
情報工学専修	高田 眞吾
情報工学専修	寺岡 文男
情報工学専修	遠山 元道
情報工学専修	西 宏章
情報工学専修	萩原 将文
情報工学専修	藤代 一成
情報工学専修	松谷 宏紀
情報工学専修	山崎 信行
情報工学専修	山中 直明
オープンシステムマネジメント専修	稲田 周平
オープンシステムマネジメント専修	今井 潤一
オープンシステムマネジメント専修	岡田 有策
オープンシステムマネジメント専修	栗田 治
オープンシステムマネジメント専修	栗原 聡
オープンシステムマネジメント専修	志田 敬介
オープンシステムマネジメント専修	篠沢 佳久
オープンシステムマネジメント専修	鈴木 秀男
オープンシステムマネジメント専修	田中 健一
オープンシステムマネジメント専修	大門 樹
オープンシステムマネジメント専修	中西 美和
オープンシステムマネジメント専修	成島 康史
オープンシステムマネジメント専修	枇々木 規雄
オープンシステムマネジメント専修	増田 靖
オープンシステムマネジメント専修	松浦 峻
オープンシステムマネジメント専修	松川 弘明
オープンシステムマネジメント専修	松林 伸生
オープンシステムマネジメント専修	山口 高平
オープンシステムマネジメント専修	山田 秀
オープンシステムマネジメント専修	山本 零

GRADUATE RESEARCH ON SCIENCE FOR OPEN AND ENVIRONMENTAL SYSTEMS 1

担当者（専修ごとに教員氏名50音順で配列）

空間・環境デザイン工学専修	アマゾン カバジェロ, ホルヘ
空間・環境デザイン工学専修	伊香賀 俊治
空間・環境デザイン工学専修	井上 京子
空間・環境デザイン工学専修	小國 健二
空間・環境デザイン工学専修	岸本 達也
空間・環境デザイン工学専修	小檜山 雅之
空間・環境デザイン工学専修	高橋 正樹
空間・環境デザイン工学専修	中澤 和夫
空間・環境デザイン工学専修	三田 彰
空間・環境デザイン工学専修	ラドヴィッチ, ダルコ
環境エネルギー科学専修	朝倉 浩一
環境エネルギー科学専修	荒井 規允
環境エネルギー科学専修	大村 亮
環境エネルギー科学専修	小川 邦康
環境エネルギー科学専修	奥田 知明
環境エネルギー科学専修	鈴木 哲也
環境エネルギー科学専修	寺坂 宏一
環境エネルギー科学専修	藤岡 沙都子
環境エネルギー科学専修	堀田 篤
環境エネルギー科学専修	横森 剛
応用力学・計算力学専修	安藤 景太
応用力学・計算力学専修	小尾 晋之介
応用力学・計算力学専修	高野 直樹
応用力学・計算力学専修	竹村 研治郎
応用力学・計算力学専修	深淵 康二
応用力学・計算力学専修	松尾 亜紀子
応用力学・計算力学専修	村松 真由
応用力学・計算力学専修	泰岡 顕治
情報工学専修	天野 英晴
情報工学専修	今井 倫太
情報工学専修	大槻 知明
情報工学専修	小原 京子
情報工学専修	金子 晋丈
情報工学専修	河野 健二

情報工学専修	斎藤 英雄
情報工学専修	斎藤 博昭
情報工学専修	笹瀬 巖
情報工学専修	重野 寛
情報工学専修	杉浦 裕太
情報工学専修	杉本 麻樹
情報工学専修	高田 眞吾
情報工学専修	寺岡 文男
情報工学専修	遠山 元道
情報工学専修	西 宏章
情報工学専修	萩原 将文
情報工学専修	藤代 一成
情報工学専修	松谷 宏紀
情報工学専修	山崎 信行
情報工学専修	山中 直明
オープンシステムマネジメント専修	稲田 周平
オープンシステムマネジメント専修	今井 潤一
オープンシステムマネジメント専修	岡田 有策
オープンシステムマネジメント専修	栗田 治
オープンシステムマネジメント専修	栗原 聡
オープンシステムマネジメント専修	志田 敬介
オープンシステムマネジメント専修	篠沢 佳久
オープンシステムマネジメント専修	鈴木 秀男
オープンシステムマネジメント専修	田中 健一
オープンシステムマネジメント専修	大門 樹
オープンシステムマネジメント専修	中西 美和
オープンシステムマネジメント専修	成島 康史
オープンシステムマネジメント専修	枇々木 規雄
オープンシステムマネジメント専修	増田 靖
オープンシステムマネジメント専修	松浦 峻
オープンシステムマネジメント専修	松川 弘明
オープンシステムマネジメント専修	松林 伸生
オープンシステムマネジメント専修	山口 高平
オープンシステムマネジメント専修	山田 秀
オープンシステムマネジメント専修	山本 零

科目名 単位数(開講学期)	科目担当者
アクチュエータ工学特論 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
圧縮性流体力学 2単位(春学期) 圧縮性流体力学とロケット推進 この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	松尾 垂紀子
アドホック・センサネットワーク 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	大槻 知明
アントレプレナー育成(慶應イノベーション・イニシアティブ)寄附講座第1 2単位(春学期)	松林 伸生, 岡田 正大, 山本 零
アントレプレナー育成(慶應イノベーション・イニシアティブ)寄附講座第2 2単位(秋学期)	松林 伸生, 岡田 正大, 山本 零
移動現象操作 2単位(春学期) 化学工学における装置内流体力学	藤岡 沙都子
インターネットバックボーンアーキテクチャ特論 2単位(春学期) バックボーンネットワークの最新技術とプロトコル この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	山中 直明
インダストリアル・エンジニアリング特論 2単位(秋学期)	稲田 周平, 松川 弘明, 志田 敬介
インタラクション 2単位(秋学期)	杉浦 裕太
インタラクティブ・ロボティクス 2単位(春学期)	休講
Webインテリジェンス論 2単位(春学期) セマンティック Web とオントロジー	山口 高平
宇宙システム工学 2単位(春学期) 宇宙インフラ活用サービス創出に関する講義およびワークショップ	神武 直彦
宇宙通信特論 2単位(春学期)	休講
SoC設計技術 2単位(春学期) システム LSI 設計技術	山崎 信行
エネルギー利用・流体物性論 2単位(春学期) エネルギー利用と流体物性	佐藤 春樹
応用実験計画法特論 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
応用統計解析特論 2単位(秋学期) ブートストラップ、モデル選択規準、MCMC、予測手法についての諸問題 この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	鈴木 秀男
応用力学・計算力学特論第1 4単位(春学期)	松尾 垂紀子, 荻原 直道, 小尾 晋之介, 高野 直樹, 竹村 研治郎, 泰岡 顕治, 村松 眞由
応用力学・計算力学特論第2 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	松尾 垂紀子, 荻原 直道, 小尾 晋之介, 高野 直樹, 深湯 康二, 泰岡 顕治, 村松 眞由
応用力学・計算力学特論第3 2単位(春学期)	休講
応用力学・計算力学特論第4 2単位(秋学期)	休講
オープンシステムマネジメント同演習 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	増田 靖, 今井 潤一, 栗原 聡, 鈴木 秀男, 枇々木 規雄, 松川 弘明, 山口 高平, 山田 秀, 松浦 峻
オープンシステムマネジメント特別講義 2単位(秋学期)	休講
オペレーションズ・マネジメント 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	松川 弘明
オペレーションズ・リサーチ特論 2単位(秋学期) システムのモデル化と最適化	田中 健一
オペレーティングシステム特論 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	河野 健二
化学工学特論 2単位(秋学期) 移動現象の数値解析	本間 俊司, 藤岡 沙都子
学外特別研修(インターンシップ) 2単位(春学期) 学外特別研修(インターンシップ) 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	高田 眞吾

科目名 単位数(開講学期)	科目担当者
学外特別研修(長期インターンシップ) 4単位(秋学期)	高田 眞吾
確率的システムのモデリングと分析 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	増田 靖
環境エネルギー科学特論第1 2単位(春学期) 環境およびエネルギー分野の専門家による講演	堀田 篤, 大村 亮, 奥田 知明, 横森 剛
環境エネルギー科学特論第2 2単位(秋学期) 環境・エネルギー・経済のトリレンマを科学技術的に考える	岡野 邦彦
環境科学技術・政策特論 2単位(春学期)	植田 利久, 一ノ瀬 友博, 小林 博人, ラドヴィッチ, ダルコ, 中村 直, 三上 益弘
環境化学特論 2単位(春学期)	田中 茂
環境機能材料工学特論 2単位(秋学期) ソフトマテリアル・エコマテリアル・ナノマテリアル・バイオマテリアル	堀田 篤
環境情報システム構築法 2単位(春学期)	泰岡 顕治, 清木 康, 深淵 康二, 川島 英之, 大越 匡, 浅井 誠
居住環境デザイン工学 2単位(秋学期) 住宅・街区・都市の総合環境性能評価	伊香賀 俊治
空間・環境デザイン工学特別講義第1 2単位(春学期)	小檜山 雅之, 伊香賀 俊治, 井上 京子, 小國 健二, 三田 彰, ラドヴィッチ, ダルコ, アルマザン カバジェーロ, ホルヘ, 岸本 達也, 高橋 正樹, 中澤 和夫
空間・環境デザイン工学特別講義第2 2単位(秋学期)	休講
空間型インタフェース論 2単位(春学期) 空間性を利用した計算機インタフェース	小木 哲朗, 広田 光一
グローバル環境政策特論 2単位(秋学期)	栗田 治, 植田 利久, 蟹江 憲史, 高橋 桂子, 佐々木 史織
計算システム設計論 2単位(春学期) ハードウェア記述言語による計算機システムの構築	西 宏章
計算固体力学入門 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	小國 健二
計算モデル特論 2単位(春学期) 理論計算機科学	佐藤 一郎
形式言語特論 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	滝本 宗宏
計測物理特論 2単位(春学期) 温度、流速、濃度、圧力などの物理量の計測法とそれに関わる基礎物理を概説する。	小川 邦康
建築安全工学 2単位(春学期)	休講
建築計画学 2単位(春学期) 建築と都市開発プロジェクトの理論と実践	田島 泰
建築形態分析 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生在が履修した場合、授業は英語で行われます。	アルマザン カバジェーロ, ホルヘ
建築構造デザイン学 2単位(秋学期) 建築における構造デザインの役割	風間 宏樹, 原田 公明
建築設計学外研修A 4単位(春学期) 建築設計学外研修A 4単位(秋学期)	岸本 達也
建築設計学外研修A 4単位(春学期) 建築設計学外研修A 4単位(秋学期)	岸本 達也
建築設計学外研修A 4単位(春学期) 建築設計学外研修A 4単位(秋学期)	岸本 達也
建築設計学外研修B 4単位(春学期) 建築設計学外研修B 4単位(秋学期)	岸本 達也
建築設計学外研修B 4単位(春学期) 建築設計学外研修B 4単位(秋学期)	岸本 達也
建築設計学外研修B 4単位(春学期) 建築設計学外研修B 4単位(秋学期)	岸本 達也
建築設計学外研修C 4単位(春学期) 建築設計学外研修C 4単位(秋学期)	岸本 達也

科目名 単位数(開講学期)	科目担当者
建築設計学外研修D 4単位(春学期) 建築設計学外研修D 4単位(秋学期)	岸本 達也
建築設計スタジオA 4単位(春学期) Architectural Design Studio A	ラドヴィッチ, ダルコ, アルマザン カバジェーロ, ホルヘ, 岸本 達也, 小松 克仁, 佐野 哲史, 千葉 元生
建築設計スタジオB 4単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
建築デザイン工学 2単位(秋学期)	岸本 達也
建築動力学 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
公共空間とコミュニケーション 2単位(秋学期) 空間デザインにコミュニケーション特性が及ぼす影響 この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	井上 京子
混相流体力学 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	安藤 景太
コンピュータアーキテクチャ特論 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	天野 英晴
コンピュータ可視化特論 2単位(春学期) 概念, 技法, 応用 この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	藤代 一成
コンピュータサイエンス同演習 2単位(秋学期) ソフトウェアシステムの実装と成果発表 この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	高田 眞吾
コンピュータネットワーク特論 2単位(春学期) 通信品質の保証とネットワーク・セキュリティの原理	重野 寛
コンピュータビジョン 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	斎藤 英雄
サステナブル建築・都市特論 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
システム評価法 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
自然言語処理特論 2単位(秋学期) 統計モデルやニューラルネットワークを使った自然言語処理 この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	斎藤 博昭
実世界指向コミュニケーション特論 2単位(春学期) ロボットと環境の相互作用の実現へ向けて この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	今井 倫太
車両・交通工学 2単位(春学期) 鉄道を主とする交通工学 鉄道車両のダイナミクス	武藤 雅威, 鴨下 庄吾
情報経済学特論 2単位(春学期)	増田 靖
情報工学特論A 2単位(春学期) 進化し続ける情報通信を支える先端技術	三宅 優, 中島 康之
情報工学特論B 2単位(秋学期) 先端エレクトロニクス製品アーキテクチャ講座	笹瀬 巖
人工知能と複雑ネットワーク 2単位(秋学期) 人工知能と複雑ネットワーク	栗原 聡
身体運動のバイオメカニクスと制御 2単位(秋学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
生産システムと情報 2単位(秋学期)	休講
製品・物質循環論 2単位(春学期)	休講

科目名 単位数(開講学期)	科目担当者
先進材料の力学と数値シミュレーション 2単位(春学期) 不均質材料のマルチスケールシミュレーションと金属材料のフェーズフィールドシミュレーション この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	高野 直樹, 村松 真由
総合的品質管理特論 2単位(秋学期) 歴史的発展, 基本原理, 組織的推進, ツール この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	山田 秀
ソフトウェア工学特論 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	高田 真吾
ソフトコンピューティング 2単位(秋学期) ニューラルネットワーク、ファジィ、進化コンピューテーション、感性工学、機械学習	萩原 将文
大気環境科学 2単位(秋学期) 環境科学ディスカッション：次世代を担う理工系人材としての環境科学的センスを磨く	奥田 知明
大規模環境システム構築法 2単位(秋学期)	畑山 明聖, 小尾 晋之介, 巖 網林, 深湯 康二, 泰岡 顕治, 岡野 邦彦, 高橋 桂子, 三上 益弘
知的制御工学 2単位(春学期)	高橋 正樹
デジタル通信理論特論 2単位(春学期) デジタル通信理論特論 この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	笹瀬 巖
データベース特論 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	遠山 元道
電気化学特論 2単位(春学期) 電気化学測定法	片山 靖
都市・建築レジリエンス特論 2単位(秋学期)	紙田 和代, 小檜山 雅之, アルマザン カバジェーロ, ホルヘ
都市解析のオペレーションズ・リサーチ 2単位(春学期) 都市空間の幾何学的原理と人間の価値観のハーモニーを探る	栗田 治
ナノマテリアル特論 2単位(秋学期) 材料のナノ構造と未来エネルギー技術への応用	鈴木 哲也
人間工学特論Ⅰ 2単位(春学期) 安全管理の考え方と手法の実践、及び製品企画の考え方と手法の実践	中西 美和
人間工学特論Ⅱ 2単位(春学期) システムの分析手法と人間特性に基づいた設計手法の実践	大門 樹
人間とシステム 2単位(秋学期) 均衡問題とロバスト最適化	成島 康史
ネットワーク工学特論 2単位(秋学期) Understanding the Internet in detail この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	寺岡 文男
ネットワークサービス特論 2単位(秋学期) Understanding How the Current Network Services are Realized この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	金子 晋丈
ネットワークセキュリティ 2単位(秋学期) ネットワークセキュリティ	手塚 悟
年金数理 2単位(秋学期) 年金制度およびその数理的側面について、基礎的知識を学びます。	清水 信広, 井戸 照喜, 小泉 辰也
燃焼工学特論 2単位(春学期)	横森 剛
パターン認識と学習 2単位(秋学期)	篠沢 佳久
反応工学特論 2単位(秋学期) 化学反応を工業的に応用するための解析方法	吉川 史郎
反応装置工学 2単位(秋学期) ファインバブル入門	寺坂 宏一
反応熱流体力学 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	植田 利久

科目名 単位数(開講学期)	科目担当者
光通信工学 2単位(秋学期) ブロードバンドサービス、IoTを支えるイーサネット、フォトニック・ネットワークの最新技術	山中 直明, 岡本 聡, 山口 正泰
ビジネスエコノミクス特論 2単位(春学期)	松林 伸生
非線形化学動力学 2単位(春学期) Self-organization in Far-from-equilibrium System この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	朝倉 浩一
ヒューマンロボティクス 2単位(春学期) 人の生活の深い理解に根差した支援システムの開発法を解説する。	西田 佳史, 松本 吉央, 安岡 美佳
フィナンシャル・エンジニアリング特論第1 2単位(春学期) Computational Finance この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	今井 潤一
フィナンシャル・エンジニアリング特論第2 2単位(秋学期) ポートフォリオ理論と最適化モデル	枇々木 規雄
複合現実感 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	休講
分散システム特論 2単位(秋学期) 分散システム特論 この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	松谷 宏紀
分子結晶の物理化学 2単位(秋学期)	大村 亮
分子動力学特論 2単位(秋学期) 分子動力学シミュレーションの方法と応用 この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	泰岡 顕治
並行計算モデル 2単位(春学期特定期間集中) Models of Concurrent Computations: Theory and Practice この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	吉田 展子
マイクロプロセッサアーキテクチャ特論 2単位(秋学期) 高性能マイクロプロセッサアーキテクチャ この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	山崎 信行
有限要素モデリング・シミュレーション 2単位(秋学期) 有限要素法による計算固体力学 この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	村松 真由, 高野 直樹
乱流の基礎と数理 2単位(春学期) この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	深潟 康二
乱流のモデルと応用 2単位(秋学期) 実践を通じた乱流モデルの基礎的な理解 この科目は、理工学研究科の留学生が履修した場合、授業は英語で行われます。	小尾 晋之介

講義科目一覧（後期博士課程）

基礎理工学専攻

基礎理工学特別研究第2

6単位

GRADUATE RESEARCH ON FUNDAMENTAL SCIENCE AND TECHNOLOGY 2

担当者（専修ごとに教員氏名50音順で配列）

数理科学専修	厚地 淳
数理科学専修	井口 達雄
数理科学専修	生駒 典久
数理科学専修	井関 裕靖
数理科学専修	太田 克弘
数理科学専修	小田 芳彰
数理科学専修	垣村 尚徳
数理科学専修	勝良 健史
数理科学専修	亀谷 幸生
数理科学専修	栗原 将人
数理科学専修	小林 景
数理科学専修	坂川 博宣
数理科学専修	白石 博
数理科学専修	曾我 幸平
数理科学専修	高橋 博樹
数理科学専修	田中 孝明
数理科学専修	種村 秀紀
数理科学専修	田村 明久
数理科学専修	服部 広大
数理科学専修	林 賢一
数理科学専修	早野 健太
数理科学専修	坂内 健一
数理科学専修	南 美穂子
数理科学専修	宮崎 琢也
物理学専修	江藤 幹雄
物理学専修	大橋 洋士
物理学専修	岡 朋治
物理学専修	古池 達彦
物理学専修	齊藤 圭司
物理学専修	白濱 圭也
物理学専修	高野 宏
物理学専修	千葉 文野
物理学専修	西村 康宏
物理学専修	中迫 雅由
物理学専修	能崎 幸雄
物理学専修	長谷川 太郎
物理学専修	檜垣 徹太郎
物理学専修	藤谷 洋平
物理学専修	古川 俊輔
物理学専修	山内 淳
物理学専修	山本 直希
物理学専修	渡邊 紳一
分子化学専修	垣内 史敏
分子化学専修	河内 卓彌
分子化学専修	近藤 寛
分子化学専修	犀川 陽子

分子化学専修	佐藤 隆章
分子化学専修	高尾 賢一
分子化学専修	千田 憲孝
分子化学専修	角山 寛規
分子化学専修	中嶋 敦
分子化学専修	羽曾部 卓
分子化学専修	古川 良明
分子化学専修	藪下 聡
分子化学専修	山田 徹
分子化学専修	吉岡 直樹
物理情報専修	足立 修一
物理情報専修	安藤 和也
物理情報専修	伊藤 公平
物理情報専修	井上 正樹
物理情報専修	内山 孝憲
物理情報専修	神原 陽一
物理情報専修	清水 智子
物理情報専修	田中 敏幸
物理情報専修	塚田 孝祐
物理情報専修	早瀬 潤子
物理情報専修	星野 一生
物理情報専修	堀 豊
物理情報専修	牧 英之
物理情報専修	松本 佳宣
物理情報専修	的場 正憲
物理情報専修	門内 靖明
物理情報専修	山本 直樹
物理情報専修	渡辺 宙志
生物化学専修	清水 史郎
生物化学専修	末永 聖武
生物化学専修	高橋 大介
生物化学専修	戸嶋 一敦
生物化学専修	藤本 啓二
生物化学専修	藤本 ゆかり
生物化学専修	松本 緑
生命システム情報専修	井本 正哉
生命システム情報専修	牛場 潤一
生命システム情報専修	岡 浩太郎
生命システム情報専修	榊原 康文
生命システム情報専修	佐藤 智典
生命システム情報専修	土居 信英
生命システム情報専修	舟橋 啓
生命システム情報専修	堀田 耕司
生命システム情報専修	松原 輝彦
生命システム情報専修	宮本 憲二

総合デザイン工学専攻

総合デザイン工学特別研究第2

6単位

GRADUATE RESEARCH ON INTEGRATED DESIGN ENGINEERING 2

担当者（専修ごとに教員氏名50音順で配列）

マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	石上 玄也
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	大宮 正毅
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	尾上 弘晃
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	加藤 健郎
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	小茂鳥 潤
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	澤田 達男
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	志澤 一之
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	杉浦 壽彦
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	松岡 由幸
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	三木 則尚
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	宮田 昌悟
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	森田 寿郎
マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	閻 紀旺
システム統合工学専修	青山 英樹
システム統合工学専修	大森 浩充
システム統合工学専修	大家 哲朗
システム統合工学専修	柿沼 康弘
システム統合工学専修	嘉副 裕
システム統合工学専修	桂 誠一郎
システム統合工学専修	小池 綾
システム統合工学専修	佐藤 洋平
システム統合工学専修	須藤 亮
システム統合工学専修	田口 良広
システム統合工学専修	長坂 雄次
システム統合工学専修	滑川 徹
システム統合工学専修	野崎 貴裕
システム統合工学専修	満倉 靖恵
システム統合工学専修	村上 俊之
システム統合工学専修	矢向 高弘
電気電子工学専修	青木 義満

電気電子工学専修	栗野 祐二
電気電子工学専修	池原 雅章
電気電子工学専修	石黒 仁揮
電気電子工学専修	岡田 英史
電気電子工学専修	神成 文彦
電気電子工学専修	木下 岳司
電気電子工学専修	久保 亮吾
電気電子工学専修	黒田 忠広
電気電子工学専修	斎木 敏治
電気電子工学専修	眞田 幸俊
電気電子工学専修	田邊 孝純
電気電子工学専修	津田 裕之
電気電子工学専修	寺川 光洋
電気電子工学専修	中野 誠彦
電気電子工学専修	野田 啓
電気電子工学専修	湯川 正裕
マテリアルデザイン科学専修	石樽 崇明
マテリアルデザイン科学専修	磯部 徹彦
マテリアルデザイン科学専修	今井 宏明
マテリアルデザイン科学専修	栄長 泰明
マテリアルデザイン科学専修	緒明 佑哉
マテリアルデザイン科学専修	海住 英生
マテリアルデザイン科学専修	片山 靖
マテリアルデザイン科学専修	小池 康博
マテリアルデザイン科学専修	佐藤 徹哉
マテリアルデザイン科学専修	白鳥 世明
マテリアルデザイン科学専修	チッテリオ, ダニエル
マテリアルデザイン科学専修	二瓶 栄輔
マテリアルデザイン科学専修	蛭田 勇樹
マテリアルデザイン科学専修	藤原 忍
マテリアルデザイン科学専修	山本 崇史

開放環境科学専攻

開放環境科学特別研究第2

6単位

GRADUATE RESEARCH ON SCIENCE FOR OPEN AND ENVIRONMENTAL SYSTEMS 2

担当者（専修ごとに教員氏名50音順で配列）

空間・環境デザイン工学専修	アルザン カバリエロ, ホルヘ
空間・環境デザイン工学専修	伊香賀 俊治
空間・環境デザイン工学専修	井上 京子
空間・環境デザイン工学専修	小國 健二
空間・環境デザイン工学専修	岸本 達也
空間・環境デザイン工学専修	小檜山 雅之
空間・環境デザイン工学専修	高橋 正樹
空間・環境デザイン工学専修	中澤 和夫
空間・環境デザイン工学専修	三田 彰
空間・環境デザイン工学専修	ラドヴィッチ, ダルコ
環境エネルギー科学専修	朝倉 浩一
環境エネルギー科学専修	荒井 規允
環境エネルギー科学専修	大村 亮
環境エネルギー科学専修	小川 邦康
環境エネルギー科学専修	奥田 知明
環境エネルギー科学専修	鈴木 哲也
環境エネルギー科学専修	寺坂 宏一
環境エネルギー科学専修	藤岡 沙都子
環境エネルギー科学専修	堀田 篤
環境エネルギー科学専修	横森 剛
応用力学・計算力学専修	安藤 景太
応用力学・計算力学専修	小尾 晋之介
応用力学・計算力学専修	高野 直樹
応用力学・計算力学専修	竹村 研治郎
応用力学・計算力学専修	深淵 康二
応用力学・計算力学専修	松尾 亜紀子
応用力学・計算力学専修	村松 真由
応用力学・計算力学専修	泰岡 颯治
情報工学専修	天野 英晴
情報工学専修	今井 倫太
情報工学専修	大槻 知明
情報工学専修	小原 京子
情報工学専修	金子 晋丈
情報工学専修	河野 健二

情報工学専修	斎藤 英雄
情報工学専修	斎藤 博昭
情報工学専修	笹瀬 巖
情報工学専修	重野 寛
情報工学専修	杉浦 裕太
情報工学専修	杉本 麻樹
情報工学専修	高田 眞吾
情報工学専修	寺岡 文男
情報工学専修	遠山 元道
情報工学専修	西 宏章
情報工学専修	萩原 将文
情報工学専修	藤代 一成
情報工学専修	松谷 宏紀
情報工学専修	山崎 信行
情報工学専修	山中 直明
オープンシステムマネジメント専修	稲田 周平
オープンシステムマネジメント専修	今井 潤一
オープンシステムマネジメント専修	岡田 有策
オープンシステムマネジメント専修	栗田 治
オープンシステムマネジメント専修	栗原 聡
オープンシステムマネジメント専修	志田 敬介
オープンシステムマネジメント専修	篠沢 佳久
オープンシステムマネジメント専修	鈴木 秀男
オープンシステムマネジメント専修	田中 健一
オープンシステムマネジメント専修	大門 樹
オープンシステムマネジメント専修	中西 美和
オープンシステムマネジメント専修	成島 康史
オープンシステムマネジメント専修	枇々木 規雄
オープンシステムマネジメント専修	増田 靖
オープンシステムマネジメント専修	松浦 峻
オープンシステムマネジメント専修	松川 弘明
オープンシステムマネジメント専修	松林 伸生
オープンシステムマネジメント専修	山口 高平
オープンシステムマネジメント専修	山田 秀
オープンシステムマネジメント専修	山本 零

基礎理工学専攻

科目名 単位数 (開講学期)	科目担当者	修士課程の学生の履修について
統合数理科学特別講義第1 2単位 (春学期特定期間集中)	休講	履修可 (※)
統合数理科学特別講義第2 2単位 (春学期特定期間集中)	栗原 将人, 大鹿 健一, 中村 博昭, 盛田 健彦	履修可 (※)

開放環境科学専攻

科目名 単位数 (開講学期)	科目担当者	修士課程の学生の履修について
環境科学技術・政策特論 2単位 (春学期)	植田 利久, 一ノ瀬 友博, 小林 博人, 鈴木 哲也, ラドヴィッチ, ダルコ, 中村 直, 三上 益弘	履修可 (※)
環境情報システム構築法 2単位 (春学期)	泰岡 顕治, 清木 康, 大越 匡, 深潟 康二, 川島 英之	履修可 (※)
グローバル環境政策特論 2単位 (秋学期)	栗田 治, 植田 利久, 蟹江 憲史, 小林 光, 高橋 桂子, 森田 香菜子, 佐々木 史織	履修可 (※)
大規模環境システム構築法 2単位 (秋学期)	畑山 明聖, 小尾 晋之介, 巖 網林, 菱田 公一, 深潟 康二, 泰岡 顕治, 岡野 邦彦, 三上 益弘, 高橋 桂子	履修可 (※)

※修士の登録番号で履修申告してください。

学外特別研修（インターンシップ）

「学外特別研修（インターンシップ）」では、各履修者が企業や学外研究機関等で指導を受けながら、実習・研修・研究を一定期間行います。学内教育だけでは得られない体験を通し、履修者が、職業意識の向上、学業と実務との関連性の知得を図り、さらに自分の適性を的確に把握できるようになることを意図しています。科目は「学外特別研修（インターンシップ）」（2単位）と「学外特別研修（長期インターンシップ）」（4単位）の二種類があります。

「学外特別研修（インターンシップ）」の所定様式は、以下のWebページからダウンロードができます。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/yagami/rikoken/internship.html>

「学外特別研修（インターンシップ）」（2単位）について

履修の手順

(1) インターンシップ受入れ先の選択

インターンシップの履修希望者は、次のA、Bどちらかの方法で受入れ先を探してください。

A. 就職関係掲示板のインターンシップ受入れ企業の中から探す。

この情報は、企業から募集があり次第、順次掲示していきます。

（就職資料室にある『インターンシップファイル』にも綴じてあります）。

B. 上記Aにはない企業・研究所等から自己開拓で探す。

（注：国外に留学し、「国外研究」科目として単位認定を希望する場合は、p.30を参照）。

受入れ先選択上の諸注意

(1) 研修期間は、実質15日間（3週間）以上であること。

(2) インターンシップのために他の授業科目を欠席することは、どの科目についても認めません。

(3) 課題研究、特別研究第1、特別研究第2の研究活動の一環として行うインターンシップではないこと。

※希望する企業等が決まったら、指導教員およびインターンシップ科目担当教員と相談してください。

（国内の大学における研究活動は、本科目の単位として認められない場合があります。）

(2) 「学外特別研修（インターンシップ）履修許可願い」（様式1）の提出

受入れ企業が決まったら、「学外特別研修（インターンシップ）履修許可願い」（様式1）に記入し、所属研究室の指導教員の許可印を得て、インターンシップ科目担当教員（連絡先は後述2）に、インターンシップ開始前までに提出してください。

(3) インターンシップ申込みに必要な手続きや書類の確認

各自、受入れ先に必要な手続きや書類を確認してください。

<必要書類>の例（参考）

①学外特別研修（インターンシップ）受入れ依頼状・・・受入れ先に対し、インターンシップ科目担当教員名で受入れを正式にお願いする書類。インターンシップ科目担当教員の元で配付します。

②在学証明書・・・証明書発行機で入手してください。

③履歴書・・・市販のものを利用してください。

④授業の趣旨説明書・・・インターンシップ科目担当教員の元で配付します。

(4) インターンシップ受入れ決定～インターンシップ開始前に必ず行うこと

① 学外研究・学会活動届の提出

用紙は、下記Webページの「各種届出用紙」からダウンロードもしくは矢上学生課にて配布しています。

<https://www.st.keio.ac.jp/students/01.html>

■提出先：学事担当（大学院インターンシップ係）まで

② 「学外特別研修（インターンシップ）誓約書」（様式2）の提出

前述の①の学外研究・学会活動届とホチキスで留め、①②を一緒に提出してください。

③ 研修先所在地・期間・研修先への連絡方法等は、予め家族等の近親者に知らせておいてください。

④ 資格外活動許可申請書の提出（対象：留学生のみ）

住所地为管轄する入国管理局にて手続きが必要です。

※許可に2週間ほどかかる場合がありますので、インターンシップ開始前までに許可を取得できるようスケジュールに注意して申請してください。(http://www.moj.go.jp/ONLINE/IMMIGRATION/16-8.html)

(5) インターンシップの実施（3週間以上）

研修初日に、先方の研修担当者に対し、次の2種類の書類を渡し、研修終了後1週間以内に理工学部学生課学事担当宛に返送してもらうように依頼してください。

①「学外特別研修（インターンシップ）評価報告書」（様式3）

※評価報告書は受入れ先の書式でもかまいません。

②返信用封筒（定型封筒、表には以下の理工学部学生課の住所を明記し、82円切手を貼付すること。）

〒223-8522 神奈川県横浜市港北区日吉3-14-1

慶應義塾大学理工学部学生課学事担当 学外特別研修（インターンシップ）係宛

(6) インターンシップ終了後に行うこと

①履修申告

インターンシップ終了後、直近の履修申告期間内に、必ず履修申告をしてください。インターンシップ実施前の履修登録はできません。（例：夏期に研修を行った場合には、秋学期の履修申告で登録する。）また、当該科目を履修申告できるのは一度のみです。

②レポートの作成

A4判3枚程度。テーマの説明、テーマに対する具体的な成果を記入。書式自由。

守秘義務のある事柄は記載しないでください。

レポートは、面接日までにインターンシップ科目担当教員に提出してください。

③インターンシップ科目担当教員との面接（履修申告後）

事前にインターンシップ科目担当教員に面接の申込みを行ってください。

(7) インターンシップの成績評価・通知について

インターンシップ科目担当教員が、面接、レポート、「学外特別研修（インターンシップ）評価報告書」（様式3）をもとに成績を評価します。不合格（単位とならない）と判断される場合もあります。

成績評価は、学期末に他の科目とともに通知されます。

「学外特別研修（長期インターンシップ）」（4単位）について

理工学研究科が例年開催する「長期インターンシップ説明会」に参加した企業でインターンシップを行う学生は、本科目の履修を認められる場合があります。

履修の手順

(1) 長期インターンシップの申請と決定

「長期インターンシップ説明会」に参加した企業の中で、希望する企業への申請を行い、企業側の意向に準じたマッチングにより受入れが決定します。研修先の自己開拓は認めません。申請にあたっては「指導教員承諾書」を学生課学生生活（キャリア支援）担当に提出してください。

本科目を履修するための要件は以下のとおりです。

①インターンシップ期間が実質50日間（10週間以上）であること。

②原則として学部4年次（9月入学者は修士1年次）の2月中旬頃～翌年度9月に実施すること。

③就職活動の一環ではないこと。

④研究活動（課題研究・特別研究第1）とは異なる内容であること

(2) インターンシップ開始前に学生が必ず行うこと

①事前書類の提出

用紙は学生課学生生活（キャリア支援）担当にて配布しています。

■提出先：学生課学生生活（キャリア支援）担当

- ・「研修受入承諾書」（研修受入先が発行するもの）
- ・「学外特別研修（長期インターンシップ）誓約書」
- ・「学外・学会活動届」
- ・「資格外活動許可申請書」（留学生のみ）

住所地を管轄する入国管理局にて手続きが必要です。

※許可に2週間ほどかかる場合がありますので、インターンシップ開始前までに許可を取得できるようスケジュールに注意して申請してください。

(<http://www.moj.go.jp/ONLINE/IMMIGRATION/16-8.html>)

②家族等の近親者に研修先所在地・期間・研修先への連絡方法等を知らせておくこと。

(3) インターンシップの実施

先方の研修担当者に「学外特別研修（長期インターンシップ）評価報告書」を渡し、研修終了後一週間以内に学生課学生生活（キャリア支援）担当宛に返送してもらうよう、依頼をしてください。用紙は学生課学生生活（キャリア支援）担当にて配布しています（受入れ先の書式でも構いません）。

※返送方法は電子データ・郵送のいずれでも構いません。郵送の場合は、学生本人が評価報告書と併せて返信用封筒（切手貼付）を受入れ先の研修担当者に渡してください。

(4) 長期インターンシップの履修申告

長期インターンシップの履修申告は研修を実施した年度の秋学期に行ってください。原則として履修申告までにインターンシップが終了している必要があります。

また、本科目を履修した人は必ず以下を行ってください。

①レポートの作成

インターンシップ科目担当教員および指導教員が所属する専修の学習指導副主任に提出してください。

詳細は「学外特別研修（インターンシップ）」（2単位）に準じます。

②インターンシップ科目担当教員および学習指導副主任との面接（履修申告後）

(5) インターンシップの成績評価・通知について

インターンシップ科目担当教員が、面接、レポート、「学外特別研修（長期インターンシップ）評価報告書」をもとに成績評価を行います。不合格（単位とにならない）と判断される場合もあります。成績評価は、学期末に他の科目とともに通知されます。

インターンシップ科目担当教員

インターンシップに行くうえで疑問点がある場合、インターンシップ先で緊急事態など何か困ったことが起きた場合には、下記のインターンシップ科目担当教員に連絡してください。

- ・基礎理工学専攻：星野 一生

(居室：25-506、内線：47569、ダイヤルイン：045-566-1693、e-mail:hoshino@appi.keio.ac.jp)

- ・総合デザイン工学専攻：青山 英樹

(居室：34-308、内線：43023、ダイヤルイン：045-566-1722、e-mail:haoyama@sd.keio.ac.jp)

- ・開放環境科学専攻：高田 真吾

(居室：26-110C、内線：43239、ダイヤルイン：045-566-1757、e-mail:michigan@ics.keio.ac.jp)

万一、インターンシップ科目担当教員が不在の場合は、学事担当（大学院インターンシップ係）に連絡してください。

- ・理工学部学生課（ダイヤルイン：045-566-1463、e-mail:igp-internship@adst.keio.ac.jp)

一級建築士試験に関する実務経験認定カリキュラム

2008年7月の国土交通省令により、「大学院において、建築物の設計または工事監理にかかる実践的な能力を培うことを目的として建築士事務所等で行う実務実習（インターンシップ）およびインターンシップに関連して必要となる科目の所定の単位数（30単位以上または15単位以上）を修得した場合に、2年または1年の実務の経験とみなされる」と決められています。

表1は、認定される実務経験の年数と必要単位数の関係を示しています。学部において国土交通大臣の指定する建築に関する科目を修めて卒業した者は、所定の単位を履修することにより、2年または1年の実務経験が認定されます。

表2は、必要単位数に関する制限を示しています。インターンシップ科目は最低4単位必要です。関連科目は、演習・実験・実習が最大8単位、講義が最大8単位まで必要単位数に算入できます。

表3は、インターンシップ科目およびインターンシップ関連科目群とその単位数、専門領域、それぞれの科目種別を示しています。科目群は、専門領域により異なります。意匠分野では最大2年、構造分野、設備分野は、最大1年の実務経験の認定が可能となっています。

なお、本認定は、2009年度大学院入学の学生から適用されます。それ以前に入学した学生は、従来どおり修士論文の内容により2年の実務経験の認定がなされます。

表1 実務経験と必要単位数

実務経験 2年	実務経験 1年
30単位以上	15単位以上

表2 科目種別毎の単位数の制限

インターンシップ科目	インターンシップ関連科目	
	演習・実験・実習	講義
4単位以上	8単位以下	8単位以下

表3 専門領域毎のインターンシップと関連科目群

科目名	単位	専門領域			種別	備考
		意匠	構造	設備		
建築設計スタジオA	4	○			インターンシップ	学内インターンシップ
建築設計スタジオB	4	○			インターンシップ	学内インターンシップ
建築設計学外研修A（意匠系）	4	○			インターンシップ	
建築設計学外研修B（意匠系）	4	○			インターンシップ	
建築設計学外研修C（意匠系）	4	○			インターンシップ	
建築設計学外研修D（意匠系）	4	○			インターンシップ	
建築設計学外研修A（構造系）	4		○		インターンシップ	
建築設計学外研修B（構造系）	4		○		インターンシップ	
建築設計学外研修A（設備系）	4			○	インターンシップ	
建築設計学外研修B（設備系）	4			○	インターンシップ	
建築計画学	2	○	○	○	インターンシップ関連科目	演習・実験・実習
建築デザイン工学	2	○	○	○	インターンシップ関連科目	演習・実験・実習
サステナブル建築・都市特論	2	○	○	○	インターンシップ関連科目	演習・実験・実習
建築構造デザイン学*1	2	○	○	○	インターンシップ関連科目	演習・実験・実習
建築形態分析	2	○	○	○	インターンシップ関連科目	演習・実験・実習
公共空間とコミュニケーション	2	○			インターンシップ関連科目	講義
建築安全工学	2	○	○	○	インターンシップ関連科目	講義
知的財産権特論	2	○	○	○	インターンシップ関連科目	講義
居住環境デザイン工学	2	○		○	インターンシップ関連科目	講義
計算固体力学入門*2	2		○		インターンシップ関連科目	講義
有限要素モデリング・シミュレーション*3	2		○	○	インターンシップ関連科目	講義
建築動力学	2	○	○	○	インターンシップ関連科目	講義
都市・建築レジリエンス特論*4	2	○	○	○	インターンシップ関連科目	講義
建築構成論	2	○	○	○	インターンシップ関連科目	講義
ランドスケープデザイン	2	○		○	インターンシップ関連科目	講義
構造のデザイン	2	○			インターンシップ関連科目	講義
現代アート空間論	2	○			インターンシップ関連科目	講義
経営計画・評価特論	2	○	○	○	インターンシップ関連科目	講義
計算構造力学	2		○		インターンシップ関連科目	講義
建築構造設計学	2	○	○		インターンシップ関連科目	講義
計算連続体力学	2		○	○	インターンシップ関連科目	講義
建築振動工学	2		○		インターンシップ関連科目	講義

*1 2011年度以前に建築構造設計学を履修した人は建築構造デザイン学を履修できません。

*2 2011年度以前に計算構造力学を履修した人は計算固体力学入門を履修できません。

*3 2011年度以前に計算連続体力学を履修した人は有限要素モデリング・シミュレーションを履修できません。

*4 2019年度に先取取得した場合でも、2020年度以降に大学院進学後のインターンシップ関連科目の単位として算入することはできません。

電気主任技術者免状取得について

慶應義塾大学理工学部電子工学科・システムデザイン工学科および慶應義塾大学大学院理工学研究科修士課程総合デザイン工学専攻に設置してある所定の学科目を履修し、卒業（大学院においては修了）した者で、取得学科目証明書および経済産業省令で定める他の必要書類を所轄の官公庁所定の規則に基づき申請し、法の定める条件に該当する場合には、主任技術者免状を経済産業大臣より受けることができる。（詳細は電気事業法第44条および主任技術者の資格等に関する省令等を参照）

主任技術者の資格や、免状交付申請に必要な書類などについては、理工学部履修案内を参照してください。

国際センター短期海外研修プログラム

全学部・研究科在籍生を対象に、夏季・春季休校期間中に開催されます。講義やディスカッションのほか大学内の寮生活をはじめとする多彩な諸活動を通して様々な異文化交流を体験することで国際性豊かな学生を育成することを目的としており、短期間で集中して国外学習を経験できる貴重な機会になっています。現地への出発前には事前研修を実施します。変更や新たなプログラムが追加されることもありますので、詳細は国際センターのホームページを確認してからご応募ください。なお、これらのプログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故ならび前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する場合がありますをあらかじめご了承ください。

〔問い合わせ先〕 学生部国際交流支援グループ（三田キャンパス） <http://www.ic.keio.ac.jp/>

「海外への留学」の「学内機関主催の短期プログラム」 詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。春季講座の詳細は、10月上旬ごろホームページで発表します。

〔夏季講座ガイダンス〕

3月26日（火） 矢上14棟201教室 13:40～14:30

4月3日（水） 日吉 ①第4校舎独立館D101教室（10:00～11:00）

②第4校舎独立館D101教室（13:00～14:00）

③第4校舎B棟J21教室（16:00～17:00）

4月5日（金） 三田 南校舎476番教室 13:00～14:00

4月5日（金） SFC Q11教室 16:30～18:00（前半部分で留学ガイダンスを実施予定）

〔夏季講座応募について〕

(1) オンライン登録 4月1日（月）～4月24日（水）

(2) 応募書類提出期間 4月1日（月）～4月24日（水）

(3) 選考結果発表 5月16日（木）

(1) ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座（米国）

テーマ：米国の歴史・社会、日米比較

全米でハーバード大学に次ぐ歴史を誇り、独立宣言の起草者トマス・ジェファーソンら3名の大統領を輩出した東部の名門大学で、日米比較を通じ米国文化について幅広く学びます。グループワークやワシントンDCへのフィールドトリップ、数多くの現地学生との交流機会もあります。

〔現地研修2018年度参考〕 2018年8月3日（金）～8月18日（土）

〔単位数〕 4単位 ※本講座の科目の取得単位は、理工学研究科では自由科目として取り扱われます。

〔募集人数〕 25名

(2) ケンブリッジ大学ダウニング・コレッジ夏季講座（英国）

テーマ：科学、国際関係論、国際ビジネス（いずれか1つ/今後変更の可能性あり）

前半2週間は英語の集中研修、後半2週間は複数の系列の中からテーマを1つ選択して受講します。自分の専攻分野を超えて、知識の幅を広げることも可能です。ケンブリッジ大学の学生がTA（Teaching Assistant）として同じ寮に宿泊しながら講座をサポートします。

〔現地研修2018年度参考〕 2018年8月4日（土）～9月1日（土）

〔単位数〕 4 単位 ※本講座の科目の取得単位は、理工学研究科では自由科目として取り扱われます。

〔募集人数〕 50名～62名

(3) オックスフォード大学クライストチャーチ・コレッジ夏季講座（英国）

テーマ：現代英国社会、国際ビジネス、国際関係論（いずれか1つ）

13名の英国の首相を輩出した、クライストチャーチ・コレッジで学ぶプログラムです。午前は英語の集中研修を行い、午後は複数の系列の中からテーマを1つ選択し学びます。宿泊するコレッジ内の学生寮での食事は、映画「ハリー・ポッター」の舞台となったダイニングホールを利用します。

〔現地研修2018年度参考〕 2018年8月13日（月）～9月9日（日）

〔単位数〕 4 単位 ※本講座の科目の取得単位は、理工学研究科では自由科目として取り扱われます。

〔募集人数〕 50名

(4) オックスフォード大学リンカーン・コレッジ夏季講座（英国）

テーマ：英国の歴史・政治・文化、シェークスピア演劇

800年もの伝統を持つオックスフォード大学で、20名という少人数で集中的に学ぶことができます。午前はディベートや関連トピックの講義、午後はプロの演劇ディレクターが指導する演劇のワークショップが行われます。プログラム最終日にはシェークスピア演劇を通して上演します。

〔現地研修2018年度参考〕 2018年8月17日（金）～9月1日（土）

〔単位数〕 4 単位 ※本講座の科目の取得単位は、理工学研究科では自由科目として取り扱われます。

〔募集人数〕 20名

(5) パリ政治学院春季講座（フランス）

テーマ：EUの政治・経済・社会・文化（使用言語：英語）

パリ中心部にある名門パリ政治学院で、EUの政治・経済・社会・文化およびEUと諸外国との国際関係について学びます。授業は英語で行われますが、フランス語を学ぶ機会もあります。EU関連機関の見学などのフィールドワークも組み込まれています。

〔現地研修2018年度参考〕 2019年2月9日（土）～3月9日（土）

〔単位数〕 4 単位 ※本講座の科目の取得単位は、理工学研究科では自由科目として取り扱われます。ただし、次年度春学期設置科目として認定のため、参加時に最終学年の場合は単位は付与されません。

〔募集人数〕 6名～15名

(6) クイーンズランド大学春季講座（オーストラリア）

テーマ：国際関係論

ブリスベンにある名門クイーンズランド大学で、国際関係学を学びます。多彩な講義のほか、州議会の訪問や政治の中心地である首都キャンベラへの2泊3日のショートトリップもあります。研修期間中の宿泊はホームステイが中心のため、現地家庭の生活を体験することができます。

〔現地研修2018年度参考〕 2019年2月24日（日）～3月9日（土）

〔単位数〕 2 単位 ※本講座の科目の取得単位は、理工学研究科では自由科目として取り扱われます。ただし、次年度春学期設置科目として認定のため、参加時に最終学年の場合は単位は付与されません。

〔募集人数〕 15名～20名

(7) シドニー大学春季講座（オーストラリア）

テーマ：グローバルビジネスマネジメント、異文化理解

オーストラリアで最も歴史のある名門シドニー大学で、主にグローバルビジネスマネジメントと異文化コミュニケーションを学びます。英語研修や豪文化を体感できるアクティビティ、さらに後半2週間の現地家庭でのホームステイなど、多角的にオーストラリア文化を体感できます。

〔現地研修2018年度参考〕 2019年2月26日（火）～3月19日（火）

〔単位数〕 2 単位 ※本講座の科目の取得単位は、理工学研究科では自由科目として取り扱われます。ただし、次年度設置科目として認定のため、参加時に最終学年の場合は単位は付与されません。

〔募集人数〕 20名

(8) タフツ大学春季講座（米国）

テーマ：米国における対東アジア外交政策

世界的に有名なタフツ大学で、フレッチャースクールの講師等から米国の対東アジア外交政策について学べます。大きな転換期を迎えた米国を体感しながら、国際関係学の最高峰で学べるチャンスです。講義をより深く理解する助けとなるよう、講義内容に沿ったワークショップも受けられます。

〔現地研修2018年度参考〕2019年2月25日（月）～3月9日（土）

〔単位数〕2単位 ※本講座の科目の取得単位は、理工学研究科では自由科目として取り扱われます。ただし、次年度設置科目として認定のため、参加時に最終学年の場合は単位は付与されません。

〔募集人数〕10名～15名

(9) シンガポールマネジメント大学春季講座（シンガポール）

テーマ：ソーシャル・イノベーション

アジア経済のハブであるシンガポールに滞在し、社会が抱える問題をどのように解決するか、その手法や社会的企業のモデルを学びます。シンガポールで理論を学んだ後、フィールドスタディのためアジアの第3国（2018年度はベトナム）に数日間滞在し、再びシンガポールに戻ってまとめのグループプレゼンテーションを行います。

〔現地研修2018年度参考〕2019年2月24日（日）～3月16日（土）

〔単位数〕2単位 ※本講座の科目の取得単位は、理工学研究科では自由科目として取り扱われます。ただし、次年度設置科目として認定のため、参加時に最終学年の場合は単位は付与されません。

〔募集人数〕10名～15名

グローバルリサーチインスティテュート（KGRI）設置講座

グローバルリサーチインスティテュート（KGRI）は、本学の関連する教育研究分野と密接に連携しながら、「長寿」「安全」「創造」の3つのクラスターにおいて文理融合研究や領域横断研究を推進しています。

このような研究活動を背景として、KGRI所属の教員および各分野から招聘した専門家を講師として、最先端の課題を取り上げた講座を開設します。

1. 設置科目

【春学期】リーダーシップ基礎（4単位）

※各科目の講義要綱は以下のURLから確認してください。

<https://gslbs.adst.keio.ac.jp/login.html>

2. 履修上の取り扱いについて

慶應義塾大学の各学部、研究科の学生が対象です。

履修の扱いについては各学部、研究科の履修案内で確認のうえ、履修申告をする必要があります。

【『リーダーシップ基礎』の履修にあたって】

本講座は、リーダーシップに関する指導をアクティブラーニング形式で行う。そのため、原則として毎回の出席が求められる。詳細については、第1回の講義において説明を行う。希望者が多い場合は、履修制限するための課題を出す可能性もあるので、希望する者は必ず初回に出席すること。

なお、ゲスト講師の都合により、各セッションの順番が入れ替わることもある。

関 係 規 程 抜 粹

理工学研究科在籍者に特に関わりの深い規程について抜粹してありますので、履修要項と合わせて参照してください。なお、大学院学則については、入学時に配布する慶應義塾大学大学院学則を参照してください。

1 学 位

1-1 学位規程（抜粹）

1-2 学位の授与に関する内規

1-3 理工学研究科の課程による博士学位審査規程

2 授業料減免

2-1 留学する学生の学費の取り扱いに関する規程

2-2 休学期間中の学費の取り扱いに関する規程

3 その他

3-1 大学院在学期間延長者取扱内規

3-2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学料
その他の学費に関する取扱内規

3-3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程

3-4 小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則

1 学位

1-1 学位規程（抜粋）

昭和31年2月17日制定
2018年12月12日改正

（目的）

第1条 本規程は、慶應義塾大学学部学則（大正9年5月5日制定）および慶應義塾大学大学院学則（大正9年5月5日制定）に規定するもののほか、慶應義塾大学が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

（学位）

第2条 ①本大学において授与する学位は次のとおりとする。

1 学 士

文学部	
人文社会学科	
哲学専攻	学士（哲学）
倫理学専攻	学士（哲学）
美学美術史学専攻	学士（美学）
日本史学専攻	学士（史学）
東洋史学専攻	学士（史学）
西洋史学専攻	学士（史学）
民族学考古学専攻	学士（史学）
国文学専攻	学士（文学）
中国文学専攻	学士（文学）
英米文学専攻	学士（文学）
独文学専攻	学士（文学）
仏文学専攻	学士（文学）
図書館・情報学専攻	学士（図書館・情報学）
社会学専攻	学士（人間関係学）
心理学専攻	学士（人間関係学）
教育学専攻	学士（人間関係学）
人間科学専攻	学士（人間関係学）
経済学部	学士（経済学）
法学部	学士（法学）
商学部	学士（商学）
医学部	学士（医学）
理工学部	
機械工学科	学士（工学）
電子工学科	学士（工学）
応用化学科	学士（工学）
物理情報工学科	学士（工学）
管理工学科	学士（工学）
数理科学科	
数学専攻	学士（理学）
統計学専攻	学士（工学）
物理学科	学士（理学）
化学科	学士（理学）
システムデザイン工学科	学士（工学）
情報工学科	学士（工学）
生命情報学科	学士（理学）または学士（工学）
総合政策学部	学士（総合政策学）
環境情報学部	学士（環境情報学）
看護医療学部	学士（看護学）
薬学部	
薬学科	学士（薬学）
薬科学科	学士（薬科学）

2 修 士

文学研究科	
哲学・倫理学専攻	修士（哲学）
美学美術史学専攻	修士（美学）
史学専攻	修士（史学）
国文学専攻	修士（文学）または修士（日本語教育学）
中国文学専攻	修士（文学）
英米文学専攻	修士（文学）
独文学専攻	修士（文学）
仏文学専攻	修士（文学）
図書館・情報学専攻	修士（図書館・情報学）
経済学研究科	修士（経済学）
法学研究科	修士（法学）、修士（公共政策） または修士（ジャーナリズム）
社会学研究科	
社会学専攻	修士（社会学）
心理学専攻	修士（心理学）
教育学専攻	修士（教育学）
商学研究科	修士（商学）
医学研究科	
医科学専攻	修士（医科学）
理工学研究科	
基礎理工学専攻	修士（理学）または修士（工学）
総合デザイン工学専攻	修士（理学）または修士（工学）
開放環境科学専攻	修士（工学）
経営管理研究科	修士（経営学）
政策・メディア研究科	
政策・メディア専攻	修士（政策・メディア）
健康マネジメント研究科	
看護学専攻	修士（看護学）
公衆衛生・スポーツ 健康科学専攻	修士（公衆衛生学）、修士 （医療マネジメント学）ま たは修士（スポーツマネジ メント学）
看護・医療・スポーツ マネジメント専攻	修士（看護学）、 修士（医療マネジメント 学）、修士（スポーツマネ ジメント学）または修士 （公衆衛生学）
システムデザイン・マネジメント研究科	
システムデザイン・ マネジメント専攻	修士（システムエンジニア リング学）または修士（シ ステムデザイン・マネジメ ント学）
メディアデザイン研究科	
メディアデザイン専攻	修士（メディアデザイン学）
薬学研究科	
薬科学専攻	修士（薬科学）
3 博 士	
文学研究科	
哲学・倫理学専攻	博士（哲学）
美学美術史学専攻	博士（美学）
史学専攻	博士（史学）
国文学専攻	博士（文学）
中国文学専攻	博士（文学）
英米文学専攻	博士（文学）
独文学専攻	博士（文学）
仏文学専攻	博士（文学）

図書館・情報学専攻	博士（図書館・情報学）
経済学研究科	博士（経済学）
法学研究科	博士（法学）
社会学研究科	
社会学専攻	博士（社会学）
心理学専攻	博士（心理学）
教育学専攻	博士（教育学）
商学研究科	博士（商学）
医学研究科	博士（医学）
理工学研究科	
基礎理工学専攻	博士（理学）または博士（工学）
総合デザイン工学専攻	博士（理学）または博士（工学）
開放環境科学専攻	博士（工学）
経営管理研究科	博士（経営学）
政策・メディア研究科	
政策・メディア専攻	博士（政策・メディア）
健康マネジメント研究科	
看護学専攻	博士（看護学）
公衆衛生・スポーツ	博士（公衆衛生学），博士（医療マネジメント学）または博士（スポーツマネジメント学）
健康科学専攻	
看護・医療・スポーツ	博士（看護学），
マネジメント専攻	博士（医療マネジメント学），博士（スポーツマネジメント学）または博士（公衆衛生学）
システムデザイン・マネジメント研究科	
システムデザイン・	
マネジメント専攻	博士（システムエンジニアリング学）または博士（システムデザイン・マネジメント学）
メディアデザイン研究科	
メディアデザイン専攻	博士（メディアデザイン学）
薬学研究科	
薬科学専攻	博士（薬科学）
薬学専攻	博士（薬学）

② 前項第3号に定めるほか博士（学術）の学位を授与することができる。

（学士学位の授与要件）

第2条の2 学士の学位は、大学を卒業した者に与えられる。

（修士学位の授与要件）

第3条 修士の学位は、大学院前期博士課程を修了した者に与えられる。

（課程による博士学位の授与要件）

第4条 博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に与えられる。

（論文による博士学位の授与要件）

第5条 博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という。）された者に与えられる。

（専門職学位の授与要件）

第5条の2 専門職学位は、専門職大学院の課程を修了した者に与えられる。

（学識の確認の特例）

第6条 ① 大学院博士課程における教育課程を終え、学位論文を提出しないで退学した者のうち、退学の日から起算して研究科委員会が定める年限以内に論文による博士学位を申請した者については、研究科委員会が適当と認めた場合、学識の確認の一部もしくはすべてを行わないことができる。

② 学位論文以外の業績および経歴の審査によって、研究科委員会が学識の確認の一部もしくはすべてを行う必要がないと認めた場合には、当該審査をもって学識の確認の一部もしくはすべてに代えることができる。

（課程による学位の申請）

第7条 ① 第3条の規定に基づき修士学位を申請する者は、各研究科の定めるところにより学位論文を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

② 第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に各研究科の定めるところにより学位論文および所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

（論文による学位の申請）

第8条 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に各研究科の定めるところにより学位論文および所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。

（審査料）

第9条 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者に対する審査料は、次のとおりとする。

- 1 本大学大学院博士課程の教育課程を終え学位論文を提出しないで退学した者 50,000円
- 2 本大学学士、修士または専門職の学位を与えられた者で前号の定め以外の者 70,000円
- 3 前2号のいずれにも該当しない者 100,000円
- 4 本塾専任教職員である者 20,000円
（医学研究科については40,000円）

（審査ならびに期間）

第10条 ① 修士および博士の学位論文の審査ならびにこれに関連する試験等の可否は、当該研究科委員会が判定する。

② 博士の学位論文の審査ならびにこれに関連する試験および学識の確認等は、論文受理後1年以内に終了するものとする。

（審査委員会）

第11条 研究科委員会は、学位論文の審査ならびにこれに関連する試験等を行うために、関係指導教授および関連科目担当教授2名以上からなる審査委員会（主査および副査）を設置しこれに当たらせる。ただし、必要がある場合は准教授または専任講師・講師（非常勤）等を特に審査委員会に加えることができる。

（審査結果の報告・判定方法）

第12条 ① 審査委員会は、論文審査の要旨ならびに試験の成績等を記録して研究科委員会に報告し、かつ、その意見を開陳する。

② 研究科委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立し、その3分の2以上の賛同をもって学位論文の審査ならびに試験の可否を決定する。

③ 前項の議決は、無記名投票をもって行う。

（学位授与）

第13条 ① 修士または博士の学位は、研究科委員会において学位論文の審査ならびに試験に合格した者に対し、学長が当該研究科委員会の報告に基づき授与する。

② 専門職学位は、当該研究科の修了要件を満たした者に対し、学長が当該研究科委員会の報告に基づき授与する。

(学位論文要旨の公表)

第14条 本大学は博士の学位を授与したとき、当該博士の学位を授与した日から3月以内にその論文の内容の要旨および論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表する。

(学位論文の公表)

第15条 ① 博士の学位を授与された者は、当該博士の授与を受けた日から1年以内に当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表し「慶應義塾大学審査学位論文」と明記するものとする。ただし、当該博士の学位の授与を受ける前にすでに公表したときはこの限りではない。

② 前項の規程にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、当該研究科委員会が適当と認めた場合、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本大学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

③ 博士の学位を授与された者が行う前二項の規程による公表は、本大学の協力を得て、インターネットの利用により行うものとする。

(学位の表示)

第16条 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、学位の後にこれを授与した本大学名を「(慶應義塾大学)」と付記するものとする。

(学位の取消)

第17条 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、または学位を得た者がその名誉を汚辱する行為があったときは、当該研究科委員会および大学院委員会の議を経てその学位を取消すものとする。

(学位記および書類)

第18条 学位記および学位授与申請関係書類の様式は、別表1から別表6までのとおりとする。

(規程の改廃)

第19条 この規程の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。ただし、第2条第1項第1号および第2条の2については大学評議会の議を経てこれを行う。

附 則 (2018年12月12日)

この規定は2019年4月1日から施行する。

イ 研究科委員会の合否判定議決に基づき、研究科委員長はその結果を速やかに学長に報告する。

ロ 学長は、研究科委員長の報告に基づき合格者に学位を授与する。

4 学位記は、学位授与式において授与する。

第3条 修士の学位授与および博士課程に在学している者に対する課程博士の学位授与に関しては、前第2条第3号と同様の手続を経て、当該年度末(3月23日)をもって学位を授与する。

② 前項の規定にかかわらず、修士課程においてあらかじめ研究科委員会の承認を得て、学位論文を提出締切期日までに提出せず次年度も引き続き在学している者が、研究科委員会の特に認めた期日までに学位論文を提出し課程修了を認定された場合には、春学期末日をもって学位を授与することができる。

③ 第1項の規定にかかわらず、後期博士課程(医学研究科および薬学研究科薬学専攻にあっては博士課程)に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書(医学研究科および薬学研究科薬学専攻については同条第4項のただし書)の適用を受け、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該春学期末日をもって学位を授与することができる。

④ 前項の規定にかかわらず後期博士課程(医学研究科および薬学研究科薬学専攻にあっては博士課程)に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書(医学研究科および薬学研究科薬学専攻については同条第4項のただし書)の適用を受け、在学する年度途中において特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

⑤ 第1項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱い内規」により在学する者が、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該第1学期末日をもって学位を授与することができる。

⑥ 前項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱い内規」により在学する者が、在学する年度途中において、特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

⑦ 学位記は、学位授与式において授与する。

第4条 学長は、学位を授与した者の氏名その他必要事項を取りまとめて、年2回大学院委員会の各委員に報告しなければならない。

第5条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

附 則 (平成23年12月13日)

この内規は、平成24年4月1日から実施する。

1-3 理工学研究科の課程による博士学位審査規程

昭和60年4月10日制定

平成17年4月6日改正

1-2 学位の授与に関する内規

昭和59年3月16日制定

平成23年12月13日改正

第1条 慶應義塾大学学位規程第13条(学位授与)に関する取扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 論文博士の学位授与および博士課程単位修得退学者で、再入学しない者に対する課程博士の学位授与に関しては、次の通り行うものとする。

- 1 学位授与日は、研究科委員会の議決日とする。
- 2 研究科委員会が学位論文審査合格を議決した日以降、「学位取得証明書」を発行できるものとする。
- 3 学位の授与手続きは、次の通りとする。

第1条 慶應義塾大学大学院理工学研究科の課程による博士の学位の審査は慶應義塾大学大学院学則および慶應義塾大学学位規程(以下学位規程という)に規程するもののほか、この規程の定めるところによる。

② 本大学大学院理工学研究科後期博士課程の所定の教育課程を終えた者が、この規程による博士の学位を申請できるのは、同後期博士課程への入学月から起算して6年以内(休学期間を除く)とする。

第2条 この規程による審査は論文と最終試験よりなる。

第3条 最終試験は博士の学位申請論文に関係ある学科目(以下

「関係学科目」という)と語学について行う。

第4条 前条の関係学科目の種類および範囲は理工学研究科委員会(以下研究科委員会という)においてその都度これを定める。

第5条 学位申請者は次の書類を所属する専攻を通じて研究科委員会に提出しなければならない。

1. 学位申請書 1通(様式別紙)
2. 論文 3部
3. 履歴書 1通(様式別紙)
(学歴、研究歴、職歴)
4. 論文目録 1通(様式別紙)
5. 主論文要旨 1通(様式別紙)
6. 関係著作等 1部

第6条 学位申請の受理の可否は研究科委員会においてこれを決定する。

第7条 研究科委員会は試験を行うべき関係学科目の種類および語学の種類を本人に通知しなければならない。

第8条 関係学科目および語学に関する試験は、研究科委員会がその都度定める試験委員会がこれを行う。試験委員は4名以上とし、そのうち1名を主査、他を副査とする。

第9条 論文の審査は研究科委員会がその都度定める審査委員会がこれを行う。審査委員は4名以上とし、そのうち1名を主査、他を副査とする。

第10条 試験は口頭試験および筆記試験によって行う。ただし、場合によりいずれか一方のみとすることができる。

第11条 審査委員会および試験委員会は、学位申請を受理したときから1年以内に審査および試験結果の報告書を研究科委員会に提出しなければならない。ただし、研究科委員会の決議によりこの期間を延長することができる。

第12条 学位規程第14条に基づく公表は「慶應義塾大学理工学部研究報告別冊」とする。

第13条 この規程の改廃は研究科委員会の決議による。

附 則(平成17年4月1日)

この規程は平成17年4月1日から施行する。

2 授業料減免

2-1 留学する学生の学費の取り扱いに関する規程

平成元年5月23日制定

平成28年12月2日改正

第1章 総 則

第1条 ① 慶應義塾大学学部学則(大正9年5月5日制定)第153条、慶應義塾大学大学院学則(大正9年5月5日制定)第124条および慶應義塾大学大学院法務研究科学則(平成15年12月5日制定)第24条により外国の大学に留学する学生の学費に関する取り扱いは、この規程の定めるところによる。

② 平成20年度以前に学部に入学者(第2学年編入学については平成21年度以前、第3学年編入学については平成22年度以前に入学者)および平成24年度以前に大学院に入学者が留年(以下、「平成20年度以前の学部留学」および「平成24年度以前の大学院留学」という。)する場合の学費に関する取り扱いは、この規程に別段の定めがある場合を除き、第4章の規定を優先して適用する。

第2条 ① この規程においては、留学を次の二つに区分する。

- 1 交換留学

外国の大学、学部または大学院研究科等との間で締結された、学生交換を含む国際交流協定に基づく留学を交換留学とする。

2 私費留学

前号以外の留学を私費留学とする。

② この規程に別段の定めがある場合を除き、交換留学における学費の取り扱いは第2章の規定を、私費留学における学費の取り扱いは第3章の規定を優先して適用する。

第3条 ① 留学による学費の減免を行う場合は、学期を単位として取り扱う。

② 減免の対象となる学期とは、学部または研究科が留学を許可した学期とする。

③ 減免の期間は、学部にあつては4学期間、大学院にあつては、第8条第2号に定める場合を除き、6学期間を超えないものとする。

④ 私費留学による減免の期間と学費の相互免除が含まれる交換留学の減免の期間は、通算して前項を適用する。

第4条 留学の許可を取り消された場合は、その間に減免した授業料または在学科、施設設備費および実験実習費の一部または全額を納入させることがある。

第5条 この規程の適用に当たり疑義を生じた場合は、その都度塾長が決定する。

第6条 この規程の改廃は、大学評議会および大学院委員会の議を経て塾長が決定する。

第2章 交換留学

第7条 学費の相互免除が含まれる交換留学については、減免の対象とはしない。ただし、交換留学の期間については第3条第4項を適用する。

第8条 学費の相互免除が含まれない交換留学における学費の取り扱いは次のとおりとする。

① 当該の協定による交換留学として学部または研究科が許可した学期について、その学期の学費の本人負担を減免する。ただし、代理徴収費用についてはこの限りではない。

② 前号の減免の期間は、大学院にあつては2学期間を超えないものとする。

③ 留学の許可を取り消された場合は、その間に減免した学費の一部または全額を納入させることがある。

④ 相手先大学または大学院に支払うべき学費、その他に変動があった場合は、本条の扱いを見直すものとする。

第3章 私費留学

第9条 私費留学における学費の取り扱いは、次のとおりとする。

留学を許可された学期の属する年度の授業料、施設設備費および実験実習費について、各学期において半額を減免する。ただし、学部においては、本大学での学習を奨励するため、入学から1年間の学費は全額納入させることとし、入学から2年目以降の学期について、留学による減免の対象とする。大学院においては、この限りではない。

第4章 平成20年度以前の学部留学および平成24年度以前の大学院留学

第10条 交換留学における学費の取り扱いについては、「第2章 交換留学」に定めるとおりとする。

第11条 私費留学における学費の取り扱いは次のとおりとする。

留学を許可された学期の属する年度の授業料または在学科、施設設備費および実験実習費について、各学期においては半額を減免する。ただし、法務研究科においては、各学期の授業料について全額を減免する。

第5章 会計手続

第12条 第8条における学費の会計手続は次のとおりとする。

① 各学期において学費の全額を減免する。ただし、代理徴収費

用についてはこの限りではない。

- ② 前号にかかわらず、平成20年度以前の学部留学および平成24年度以前の大学院留学（法務研究科に在籍する者を除く）については、各学期において授業料または在学科、施設設備費および実験実習費の半額を減免する。

附 則（平成28年12月2日）

この規程は、平成29年4月1日から施行し、留学開始日が平成29年4月1日以降の者に適用する。

2-2 休学期間中の学費の取り扱いに関する規程

平成20年11月11日制定

平成28年12月6日改正

（目的）

第1条 慶應義塾大学学部学則（大正9年5月5日制定）第152条により休学を認められた学部学生、慶應義塾大学学部学則（大正9年5月5日制定）第125条により休学を認められた大学院学生および慶應義塾大学大学院法務研究科学則（平成15年12月5日制定）第25条により休学を認められた大学院法務研究科学生（以下、「休学者」という。）の学費に関する取り扱いは、この規定に定めるところによる。

（対象）

第2条 この規定は、平成21年度以降学部に入学者（第2学年編入学については平成22年度以降、第3学年編入学については平成23年度以降に入学者、平成25年度以降大学院に入学者）に適用する。ただし、大学院法務研究科については、入学年度に拘わらず適用する。

（学費の取り扱い）

第3条 休学期間中の学費の取り扱いは、次のとおりとする。

- 1 大学院学生については、授業料、施設設備費および実験実習費（以下、あわせて「授業料等」という。）を減免する。
- 2 学部学生については、次のとおりとする。
 - ア 入学から1年間を除く休学期間中は「授業料等」を減免する。
 - イ 本大学での学習を奨励するため、入学から1年間の学費は全額納入させることとする。
 - ウ イの定めにかかわらず、次の理由で休学する場合は、審査の上、入学から1年間についても「授業料等」を減免することができるものとする。
 - （ア）母国における兵役義務
 - （イ）正課中の事故による傷害
 - （ウ）課外活動中の事故による傷害
 - （エ）地震・台風等の大規模な自然災害（激甚災害）の影響

（申請）

第4条 前条第2号ウの理由により休学する者が減免を申請する場合は所定の申請書および休学許可書に、次に定める書類を添えて学生総合センター長に提出しなければならない。

- 1 母国における兵役義務
徴兵を証明する書類
- 2 正課中の事故による傷害
診断書および履修科目証明書
- 3 課外活動中の事故による傷害
診断書および課外活動であることを証明する書類（学外行事届、学内集会届、届出書等）
- 4 地震・台風等の大規模な自然災害（激甚災害）の影響

休学を要することを証明する書類

（審査）

第5条 第3条第2号ウの審査は、大学奨学委員会がこれを行い、塾長が決定する。

（減免の取消し）

第6条 休学者が虚偽の申請その他不正な方法で減免を受けた場合には、減免の措置を取り消すとともに、すでに減免を受けた「授業料等」の全部または一部を納入させることができる。

（規定の改廃）

第7条 この規定の改廃は、大学奨学委員会ならびに大学院奨学委員会の議を経て、塾長がこれを決定する。

（所管）

第8条 この規定の運営事務は、学生部の所管とする。

附 則（平成28年12月6日）

この規定は、平成29年4月1日から施行する。

3 その他

3-1 大学院在学期間延長者取扱内規

昭和59年3月16日制定

平成26年12月9日改正

第1条 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科および薬学研究科薬学専攻にあつては博士課程）において、当該課程修了要件のうち学位論文の審査並びに最終試験を除き所定の教育課程を終えた後、引続き博士学位取得のために在学する者の取扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 在学期間延長を希望する者は、指導教授の許可を得て研究科委員会に「在学期間延長許可願」を提出し、承認を得なければならない。

第3条 研究科委員会は、研究継続の必要性等在学を延長する十分な理由があると認め、かつ教育並びに研究に支障のない場合、大学院学則第128条に定める在学最長年限を越えない範囲で、引続き1年間または次の学期末までの在学を許可できるものとする。

第4条 在学期間延長者が延長期間終了後も引続き在学を希望するときには、新たに「在学期間延長許可願」を提出し、研究科委員会の承認を得なければならない。

第5条 学則定員その他の理由から延長が認められない場合は、大学院学則第153条に定める研究生として受け入れることができる。

第6条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

附 則（平成26年12月9日）

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

3-2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学科料その他の学費に関する取扱内規

昭和59年3月30日制定

平成27年3月31日改正

第1条 本塾大学大学院において「学位の授与に関する内規」第3条第2項若しくは第3項により春学期末日をもって課程修了する者の学費は、次の通りとする。

- 1 在学科（毎年）もしくは授業料（毎年）
大学院学則第131条に定める金額の2分の1に相当する額
- 2 在籍基本料（毎年）
大学院学則第131条に定める金額の2分の1に相当する額
- 3 施設設備費（毎年）
大学院学則第131条に定める金額の2分の1に相当する額
- 4 情報ネットワーク登録・利用料（毎年）
大学院学則第131条に定める金額の2分の1に相当する額
- 5 実験実習費（毎年）
大学院学則第131条に定める金額の2分の1に相当する額

第2条 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科および薬学研究科薬学専攻にあつては博士課程）において「大学院在学期間延長者取扱内規」による在学期間延長者の学費は、次の通りとする。

- 1 在籍基本料
60,000円
 - 2 論文指導料
文、経済、法、社会、商、政策・メディア、経営管理、システムデザイン・マネジメント、メディアデザイン研究科
100,000円
医、理工、健康マネジメント、薬学研究科
180,000円
- ② 在学期間延長者が「学位の授与に関する内規」第3条第4項および第5項により年度途中の日をもって課程修了する場合の学費は、その課程修了の日が春学期末日までの者に限り前項に定める金額の2分の1に相当する額。

第3条 「大学院在学期間延長者取扱内規」第5条による研究生は、大学院学則第153条第2項に定める登録料を免除し、初年度に限り審査料を徴収しない。

第4条 この内規の改廃は、常任理事会の議を経て、塾長が決定する。

附 則（平成27年3月31日）

- 第1条** 在籍基本料、論文指導料の額は、スライド制を適用する。
第2条 この内規は、平成28年4月1日から施行する。

3-3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程

昭和52年4月12日制定
平成26年12月12日改正

第1条 小泉信三記念奨学金規程（昭和52年4月12日制定）第2条第1号に基づき、研究者の養成を目的として大学院に特別奨学金による奨学研究生を置く。

第2条 奨学研究生は、学部第4学年に在学し大学院への進学を志願する学生、または大学院に在学する学生の中から、これを選考する。

第3条 奨学研究生の選考は、各研究科委員会の推薦により、小泉基金運営委員会の議を経て学長がこれを決定する。

第4条 奨学研究生には特別奨学金として、月額30,000円を給付し、その期間は1年とする。ただし、審査の上、この期間を更新することができる。

第5条 この特別奨学金規程に関する事務は、学術研究支援部が担当する。

第6条 この規程に関する細則は別に定める。

附 則（平成26年12月12日）

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

3-4 小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則

昭和52年4月12日制定
平成26年12月12日改正

第1条 小泉基金運営委員会委員長は、毎年奨学研究生を公募する。

第2条 奨学研究生は、大学院に在学し、次に掲げる各号の条件を備えていなければならない。

- 1 学業成績・人物共に優秀であること。
- 2 将来、研究者たり得る資質ありと認められること。
- 3 健康であること。

第3条 奨学研究生を志望する者は、次の書類を整えて、保証人連署の上、学術研究支援部に提出しなければならない。

- 1 願書
- 2 履歴書
- 3 成績証明書大学学部1年から申請時までの成績証明書

第4条 各研究科委員会は、奨学研究生を志望した者について審議し、順位を付して小泉基金運営委員会に推薦しなければならない。

第5条 奨学研究生は、次の理由により身分に変更を生じた場合は、保証人連署の上、直ちに学長に届け出なければならない。

- 1 休学・復学・退学
- 2 本人および保証人の身分・住所その他重要事項の変更。ただし、本人が病気・死亡等の場合は、保証人が代って届け出なければならない。

第6条 小泉基金運営委員会が、次の理由により不適格と認めた場合は、奨学研究生としての資格を失うものとし、すでに支給した奨学金の全部もしくは一部を返還させることがある。

- 1 この奨学金設定の趣旨に反し、かつ塾生としての本分にもとる行為があった場合
- 2 提出書類に虚偽の記載をした場合
- 3 正当な理由なく前条に定める届け出を怠った場合

第7条 奨学研究生が退学した場合は、給付を打ち切るものとする。

附 則（平成26年12月12日）

この細則は、平成26年4月1日から施行する。

塾生、保護者・保証人の方々にかかわる個人情報の取扱い

- 1 義塾が取り扱う学生等（卒業後を含みます。）の個人情報の具体的な内容は、次のとおりです。
 - ① 塾生ないし塾員本人の氏名・住所・電話番号・生年月日・出身校等
 - ② 保護者・保証人の氏名・住所・電話番号（自宅および緊急連絡先）・塾生ないし塾員本人との続柄等
 - ③ 塾生ないし塾員の学籍・成績・健康診断・在学中のその他の活動履歴情報、寄付金・慶應カードの申し込みデータなど
- 2 個人情報を取り扱うに当たっては、あらかじめ利用目的を特定し、明示いたします。特定した利用目的以外には利用しません。また、利用目的を変更する場合は、本人に通知するか、義塾のホームページへの掲載、所定掲示板への掲示等により公表いたします。
- 3 個人情報は、以下の諸業務を遂行するために利用します。
 - ① 入学手続および学事に関する事務の処理、連絡および手続
 - ② 学生生活全般に関する事務の処理、連絡および手続
 - ③ 大学内の施設・設備利用に関する事務の処理、連絡および手続
 - ④ 寄付金・維持会・慶應カードの募集および評議員選挙等に関する書類ならびに義塾が発行する刊行物の発送
 - ⑤ 塾生ないし塾員本人および保護者・保証人に送付する各種書類の発送および諸連絡
 - ⑥ 上記①から⑤までに付随する事項
- 4 上記3の業務のうち、一部の業務を慶應義塾から当該業務の委託を受けた受託業者において行います。業務委託に当たり、受託業者に対して委託した業務を遂行するために必要となる範囲で、個人情報を提供することがあります。
- 5 三田会または同窓会から要請があったときは、当該三田会または同窓会に所属する者の個人情報を当該組織の活動に必要な範囲で提供することがあります。
- 6 慶應義塾は、上記3～5の利用目的の他には、特にお断りする場合を除いて個人情報を利用もしくは第三者への提供をいたしません。ただし、法律上開示すべき業務を負う場合や、塾生ないし塾員本人または第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を保護するために必要であると判断できる場合、その他緊急の必要があり個別の承諾を得ることができない場合には、例外的に第三者に個人情報を提供することがあります。
- 7 慶應義塾の個人情報保護に関する規程は、以下の URL でご覧頂くことができます。
URL <https://www.keio.ac.jp/ja/privacy-policy/index.html>

慶應義塾大学大学院理工学研究科

〒223-8522 横浜市港北区日吉3-14-1

(045) 563-1141 (代表) (045) 566-1463 (学生課学事担当)

慶應義塾Webサイト <https://www.keio.ac.jp/ja/>

理工学部・理工学研究科Webサイト <https://www.st.keio.ac.jp/>

理工学研究科	課程	学年
学籍番号		
氏名		